

# 山形大学農学部

2014年報

2015年4月

## 2014年報 目次

### 1. 管理運営

- (1) 平成26年度山形大学農学部概況（主な行事日程等） ..... 1
- (2) 農学部機構図 ..... 3
- (3) 農学部現員表 ..... 3
- (4) 職員組織 ..... 4
- (5) 農学部各種委員会一覧 ..... 6
- (6) 平成26年度農学部における発行印刷物一覧 ..... 7

### 2. 教育・研究活動

- (1) 平成27年度入学試験実施状況 ..... 8
- (2) 平成26年度在学者数 ..... 8
- (3) 卒業・修了後の進路 ..... 9
- (4) 平成26年度大学院農学研究科修了者について ..... 10
- (5) 教員の活動実績
  - ① 研究活動 ..... 12
  - ② 学会・社会活動 ..... 48
  - ③ 産学官など国内他機関との連携研究実績 ..... 81
  - ④ 海外研究者との研究活動 ..... 88
  - ⑤ 研究員等の受け入れ状況 ..... 94
  - ⑥ その他 ..... 96

### 3. 国際交流状況について

- (1) 学部間国際交流協定締結大学一覧 ..... 98
- (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの） ..... 99
- (3) 外国出張一覧 ..... 99
- (4) その他の国際交流の実施 ..... 101

### 4. 社会活動・地域貢献

- (1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧 ..... 103
- (2) 平成26年度社会・地域等の要請により派遣した職員一覧 ..... 104
- (3) 平成26年度他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧 ..... 106
- (4) 外部資金等の受け入れ状況
  - ・ 平成26年度科学研究費補助金交付決定一覧・分担金一覧 ..... 107
  - ・ 平成26年度奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況 ..... 109
- (5) 公開講座等大学開放実施状況 ..... 110

### 5. フィールド科学センターの概況等 ..... 113

### 6. 農学部図書館の概要等 ..... 131

### 7. 大型設備の設置状況 ..... 132

### 8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地、土地・建物の概要、配置図 ..... 133

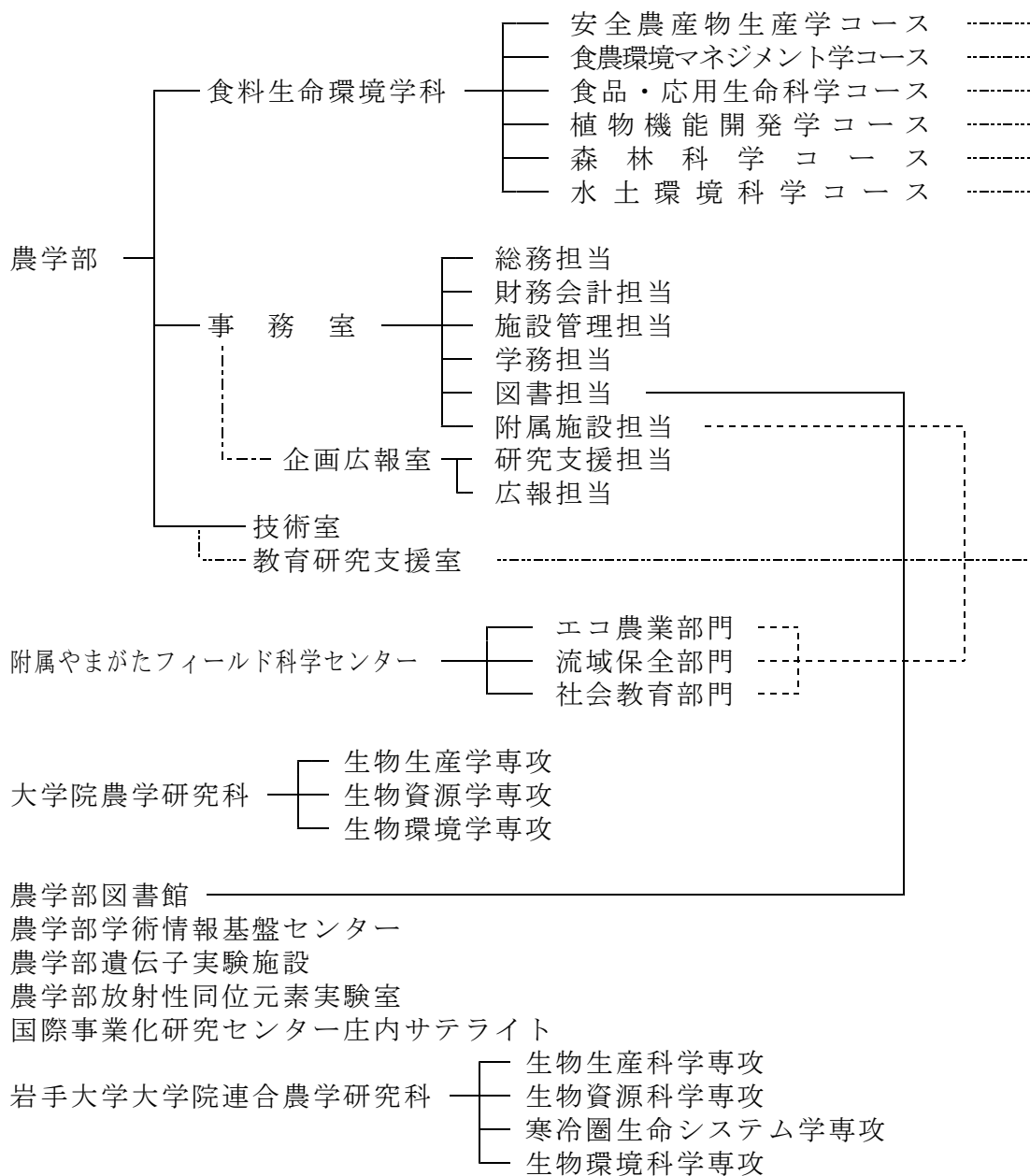
# 1. 管理運営

## (1) 平成26年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）

- 26. 4. 11 市民交流農園開園式
- 26. 5. 6 演習林入山式
- 26. 5. 30 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会総会
- 26. 6. 7 公開講座（～7月26日）
- 26. 6. 19 山形大学農場市（～12月11日）
- 26. 6. 22 リフレッシュセミナー
- 26. 7. 1 農学部地域産学官連携協議会
- 26. 7. 5 3年次編入学試験
- 26. 7. 12 ホームカミングデー
- 26. 7. 19 森の学校①
- 26. 7. 25 外交講座
- 26. 8. 2 農学部オープンキャンパス（小白川キャンパス）
- 26. 8. 3 農学部オープンキャンパス（鶴岡キャンパス）
- 26. 8. 3 女性研究者裾野拡大セミナー2014 in 鶴岡「女子高生のためのランチョンセミナーーこれからのキャリア形成を考える上でー」
- 26. 8. 4 夏期セミナー
- 26. 8. 18 (独)国際協力機構（JICA）の地域別研修「アフリカ地域（英語圏）稲作収穫後処理」コース（～9月25日）
- 26. 8. 26 在来作物実践講座「おしゃべりな畑」（～1月23日）
- 26. 9. 1 三大学合同研修会（～9月2日）
- 26. 9. 9 大学院入学試験
- 26. 9. 13 山形大学ビーチサッカー大会
- 26. 9. 20 ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」
- 26. 9. 30 庄内稲作を語る会
- 26. 10. 3 産学連携交流会
- 26. 10. 4 山大農場フェスティバル
- 26. 10. 9 農学紹介講座「農学の夕べ」（～12月11日）
- 26. 10. 9 ホームカミングデー
- 26. 10. 15 学部長杯ソフトボール大会
- 26. 10. 16 農学部留学生コミュニティ日本文化研修
- 26. 10. 18 森の学校②
- 26. 10. 23 ハラスメント防止に関する講演会
- 26. 10. 24 研究シーズ説明会・ビジネスマッチ
- 26. 10. 28 市民交流農園秋の芋煮交流会
- 26. 11. 2 鶴寿祭（～11月3日）
- 26. 11. 7 日本酒シンポジウム「Oh!洒落に日本酒de Night 2時限目」
- 26. 11. 14 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム「これからの森林・林業」
- 26. 11. 18 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携シンポジウム「第5回農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウムー私たちの挑戦ー」
- 26. 11. 20 推薦入学試験

26. 11. 25 女性研究者裾野拡大セミナー2014 in 鶴岡「企業に聞いてみよう！ー修士号を得て就職するメリットって!?ー」
26. 12. 2 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会スキルアップ研修会
26. 12. 16 庄内地区若手営農者農業の明日を語る会
26. 12. 17 鶴岡工業高等専門学校・山形大学工学部・山形大学農学部三機関連携情報交換会
27. 1. 7 大学院入学試験（2次募集）
27. 1. 23 在来作物実践講座「おしゃべりな畑」認定交付式
27. 2. 7 森の学校③
27. 2. 7 山形大学農学部・慶應義塾大学先端生命科学研究所・東北公益文科大学・鶴岡工業高等専門学校連携事業 知の拠点庄内シンポジウム「地方創生ー庄内の未来を創るー」
27. 2. 20 山形大学農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2015」
27. 2. 23 農学部地域連携推進協議会
27. 2. 25 個別学力試験（前期日程）
27. 3. 11 4年目のキャンドルナイト
27. 3. 12 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム
27. 3. 17 学位記授与式
27. 3. 23 大学院入学試験（3次募集）

(2) 農学部機構図



(3) 農学部現員表

(平成27年3月31日現在)

	教 員				その他の職員	合 計
	教 授	准教授	助 教	計		
現 員	29	30	7	66	60	126

(4) 職員組織

(平成27年3月31日現在)

学 部 長 西 澤 隆  
副 学 部 長 夏 賀 元 康  
副 学 部 長 林 田 光 祐

食料生命環境学科

学 科 長	小 沢 亙
安全農産物生産学コース主任	堀 口 健 一
食農環境マネジメント学コース主任	岩 鼻 通 明
食品・応用生命科学コース主任	木 村 直 子
植物機能開発学コース主任	村 山 哲 也
森 林 科 学 コー ス 主 任	高 橋 孝 悦
水 土 環 境 科 学 コー ス 主 任	安 中 武 幸

安全農産物生産学コース

教 授	夏 賀 元 康
教 授	西 澤 隆
教 授	藤 井 弘 志
教 授	平 智
教 授	堀 口 健 一
准教授	小笠原 宣 好
准教授	角 田 憲 一
准教授	長 谷 修
准教授	小 林 隆
准教授	片 平 光 彦
准教授	森 静 香
准教授	佐 藤 智
准教授	松 山 裕 城
助 教	松 本 大 生

食農環境マネジメント学コース

教 授	岩 鼻 通 明
教 授	小 沢 亙
准教授	角 田 毅
准教授	家 串 哲 生
准教授	藤 科 智 海
准教授	渡 辺 理 絵
助 教	保木本 利 行

食品・応用生命科学コース

教 授	三 橋 涉
教 授	小 関 卓 也
教 授	豊 増 知 伸
教 授	永 井 毅
教 授	木 村 直 子
教 授	加 来 伸 夫
教 授	塩 野 義 人
准教授	渡 辺 昌 規

植物機能開発学コース

教 授	村 山 哲 也
教 授	俵 谷 圭 太 郎
教 授	村 山 秀 樹
准教授	江 頭 宏 昌
准教授	程 為 国
准教授	笹 沼 恒 男
准教授	服 部 聡
准教授	及 川 彰
准教授	星 野 友 紀
助 教	網 干 貴 子

森林科学コース

教授 菊 間 満  
教授 野 堀 嘉 裕  
教授 高 橋 孝 悦  
教授 森 茂 太  
教授 林 田 光 祐  
教授 小 山 浩 正  
教授 芦 谷 竜 矢  
准教授 柳 原 敦  
准教授 菊 池 俊 一  
准教授 小 川 三四郎  
准教授 早 尻 正 宏  
准教授 江 成 広 斗

水土環境科学コース

教授 藤 井 秀 人  
教授 奥 山 武 彦  
教授 安 中 武 幸  
准教授 石 川 雅 也  
准教授 花 山 奨  
准教授 渡 邊 一 哉  
准教授 渡 部 徹 彦  
助 教 梶 原 晶 彦

テニユア・トラック

助 教 恩 田 弥 生

プロジェクト教員

助 教 伊 藤 紘 晃

附属やまがたフィールド科学センター  
センター長 吉 田 宣 夫

エコ農業部門

教授 吉 田 宣 夫  
准教授 池 田 和 生  
助 教 佐々木 由 佳

社会教育部門

教授 金 成 學  
教授 小 沢 互  
(兼任：食料生命環境学科)  
准教授 家 串 哲 生  
(兼任：食料生命環境学科)

流域保全部門

准教授 ロペス ラリー  
助 教 梶 原 晶 彦  
(兼任：食料生命環境学科)

事 務 職 員

事 務 長 大 谷 和 彦  
副 事 務 長 舟 橋 信 治  
総務担当上席係長 篠 塚 清 幸  
研究支援担当上席係長 菅 原 一 彰  
財務会計担当上席係長 齋 藤 敏 宏  
施設管理担当上席係長 阿 部 茂  
学務担当上席係長 片 桐 茂 則  
附属施設担当係長 池 田 正 憲  
図 書 担 当 係 長 安 藤 幸 子

(5) 農学部各種委員会一覧

- ・ 農学部運営会議 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部教員人事委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部コース主任会議 (H23. 4. 1 設置)
- ・ 農学部選挙管理委員会 (S28. 2. 16 設置)
- ・ 農学部利益相反マネジメント委員会 (H24. 5. 24 設置)
- ・ 農学部国際交流委員会 (H 5. 11. 18 設置)
- ・ 鶴岡地区事業場安全衛生委員会 (H16. 4. 1 設置)
- ・ 農学部遺伝子実験室運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部放射性同位元素実験室運営委員会 (H 8. 7. 1 設置)
- ・ 農学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 (H17. 7. 1 設置)
- ・ 農学部・農学研究科運営協議会 (S49. 10. 25 設置)
- ・ 農学部目標計画・評価分析委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部EM・広報委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部予算委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部学術情報基盤センター運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部学務委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部入学試験実施委員会 (S53. 5. 1 設置)
- ・ 農学部FD委員会 (H25. 4. 1 設置)
- ・ 附属やまがたフィールド科学センター運営委員会 (H18. 7. 1 設置)
- ・ 農学部図書館運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部教育支援室運営委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 連合農学研究科代議員 (H 2. 6. 8 設置)



## (6) 平成26年度農学部における発行印刷物一覧

### I 広報誌

- 1 山形大学農学部案内（2014年版）  
受験生や関係高等学校、企業への広報関係誌
- 2 農学部研究シーズ集  
農学部全教員の主要な研究テーマを紹介した民間企業等を対象とした冊子体

### II 自己点検・評価報告書等

- 1 山形大学農学部2013年報

### III 教育関係広報活動・報告書等

（学生向け冊子）

- 1 山形大学農学部・山形大学大学院農学研究科学生便覧  
学部・大学院学生向けの教育研究の案内
- 2 Syllabus 2014

（報告書等）

- 1 平成26年度学外実習（インターンシップ）実施報告書
- 2 学位論文抄録集
- 3 第8次森林計画

## 2. 教育・研究活動

(1) 平成27年度入学試験実施状況(外国人留学生を除く。)

### ○ 農学部入学試験

区分・学科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
推薦入試									
食料生命環境学科	30	31	38	31	38	13	19	13	19
小計	30	31	38	31	38	13	19	13	19
一般入試(前期)									
食料生命環境学科	95	137	118	131	111	60	49	59	43
小計	95	137	118	131	111	60	49	59	43
一般入試(後期)									
食料生命環境学科	30	99	93	99	93	21	19	13	8
小計	30	99	93	99	93	21	19	13	8
合計	155	267	249	261	242	94	87	85	70

### ○ 農学部3年次編入学試験

学 科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
食料生命環境学科	若干人	7	7	7	5	3	1	2	0
合計		7	7	7	5	3	1	2	0

### ○ 大学院農学研究科入学試験

専 攻	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
生物生産学専攻	16	11	3	6	2	8	2	8	2
生物資源学専攻	18	10	3	9	3	9	3	9	3
生物環境学専攻	14	5	4	5	4	5	3	5	3
合計	48	26	10	20	9	22	8	22	8

(2) 平成26年度 在学者数(外国人留学生を除く。平成26年5月1日現在)

### ○ 学 部

学 科	入学定員	現 員								合 計
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
食料生命環境学科	155	81	83	87	74	89	73	101	79	667
生物生産学専攻	55							4	1	5
生物資源学専攻	50							0	1	1
生物環境学専攻	50							3	1	4
合計		81	83	87	74	89	73	108	82	677

### ○ 大学院農学研究科

専 攻	入学定員	現 員						合 計
		1年次		2年次		合 計		
		男	女	男	女	男	女	
生物生産学専攻	16	14	2	9	3	23	5	28
生物資源学専攻	18	8	6	9	5	17	11	28
生物環境学専攻	14	4	5	10	5	14	10	24
合計	48	26	13	28	13	54	26	80

(3) 卒業・修了後の進路

卒業後の進路(学部)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
食料生命環境学科	161 (69)	40 (9)	7 (1)	75 (42)	38 (16)	113 (58)	1 (1)	99.1
生物生産学科	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	100.0
生物資源学科	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	100.0
生物環境学科	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	100.0
計	164 (70)	40 (9)	7 (1)	77 (43)	39 (16)	116 (59)	1 (1)	99.1

( )内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

食料生命環境学科	清水港飼料(株)、(株)幸楽苑(3名)、新潟中央農業共済組合、中越高等学校、サーモ(株)、東日本旅客鉄道(株)(4名)、(株)青木商店、城北麵工(株)、JAてんどう、大東精機(株)、(株)クリニカルサポート、(株)アグリコ静岡、(株)ビコンジャパン、長野信用金庫、(株)サタケ、(株)トラストライフ、新潟交通(株)、(株)ヨークベニマル、DACグループデイリーインフォメーション東北支社、さくらメディカル(株)、(株)玉澤総本店、日本銀行釧路支店、JAみちのく村山、コープみらい、山形県農業協同組合中央会、(株)小久保製作所、(株)榮太樓總本舗、(株)阿部蒲鉾店、よねや商事(株)、(株)エー・ピー・カンパニー、東京HARTクリニック、サンマルコ食品(株)、医療社団法人レディースクリニック京野、伊藤製パン(株)、協栄信用金庫、東匠三全、伊藤ハムデイリー(株)、北都銀行、佐藤(株)、(株)ユニバース、日新製菓(株)、(株)中外フーズ、(株)ニチレイフーズ山形工場、鶴岡工業高等専門学校、カネコ種苗(株)、(株)カトーコーポレーション(3名)、常陽銀行、土地地質(株)、(株)林牧場、(株)グレープストーン、(株)北日本吉野家、(株)サンデー、出羽庄内森林組合、宮城中央森林組合、富士ソフトビューロ(株)、ファーストプライウッド(株)、土屋食品(株)、(株)カネコ・コーポレーション、(株)ナルサワコンサルタント、鹿児島土木設計(株)、山形県土地改良事業団体連合会(2名)、イオンフードサプライ(株)、相馬地方広域水道企業団、(株)テイコク、(株)主婦の店、(株)アイティ・イト、(株)セイコーマート
生物生産学科	千葉県立高等学校実習助手
生物資源学科	(株)東北ハム
生物環境学科	(株)星野リゾート

修了後の進路(大学院農学研究科《修士課程》)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学専攻	8 (2)	0 (0)	3 (1)	4 (0)	1 (1)	5 (1)	0 (0)	100.0
生物資源学専攻	10 (4)	1 (0)	1 (0)	8 (4)	0 (0)	8 (4)	0 (0)	100.0
生物環境学専攻	13 (4)	1 (0)	1 (1)	8 (3)	3 (0)	11 (3)	0 (0)	100.0
計	31 (10)	2 (0)	5 (2)	20 (7)	4 (1)	24 (8)	0 (0)	100.0

( )内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学専攻	(株)キセキ東北、日本工営(株)、自営業(農業)(2名) 農林水産省
生物資源学専攻	雪印種苗(株)、神奈川レディースクリニック、東北森永乳業(株)、日新製菓(株)、正田醤油(株)、一般財団法人材料科学振興財団、(株)プロトリーフ
生物環境学専攻	パシフィックコンサルタンツ(株)、(有)タクセスビューロー、(株)キタック、日本植生(株)、(株)ホクト、和光技研(株)、凸版印刷(株)、独立行政法人森林総合研究所森林育種センター 環境省、国土交通省、埼玉県庁

## (4) 平成26年度大学院農学研究科修了者について

## ○生物生産学専攻

講座	氏名	論文題目	指導教員名
農業生産学	井上 俊美	山形県の農協園芸事業における課題と今後の方向性—G農協のりんご販売事業を事例として—	金 成学
生産生態制御学	岩澤 薫	2種の機械除草が土着天敵類の発生に与える影響	佐藤 智
生産生態制御学	小澤 耕平	チャオプラヤ川流域に生息する大腸菌の系統発生解析と薬剤耐性遺伝子の起源推定	渡部 徹
農業生産学	木村 直道	山形県における最近の気候変動と果樹の生育および果実品質の変化ならびに生産者の意識と対応	平 智
農業生産学	齋藤 大地	リンドウの生育特性に関する基礎的研究	小笠原 宣好
生産生態制御学	土田 健太	水稻の場所特異的養分管理による窒素の減肥	角田 憲一
農業生産学	李 雪	Changes in fruit quality of strawberries as influenced by seasonal changes -A possibility of summer production-	西澤 隆
生産生態制御学	KURNIAWAN ANDREAS HENDRACIPTA	OCCURRENCE OF ARTHROPODS IN CONVENTIONAL AND ORGANIC FARMING OF DADACHA-MAME	佐藤 智

## ○生物資源学専攻

講座	氏名	論文題目	指導教員名
生物資源利用化学	岡田 朋未	グルタチオンの摂取が血漿レドックスに及ぼす影響	木村 直子
生物資源利用化学	関 史恵	ニンジン細胞周期停止因子と選択的オートファジー基質受容体との相互作用について	三橋 涉
生物資源利用化学	曾田 直紀	庄内沿岸汽水堆積物中の嫌氣的メタン酸化反応を担う微生物群の活性及び多様性に関する研究	服部 聡
生物資源利用化学	千葉 光浩	イネにおけるモミラクトン輸送体遺伝子の探索	豊増 知伸
生物機能調節学	平田 諒	コムギ連遺伝資源としての日本在来野生ムギ類カモジグサの多様性評価	笹沼 恒男
生物資源利用化学	二村 美恵	高等植物の細胞周期停止因子とアブシジン酸受容体との相互作用の検討	三橋 涉
生物機能調節学	星野 由貴	アルデヒド還元酵素遺伝子欠損が雌マウスの生殖機能に及ぼす影響	木村 直子
生物資源利用化学	向田 拓弥	ネギへのリン酸施肥削減のための菌根菌の利用とイネのリン酸獲得能の品種間差	俵谷 圭太郎
生物機能調節学	渡辺 連	シスチン・グルタミン酸トランスポーター遺伝子欠損が卵と卵巣機能の加齢に及ぼす影響	木村 直子
生物資源利用化学	AHDIAR FIKRI MAULANA	Isolation and characterization of mycorrhizal and endophytic fungi from forest soils in Indonesia	俵谷 圭太郎

○生物環境学専攻

講 座	氏 名	論文題目	指導教員名
地域環境科学	菊地 朋希	異なる生物種の相互性が成立する農業用水路の環境構造	渡邊 一哉
森林環境資源学	小林 峻大	イヌワシ保全を目的とした列状間伐地の伐採幅と再刈り払いがノウサギ誘引効果に及ぼす影響	林田 光祐
地域環境科学	佐藤 真樹	クロマツ林におけるCH <sub>4</sub> とN <sub>2</sub> O収支にニセアカシアが与える影響	ロペス・ラリー
森林環境資源学	戸貝 直樹	津波被害海岸林におけるクロマツ・アカマツの根系発達	菊池 俊一
森林環境資源学	芳賀 学	風衝地である朝日連峰三方境における環境保全に配慮した新たな植生回復技術の検討	菊池 俊一
森林環境資源学	花井 滉大	多様な微地形と高木種を有する小流域における樹洞の出現頻度と分布の特徴	林田 光祐
森林環境資源学	林 香名	河川環境の変化に伴うバイカモ衰退のメカニズムの検討	菊池 俊一
森林環境資源学	原 慶	火山性荒原における発達初期段階の植生被覆マウンドに土壤水分が与える影響	菊池 俊一
森林環境資源学	本田 詩織	海岸林を構成する広葉樹種の耐塩水性と萌芽力に基づく津波に対する耐性	林田 光祐
森林環境資源学	南 佳織	宮城県海岸クロマツ林における収量—密度図の構築	野堀 嘉裕
森林環境資源学	向井 堯徳	Longifoleneの自動酸化と生成物の抗蟻活性	芦谷 竜矢
地域環境科学	侯 瑩	農業情報化の実態と農家における農業情報の活用—山形県JAあまるめを事例として—	小沢 互
地域環境科学	高田 矩行	グリーン電力証書取引の実態と今後の展望	家串 哲生

## (5)教員の活動実績

### ①研究活動

#### 安全農産物生産学コース

#### 夏賀元康

##### 1-① 論文

- (1) 施肥溝切り機を用いたネギ栽培における生産性改善に関する研究(第1報), 農業食料工学会誌, 76(6) 533-540, 2014年09月, 共著
- (2) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第5報), 農業食料工学会東北支部報, 61 23-30, 2014年12月, 共著
- (3) In Situ Estimation of the Constituents of Green Soybean (Edamame) Pod using Near-Infrared Transmission Spectroscopy, Journal of Biosystems Engineering, 39(4) 352-356, 2014年12月, 共著
- (4) 施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の効率的作業技術に関する研究, 農業食料工学会東北支部報, 61 31-34, 2014年12月, 共著
- (5) フキ用皮むき機の開発, 農業食料工学会東北支部報, 61 19-22, 2014年12月, 共著
- (6) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第6報), 農業食料工学会東北支部報, 61 31-34, 2014年12月, 共著

##### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 農業食料工学会第73回年次大会, 国内会議, 2014年05月, 那覇(沖縄), 近赤外分光法によるヤギ生乳の異物混入の検査, 口頭(一般)
- (2) 農業食料工学会第73回年次大会, 国内会議, 2014年05月, 那覇(沖縄), フキ用皮むき機の開発(第2報), 口頭(一般)
- (3) 農業食料工学会第73回年次大会, 国内会議, 2014年05月, 那覇(沖縄), 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究, 口頭(一般)
- (4) 農業食料工学会第73回年次大会, 国内会議, 2014年05月, 那覇(沖縄), 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第6報 表面スペクトルからの中性化深さの推定, 口頭(一般)
- (5) 農業食料工学会第73回年次大会, 国内会議, 2014年05月, 那覇(沖縄), 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断-第5報 小型分光装置による劣化の診断の検討-, 口頭(一般)
- (6) 国際食品工業展FOOMA2014アカデミックプラザ, 国内会議, 2014年06月, 東京, フキ用皮むき機の開発, 口頭(一般)
- (7) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 山形市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第5報) -小型分光装置による劣化の診断の検討-, 口頭(一般)
- (8) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 山形市, フキ用皮むき機の開発, 口頭(一般)
- (9) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 山形市, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の効率的作業技術に関する研究 -チェーンポット連結の効率化-, 口頭(一般)
- (10) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 山形市, 近赤外分光法によるヤギ生乳の異物混入の検査, 口頭(一般)
- (11) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 山形市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第6報) -近赤外分光法による中性化深さの劣化の診断-, 口頭(一般)
- (12) 第16回 全国山羊サミットin山形, 国内会議, 2014年10月, 山形大学農学部鶴岡キャンパス, 近赤外分光法によるヤギ生乳の品質測定に関する研究, 口頭(一般)
- (13) 日本農作業学会2015(平成27)年度 春季大会, 国内会議, 2015年03月, 千葉市, 代かき同時散播での播種特性に関する研究(第1報) -播種深度と種子の分布特性-, 口頭(一般)

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) ISMAB2014 International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering, 国際会議, 2014年05月, Ilan, Taiwan, VEGETABLE SOYBEAN (EDAMAME) SORTING MACHINE USING IMAGE PROCESSING, ポスター(一般)
- (2) ISMAB2014 International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering, 国際会議, 2014年05月, Ilan, Taiwan, PRELIMINARY STUDY ON THE SCREENING OF GOAT MILK ADULTERATION USING NEAR INFRARED SPECTROSCOPY, ポスター(一般)

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 農産物・食品の安全と品質の確保技術(第6回) -米の品質測定の過去・現在・未来-, 農業食料工学会, 農業食料工学会誌, 76(4) 303-309, 2014年07月
- (2) フォトセンサーと画像処理技術を活用したエダマメ用高精度選別機械の開発(第2報), 食品資材研究会, New Food Industry, 56(9) 8-20, 2014年09月

## 西澤 隆

### 1-① 論文

- (1) Nishizawa, T. 2014. Present status and future outlook of plant factories in Japan. *Advances in Horticultural Science* 28(2): 84-89.
- (2) Solaiman, A.H.M., T. Nishizawa\*, M. Khatun and S. Ahmad. 2014. Morphological characterization and genetic diversity studies of promising brinjal genotypes for hybridization program in Bangladesh. *Journal of Advances in Agriculture*. 3(3):226-236.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 西澤 隆・佐々木文平・池田 弥生・柘植 貴子. 2014. 白色有機EL照明を用いたサラダナ栽培に関する研究. 園学要旨 平26東北支部. 23-24.
- (2) 西澤 隆・鈴木 泰人・伊藤聡子・伊藤政憲. 2014. 株元冷却処理が四季成り性イチゴ(*Fragaria x ananassa*) 'サマーティアラ' の果実品質に及ぼす影響. 園学研13別2, '14[野菜]. 234.

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Nishizawa T., S. Takaki, K. Ikeda, T. Arai, X. Li, Y. Motomura, K. Nara, M.M. Rahman, R. Chakraborty and T.S. Roy. 2014. Histological traits of starch granules of local potato (*Solanum tuberosum* L.) varieties in Bangladesh. The 3rd Asia Pacific Symposium on Postharvest Research, Education and Extension (APS 2014). O43.
- (2) Nara K., M. Horie, Y. Motomura and T. Nishizawa. 2014. Effects of cooking bananas on their antioxidant components. The 3rd Asia Pacific Symposium on Postharvest Research, Education and Extension (APS 2014). P46.
- (3) Motomura Y., J. Sugawara, T. Aikawa, K. Nara and T. Nishizawa. 2014. Changes in free and bound polyphenol contents and antioxidant activities in melon flesh during fruit development. The 3rd Asia Pacific Symposium on Postharvest Research, Education and Extension (APS 2014). O158.

## 藤井弘志

### 1-① 論文

- (1) 中島宏和・森静香\*・藤井弘志 (2014) 山形県庄内地域における有機栽培水稲の生育、養分吸収、収量構成要素の特徴. 日本土壌肥料学雑誌, 85(3): 200-214.
- (2) 中島宏和・森静香\*・藤井弘志 (2014) 山形県庄内地域における有機栽培水田の土壌肥沃度の特徴. 日本土壌肥料学雑誌, 85(3): 215-222.
- (3) 松田裕之・中場勝・森静香\*・藤井弘志 (2014) 山形県における1980年以降の気象推移が最高分けつ期のイネ生育に与える影響. 日本作物学会紀事, 83(3): 242-248.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤侑・森静香・松本由美・藤井弘志(2014):イネ科植物ヨシ燃烧資材の水稲育苗の養分供給利用、および資材評価に関する研究、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、98
- (2) 檜原勇太・森静香・及川彰・松本由美・藤井弘志(2014):ケイ酸による塩分付着害軽減機構に関する研究、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、99
- (3) 松本由美・森静香・田中豪・澤口依那・藤井弘志(2014):亜リン酸肥料の施用が水稲の高温障害に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、99
- (4) 横島千剛・二瓶幸也・松本由美・森静香・藤井弘志(2014):塩害水田における水稲の収量に及ぼす代かき排水と製鋼スラグ肥料の施用効果、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、98
- (5) 藤井弘志・森静香(2015):塩害水田における水稲の収量、ケイ酸吸収量に及ぼす製鋼スラグ肥料の施用効果、日本鉄鋼協会第169回春季大会、9-17

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会
- (2) 日本鉄鋼協会産発プロジェクト「鉄鋼スラグによる東日本大震災で被災した沿岸田園地域の再生
- (3) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携研究
- (4) ケイカル研究会(東京):3月18日25人

## 平 智

### 1-① 著書

- (1) 山形大学農学部果樹園芸学研究室編、2015、ふくしま・会津美里町のみしらず柿と高田梅、杉葉堂印刷、山形、(共著)

### 1-② 論文

- (1) Yuki, M., D. Matsumoto, K. Ikeda and S. Taira. 2014. Effects of wound treatments to flower organs on fruit set, development, and quality in sweet cherry (*Prunus avium*. L.). Adv. Hort. Sci. 28: in press.
- (2) 木村直道・平 智・松本大生、2015、山形県における最近の気象変動と主要果樹の生態および果実品質の動向ならびに果樹生産者の意識と対応、山形大学紀要(農学)、17: 87-99

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 平 智・木村直道・松本大生(2014):山形県の果樹生産者の気象変動に対する意識と対応策に関するアンケート調査、人間植物関係学会雑誌、14(別冊):8-9

## 堀口健一

### 1-① 論文

- (1) Shin-ichi Tagawa, Ken-ichi Horiguchi, Norio Yoshida and Toshiyoshi Takahashi (2014): Changes in vitamin A added to a fermented total mixed ration prepared with reed canarygrass (*Phalaris arundinacea* L.). Animal Science Journal, 85, 787-791.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 堀口健一・寒河江 豊・池原 彩・田川伸一・星 光雄・松山裕城・吉田宣夫・高橋敏能(2014):エクストルーダ処理飼料用米の給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響. 東北畜産学会報, 64(2), 33.
- (2) 松山裕城・寒河江 豊・堀口健一・小野木重弥・吉田宣夫・高橋敏能(2014):肥育豚における膨軟化粳米サイレージの給与が発育ならびに肉質に及ぼす影響. 東北畜産学会報, 64(2), 33.

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Xijiu Jin, Norio Yoshida, Ken-ichi Horiguchi, Hiroki Matsuyama (2014): Effects of rainfall on Dietary Cation Anion Differences (DCAD) of rice straw. Proceeding of the 5th China-Japan-Korea Grassland Conference.



## 吉田宣夫

### 1-① 著書

- (1) 吉田宣夫(2014):飼料用米の生産・給与技術マニュアル 2013年度版, 独立行政法人 農研機構, 平成27年3月, 1-212
- (2) 吉田宣夫(2014):稲発酵粗飼料の産・給与技術マニュアル 第6版, (一社)日本草地畜産種子協会・農林水産省生産局, 平成27年3月, 1-195

### 1-② 論文

- (1) CAO, Yang; Zang, Yanqing; Liu, Huawei; Zhong, Rongzhen; Yoshida, Norio; Zhou, Daowei: Digestion, ruminal fermentation, and nitrogen retention by sheep fed fresh or fermented total mixed ration containing Chinese wildrye [*Leymus chinensis* (Trin.) Tzval.] or chopped dry corn stover, *Animal Science Journal*

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Xijiu Jin, Norio Yoshida, Ken-ichi Horiguchi and Hiroki Matsuyama(2014): Effects of rainfall on Dietary Cation Anion Differences (DCAD) of rice straw. Proceedings of Japan-China-Korea Grassland conference, 181.

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 吉田宣夫(2014): 飼料用米および稲発酵粗飼料の生産・給与の現状と将来展望、JATAFFジャーナル, 2014(5), 19-23.
- (2) 吉田宣夫(2014): 初めての飼料米給与、どこに気を付ける?、現代農業, 2014(5), 254-259.
- (3) 吉田宣夫(2014): 飼料用米の生産を増やし、定着させるために必要なこと、地上, 2015(2), 30-31.
- (4) 吉田宣夫(2015): 初めての飼料米、牛に給与するときどこに気を付ける?、別冊 現代農業, 2015(3), 126-129.
- (5) 吉田宣夫(2015): 話題 飼料用米の現状と今後の課題、畜産の情報, 2015(4), 2-4.
- (6) 吉田宣夫(2015): 飼料用米の生産・利用の促進を考える、月刊時JA, 2015(4), 24-27.
- (7) 吉田宣夫(2015): 主原料として飼料用米を38.5%も使った乳牛用配合飼料が完成、Dairy News, 2015(4), 7637-7644.

## 小笠原宣好

### 1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 小笠原宣好・大場麻由・栗田哲人 (2014): カリウム資材およびカルシウム資材の投与がシクラメンの生育に及ぼす影響、園芸学会東北支部平成26年度大会研究発表要旨、41-42.
- (2) 齋藤大地・日影孝志・小笠原宣好 (2015): ササリンドウ系品種`安代のさわかぜ`の分枝形態、園芸学研究、14別冊1、228.

## 角田憲一

### 1-① 著書

- (1) K. Kakuda (2014) The Sago Palm, Ed. The society of sago palm studies, Kyoto University Press, 178-186

### 1-② 論文

- (1) Y. Yamamoto, K. Omori, Y. Nitta, K. Kakuda, Y. B. Pasolon, R. S. Gusti, A. Miyazaki, T. Yoshida (2014): Changes of leaf characters in sago palm (*Meteroxylon sago* Rottb.) after trunk formation. *Tropical Agriculture and Development*, 58, 43-50

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 土田健太・角田憲一・佐々木由佳・真壁周平・安藤豊(2014): 水稲のSite-specific nutrient managementによる窒素の減肥、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、90
- (2) 佐々木由佳・丹野友樹・原あかり・真壁周平・角田憲一・安藤豊(2014): 2種の有機質資材の連用がただちや豆収量に与える影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、107
- (3) 角田憲一・中村康太・福田翔太・佐々木由佳・真壁周平・安藤豊(2014): 水田における施肥窒素の長期追跡、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、97

## 長谷 修

### 1-① 論文

- (1) 鈴木智貴・大竹裕規・長谷 修・生井恒雄(2014)(平成26年) 山形県庄内地方におけるメヒシバいもち病の発生生態。日本植物病理学会報, 80(2): 88-97

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 小林 隆・菅野洋光・西森基貴・神田英司・兼松誠司・長谷 修(2014)地球温暖化によるイネ紋枯病の発生変動予測[2014,6,2-4.日本植物病理学会大会、札幌市] 日本植物病理学会報 2014, 80: 263(講要).
- (2) 寺岡 徹・浦山俊一・加藤 優・福原敏行・小林 隆・長谷 修・有江 力・森山裕充(2014)日本国内で発生したイネいもち病病斑からのMagnaporthe oryzae chrysovirus 1 近縁マイコウイルスの検出 [2014,6,2-4.日本植物病理学会大会、札幌市] 日本植物病理学会報 2014, 80: 272(講要).
- (3) 加藤 優・浦山俊一・福原敏行・小林 隆・長谷 修・有江力・森山裕充・寺岡 徹(2014)日本国内で採取されたイネいもち病菌マイコウイルスMoCV1の性状解析[2014,6,2-4.日本植物病理学会大会、札幌市] 日本植物病理学会報 2014, 80: 272(講要).
- (4) 長谷修・安藤正・小林 隆(2014)有機栽培イネにおけるいもち病菌接種後の防御関連遺伝子の発現解析[2014,6,2-4.日本植物病理学会大会、札幌市] 日本植物病理学会報 2014, 80: 279(講要).
- (5) 石川智浩・薄瑠子・大内花帆子・小松健太郎・平山未佳子・谷中沙妃・安藤正・小林隆・長谷修(2014)籾殻燃焼灰を用いた水稲育苗がもみ枯細菌病およびいもち病の発病程度に及ぼす影響 [2014,9,25-26.日本植物病理学会大会党北部会、盛岡市] 日本植物病理学会報 2015, 81: 57(講要).

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Katoh, Y., Urayama, S., Fukuhara, T., Fuji, S., Kobayashi, T., Hase, S., Komatsu, K., Arie, T., Moriyama, H. and Teraoka, T. (2014) Molecular characterization of new MoCV1-related mycoviruses isolated from Japanese isolates of rice blast fungus. 第3回日韓植物病理学会合同シンポジウム 2014,10,23-24. 大韓民国、プサン市

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 八田早紀・小林隆・長谷 修(2014): 有機栽培イネの病害抵抗性誘導(研究報告) 山形県有機農業技術研究会-有機農業を科学する-2015,3,13場所 山形大学農学部
- (2) Hase, S., Ando, T. and Kobayashi, T. Study on the Induced Resistance of Rice Grown in an Organic Farming System. 4th International Workshop on Sustainable Rice Production. Nigata University Dec19-20th, 2014 (研究報告)

## 小林 隆

### 1-① 論文

- (1) A.Sugihiro, I.Toyoaki, K.Takeru, K.Takashi, M.Toshiyuki, H.Ken-ichiro, T.Seiya and T.Hideki(2014) : Impact of organic crop management on suppression of bacterial seedling diseases in rice. Organic Agriculture , 4, 187-196
- (2) K.Eiji, K.Hirimitsu, O.Sayuri, S.Teruhisa, Y.Ryuhei, K.Takashi and I.Toshiki(2014): Estimation of cool summer damage in the Tohoku region based on the MRI AGCM. Journal of Agricultural Meteorology, 70, 187-198

- (3) 大久さゆり、菅野洋光、小林隆 (2014) : 高解像度気象データを用いた東北地方におけるイネ葉いもち発生予察モデル(BLASTAM)の検証. 天気, 62, 5-15

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 小林隆、菅野洋光、西森基貴、神田英司、兼松誠司、長谷修(2014) : 地球温暖化によるイネ紋枯病の発生変動予測、日本植物病理学会報、80、263.
- (2) 菅原幸哉、小林隆、関矢博幸、兼松誠司、中山壮一(2014) : 低温焼成籾殻灰の施用によるイネのケイ酸含量の変化といもち病発病程度への影響、日本植物病理学会報、80、261.
- (3) 寺岡徹、浦山俊一、加藤優、福原敏行、藤晋一、小林隆、長谷数、小松健、有江力、森山裕充(2014) : 日本国内で発生したイネいもち病病斑からのMagaporthe oryzae chrysovirus 1近縁マイコウィルスの検出、日本植物病理学会報、80、272.
- (4) 加藤優、浦山俊一、福原敏行、藤晋一、小林隆、長谷数、小松健、有江力、森山裕充、寺岡徹(2014) : 日本国内で採取されたイネいもち病菌マイコウィルスMoCV1の性状、日本植物病理学会報、80、272.
- (5) 長谷修、安藤正、小林隆(2014) : 有機栽培イネにおけるいもち病菌接種後の防御関連遺伝子の発現解析、日本植物病理学会報、80、279.
- (6) 小林隆(2015) : 農作物警戒情報を活用した病害防除、平成26年度東北地域稲栽培研究会(招待講演)

## 片平光彦

### 1-① 論文

- (1) 施肥溝切り機を用いたネギ栽培における生産性改善に関する研究(第1報), 農業食料工学会誌, 76(6) 533-540, 2014年11月, 共著
- (2) フキ用皮むき機の開発, 農業食料工学会東北支部報, 61 19-22, 2014年12月, 共著
- (3) 近赤外分光法によるコンクリート建造物の劣化の診断(第6報), 農業食料工学会東北支部報, 61 27-30, 2014年12月, 共著
- (4) 近赤外分光法によるコンクリート建造物の劣化の診断(第5報), 農業食料工学会東北支部報, 61 23-24, 2014年12月, 共著
- (5) 施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の効率的作業技術に関する研究, 農業食料工学会東北支部報, 61 31-34, 2014年12月, 共著
- (6) In Situ Estimation of the Constituents of Green Soybean (Edamame) Pod using Near-Infrared Transmission Spectroscopy, Journal of Biosystem Engineering, 39(4) 352-356, 2015年01月, 共著
- (7) 寒冷地での夏どりネギ栽培に向けた無加温ビニルハウスにおけるセルトレ育苗条件が生育と収量に及ぼす影響, 園芸学研究, 14(1) 25-35, 2015年01月, 共著

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 農業食料工学会 第73回 年次大会, 国内会議, 2014年05月, 琉球大学, 近赤外分光法によるヤギ生乳の異物混入の検査, 口頭(一般)
- (2) 農業食料工学会 第73回 年次大会, 国内会議, 2014年05月, 琉球大学, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究, 口頭(一般)
- (3) 農業食料工学会 第73回 年次大会, 国内会議, 2014年05月, 琉球大学, フキ用皮むき機の開発(第2報), 口頭(一般)
- (4) 農業食料工学会 第73回 年次大会, 国内会議, 2014年05月, 琉球大学, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第6報 表面スペクトルからの中性化深さの推定, 口頭(一般)
- (5) 農業食料工学会 第73回 年次大会, 国内会議, 2014年05月, 琉球大学, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第5報 小型分光装置による劣化の診断の検討, 口頭(一般)
- (6) 平成26 年度農業経営者研修『排水対策』, 国内会議, 2014年07月, 大潟村, 野菜栽培での排水対策について, 口頭(基調)
- (7) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 郡山市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第5報), 口頭(一般)
- (8) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 郡山市, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の効率的作業技術に関する研究 一チェーンポット連結の効率化一, 口頭(一般)

- (9) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 郡山市, フキ用皮むき機の開発, 口頭(一般)
- (10) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 郡山市, 近赤外分光法によるヤギ生乳の異物混入の検査, 口頭(一般)
- (11) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2014年08月, 郡山市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第6報), 口頭(一般)
- (12) 特別市民講座(第6次産業を考える), 国内会議, 2014年11月, 寒河江市技術交流プラザ, 農業用機械の開発(使われる機械のデザイン), 口頭(基調)
- (13) 農作業学会春季大会, 国内会議, 2015年03月, 千葉県柏市, 代かき同時散播での播種特性に関する研究(第1報)ー播種深度と種子の分布特性ー, 口頭(一般)
- (14) 農作業学会春季大会, 国内会議, 2015年03月, 千葉県柏市, 施肥同時溝切り機を用いた栽培が長ネギ根の伸長に与える影響, 口頭(一般)

#### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) 7th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering, 国際会議, 2014年05月, Yilan, Taiwan, Vegetable soybean (edamame) sorting machine using image processing, ポスター(一般)
- (2) 2014国際食品工業展, 国際会議, 2014年06月, 東京ビッグサイト, フキ用皮むき機の開発, 口頭(一般)
- (3) 黒竜江八一農墾大学研究報告会, 国際会議, 2014年11月, 黒竜江省大慶市, Development of green soybean sorting machine and power farming system of welsh onion, 口頭(基調)

#### 1-④ その他の研究活動

- (1) フォトセンサと画像処理技術を活用したエダマメ用高精度選別機械の開発(第2報), 株式会社食品資材研究会, new food industry, 56(9) 8-20, 2014年09月

## 森 静香

#### 1-① 論文

- (1) 中島宏和・森静香\*・藤井弘志(2014) 山形県庄内地域における有機栽培水稲の生育、養分吸収、収量構成要素の特徴. 日本土壤肥料学雑誌, 85(3): 200-214.
- (2) 中島宏和・森静香・藤井弘志(2014) 山形県庄内地域における有機栽培水田の土壤肥沃度の特徴. 日本土壤肥料学雑誌, 85(3): 215-222.
- (3) 松田裕之・中場勝・森静香・藤井弘志(2014) 山形県における1980年以降の気象推移が最高分けつ期のイネ生育に与える影響. 日本作物学会紀事, 83(3): 242-248.

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤侑・森静香・松本由美・藤井弘志(2014): イネ科植物ヨシ燃烧資材の水稲育苗の養分供給利用、および資材評価に関する研究、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、98
- (2) 檜原勇太・森静香・及川彰・松本由美・藤井弘志(2014): ケイ酸による塩分付着害軽減機構に関する研究、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、99
- (3) 松本由美・森静香・田中豪・澤口依那・藤井弘志(2014): 亜リン酸肥料の施用が水稲の高温障害に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、99
- (4) 横島千剛・二瓶幸也・松本由美・森静香・藤井弘志(2014): 塩害水田における水稲の収量に及ぼす代かき排水と製鋼スラグ肥料の施用効果、日本土壤肥料学会講演要旨集、60、98
- (5) 藤井弘志・森静香(2015): 塩害水田における水稲の収量、ケイ酸吸収量に及ぼす製鋼スラグ肥料の施用効果、日本鉄鋼協会第169回春季大会、9-17

#### 1-③ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会
- (2) 東北創生研究所

## 佐藤 智

### 1-① 論文

- (1) A. F. G. Dixon, S. Sato & P. Kindlmann (2015): Evolution of slow and fast development in predatory ladybirds. *Journal of Applied Entomology*.
- (2) Pavel Kindlmann, Hironori Yasuda, Yukie Kajita, Satoru Sato and Anthony F. G. Dixon (2015): Predator efficiency reconsidered for a ladybird-aphid system. *Frontiers in ecology and evolution*.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤 智・粕淵 辰昭・Dina W. Trisnawati・Vira K. Dewi・安田 弘法(2015)水田生物の多様性と  
その役割、第59回日本応用動物昆虫学会講演要旨集、S2.
- (2) 岩澤 薫・佐藤 智 (2015)2種の機会除草法が節足動物の発生に与える影響、第59回日本応用  
動物昆虫学会講演要旨集、55.
- (3) Kurniawan Andreas・Satoru Sato(2015)Occurrence of arthropods in conventionalandorganic  
Dadacham-mame fields、第59回日本応用動物昆虫学会講演要旨集、83.
- (4) 大塚 武志・佐藤 智(2015)採餌期間がナミテントウ幼虫の生活史特性に及ぼす影響、第59回日  
本応用動物昆虫学会講演要旨集、148.
- (5) 鈴木 理・佐藤 智(2015)農法が畦畔と水田の地表性クモ類の発生量に及ぼす影響、第59回日本  
応用動物昆虫学会講演要旨集、62.

## 松山裕城

### 1-① 著書

- (1) 松山裕城(2014)第6章 飼料の給与、草地管理指標-飼料作物生産利用技術編-、日本草地畜産種  
子協会

### 1-② 論文

- (1) M. Miyaji, H. Matsuyama, and K. Hosoda (2014) : Effect of substituting brown rice for corn on  
lactation and digestion in dairy cows fed diets with a high proportion of grain. *Journal of Dairy  
Science*, 97, 952-960

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 松山裕城、寒河江豊、堀口健一、小野木重弥、吉田宣夫、高橋敏能(2014)肥育豚における膨軟化  
粳米サイレージの給与が発育ならびに肉質に及ぼす影響、第64回東北畜産学会福島大会
- (2) 堀口健一、寒河江豊、池原彩、田川伸一、星光雄、松山裕城、吉田宣夫、高橋敏能(2014)エクスト  
ル-ダ処理飼料用米の給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響、第64回東北畜産学会福島大会
- (3) 小島陽一郎、松山裕城、阿部佳之、天羽弘(2014):搾乳牛への温水給与が飲水量及び飲水行動に  
及ぼす影響、2014年度農業施設学会大会
- (4) 宮地慎、松山裕城、野中和久(2015)トウモロコシ代替として飼料用玄米を混合した発酵TMRの貯蔵  
に伴う発酵品質、飼料成分、貯蔵ロスの変化、2015年度日本草地学会信州大会
- (5) 宮地慎、松山裕城、野中和久(2015)飼料用玄米あるいはトウモロコシを混合した発酵TMRの貯蔵  
に伴う第一胃内分解特性の変化、2015年度日本草地学会信州大会
- (6) 松山裕城(2014)飼料用イネのウシへの利用、日本科学者会議山形支部例会

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 松山裕城(2014)稲発酵粗飼料の飼料特性とTMR調製、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第  
6版、92-101
- (2) 松山裕城(2014)乳用牛への給与、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第6版、108-112

## 池田和生

### 1-① 論文

- (1) Nongluk Charoenchongsuk, Kazuo Ikeda, Akihiro Itai, Akira Oikawa, Hideki Murayama (2015) : Comparison of the expression of chlorophyll-degradation-related genes during ripening between stay-green and yellow-pear cultivars. *Scientia Horticulturae*, 181, 89-94
- (2) Motoko Yuki, Daiki Matsumoto, Kazuoi Ikeda and Satoshi Taira(2014) Effects of wound treatments to flower organs on fruit set, development, and quality in sweet cherry(*Prunus avium* L.) *Adv. Hort. Sci.*,28, 231-235

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 池田和生, 瀬賀美貴, 高橋柚稀, 高橋由信, 村山秀樹(2014)着色タイプの異なる赤着色系セイヨウナシのアントシアニンの蓄積, 園学研13別2, 343
- (2) 高橋由信, 山本俊哉, 安達栄介, 池田和生(2015)オウトウの自家和合性遺伝子検出技術の開発とオウトウの交雑不和合群の分類, 園学研14別1, 290

## 佐々木由佳

### 1-① 論文

- (1) Shuhei Makabe-Sasaki, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, and Ho Ando (2014). Effect of slag silicate fertilizer on silicon content of rice plants grown in paddy fields on the Shounai Plain, Yamagata, Japan. *Soil Science and Plant Nutrition* 60, 708-721

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 土田健太・角田憲一・佐々木由佳・真壁周平・安藤豊 (2014.9) 水稻のSite-specific nutrient managementによる窒素の減肥. 日本土壤肥料学会講演要旨集 60, 90
- (2) 角田憲一・中村康太・福田翔太・佐々木由佳・真壁周平・安藤豊 (2014.9) 水田における施肥窒素の長期追跡. 日本土壤肥料学会講演要旨集 60, 97
- (3) 真壁周平・Shah Moinur Rahaman・角田憲一・佐々木由佳・安藤豊 (2014.9) 節水栽培が水稻のケイ酸吸収に与える影響. 日本土壤肥料学会講演要旨集60, 99
- (4) 佐々木由佳・丹野友樹・原あかり・真壁周平・角田憲一・安藤豊 (2014.9) 2種の有機質資材の連用がただちや豆収量に与える影響. 日本土壤肥料学会講演要旨集60, 107

## 松本大生

### 1-① 論文

- (1) YUKI, M., MATSUMOTO, D., IKEDA, K. and TAIRA, S. (2014): Effects of wound treatments to flower organs on fruit set, development, and quality in sweet cherry (*Prunus avium* L.) *Advance in Horticultural Science*, 28, 231-235
- (2) 木村直道, 平 智, 松本大生. (2015): 山形県における最近の気象変動と主要果樹の生態および果実品質の動向ならびに果樹生産者の意識と対応 *山形大学紀要(農学)*, 17, 87-99

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 松本大生・町田義典・安達栄介・平 智 (2014)人工培地上におけるカンカオウトウの花粉管伸長にS-RNaseが及ぼす影響, 園学研, 14別(1), 106.

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Daiki Matsumoto, Ryutaro Tao. (2014): Formation of the SCF complex with the F-box proteins encoded by genes linked to the S locus in *Prunus*. 7th Rosaceous Genomics Conference. USA.

## 食農環境マネジメント学コース

### 岩鼻 通明

#### 1-① 論文

- (1) 岩鼻通明「震災特集上映をめぐる現代民俗—映画祭の観客アンケートを通じた試論」村山民俗28,2014.6.p.14-21.
- (2) 岩鼻通明「映画館をめぐる現代民俗—鶴岡まちなかキネマを事例として」山形民俗28,2014.11.p.7-14.

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 岩鼻通明(2014):歴史地理学会大会シンポジウム「旅・観光・歴史遺産」オーガナイザー
- (2) 岩鼻通明・加藤和徳(2014):「置賜盆地の村絵図に描かれた石造物」東北地理学会秋季大会
- (3) 岩鼻通明(2015):「戸川安章先生の復刻論文と鶴岡市のまちづくり」庄内民俗学会1月例会(致道博物館にて)

#### 1-③ その他の研究活動

- (1) 岩鼻通明(2014):新刊紹介:高木大祐著『動植物供養と現世利益の信仰論』村山民俗28,2014.6.p.75.
- (2) 岩鼻通明(2014):紹介:渡辺幸任著『出羽三山信仰と月山筍』東北民俗48,2014.6.p.77-78.
- (3) 岩鼻通明(2014):紹介:原淳一郎著『江戸の旅と出版文化—寺社参詣の新視角』歴史地理学56-4,2014.9.p.25.

### 小沢 互

#### 1-① 著書

- (1) 小沢互・皆川秀夫(2014)「畜産のスマート化・概論」農業情報学会編『スマート農業—農業・農村のイノベーションとサステナビリティ』農林統計出版、152-153

#### 1-② 論文

- (1) 金紅蘭・藤科智海・小沢互(2014)「延辺地域における「専業農場」の発展過程と展開方向—図們市Y鎮のYR農場・CX農場を事例として」農村経済研究、第32第1号、95-104
- (2) 奥山仁志・小沢互(2014)「中山間地域等直接支払制度が集落営農組織づくりに向けて農家の意識形成に与える影響—ソーシャル・キャピタルと制度参画者の評価分析を通じて—」農村計画学会誌、33巻論文特集号、311-316
- (3) 奥山仁志・小沢互(2014)「水田・畑作経営所得 安定 対策 取組集落の制度評価と実感に対するソーシャル・キャピタルの影響に関する考察—枝番管理型集落営農組織を対象として—」2014 年度日本農業経済学会論文集、7-12

#### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 藤科智海・小沢互・吉仲怜、2014年6月14日、飼料用米を使用した豚肉に対する消費者の評価—選択型コンジョイント分析による検証—、日本フードシステム学会
- (2) 奥山仁志・小沢互、2014年8月23日、農地・水・環境保全向上対策参画者評価と農村社会ネットワークの関係に関する考察、東北農業経済学会
- (3) 金紅蘭・藤科智海・小沢互、2014年8月23日、中国延辺地域における専業農場の現状と課題—図們市Y鎮のYR農場・CX農場の加入農家調査より—、東北農業経済学会
- (4) 小倉拓磨・小沢互・藤科智海、2014年8月23日、プロイラー産業における生産契約の実態と契約生産者の評価—岩手県S社を事例として—、東北農業経済学会
- (5) 藤科智海・及川達也・小沢互、2014年9月20日、公共牧場を核とした畜産農家支援の効果—山形県真室川町の秋山牧場を事例として—、日本農業経営学会
- (6) 奥山仁志・小沢互、2014年11月30日、中山間地域等直接支払制度が集落営農組織づくりに向けて農家の意識形成に与える影響—ソーシャル・キャピタルと制度参画者の評価分析を通じて—、農村計画学会

## 1-④ その他の研究活動

- (1) 小沢互(2014)「書評 辻村英之著 農業を買い支える仕組み—フェア・トレードと産消提携」社会運動、411号、56-57

## 角田 毅

### 1-① 論文

- (1) 鈴木洋, 角田毅 2014(平成26)年, 集落営農組織における水田輪作の取り組みと課題—山形県村山地域A営農組合における畑作物“2年3作水田輪作”を事例として— 農村経済研究, 第32巻第2号, 1-5

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 角田毅(2014): 農業経営の継承における家族的要素と企業的要素、日本農業経営学会要旨集。(招待講演)
- (2) 角田毅(2014): 実践的農業者教育と農業経営学、日本農業経営学会要旨集(招待講演)
- (3) 鈴木洋, 角田毅(2015): 集落営農法人における担い手人材の育成過程、日本農業経済学会要旨集

## 家串哲生

### 1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 家串哲生、2014年6月13日、活動基準原価計算を用いた農業経営の環境コスト測定に関する研究、日本農業経営学会(東京大学)。
- (2) 家串哲生、2014年10月17日、日本における農業簿記・会計思想史に関する研究—大槻正男「自計式農家経済簿」—、地域農林経済学会(京都府立大学)。
- (3) 家串哲生、2015年3月29日、近藤康男『農業簿記学』と簿記・会計思想—日本における農業簿記・会計思想史に関する研究—、日本農業経済学会(東京農工大学)。

### 1-② その他の研究活動

- (1) 関根和貴・家串哲生(2015): 「段ボールとリユース容器を用いた成果物流通のLCA比較分析」尾崎亨・樋元淳一・家串哲生『青果物輸送における環境対応型包装資材に関する研究』、pp.276-293

## 藤科智海

### 1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 藤科智海・小沢互・吉仲怜(2014): 飼料用米を使用した豚肉に対する消費者の評価—選択型コンジョイント分析による検証—、2014年度日本フードシステム学会大会報告要旨集、pp.121-122.
- (2) 金紅蘭・藤科智海・小沢互(2014): 中国延辺地域における専業農場の現状と課題—図們市Y鎮のYR農場・CX農場の加入農家調査より—、第50回東北農業経済学会岩手大会報告要旨、p.39
- (3) 小倉拓磨・小沢互・藤科智海(2014): ブロイラー産業における生産契約の実態と契約生産者の評価—岩手県S社を事例として—、第50回東北農業経済学会岩手大会報告要旨、p.43
- (4) 藤科智海・及川達也・小沢互(2014): 公共牧場を核とした畜産農家支援の効果—山形県真室川町の秋山牧場を事例として—、平成26年度日本農業経営学会研究大会報告要旨、pp.150-151
- (5) 藤科智海(2014): 農村の維持再生に向けた課題—農業と地域社会との関係性—、東北農業経済学会50周年記念事業「東北農業・農村研究の論点を探る—未来に向けて—」、pp.23-32(招待講演)



## 渡辺理絵

### 1-① 論文

- (1) 中村みず季・渡辺理絵(2014):フードデザートマップを用いた後期高齢者の買い物環境:鶴岡市中心部DID地区を対象として. 地理空間 7-1, 33-50
- (2) 大矢幸雄・渡辺理絵(2015):19世紀中頃における松江・北堀町新橋の住人と空間構成—「北堀町新町町絵図」の分析を通して—. 松江市史研究6号,17-32

## 食品・応用生命科学コース

### 三橋 涉

#### 1-① 論文

- (1) T.Toyomasu, M.Usui, C.Sugawara, K.Otomo, Y.Hirose, A.Miyao, H.Hirochika, K.Okada, T.Shimizu, J.Koga, M.Hasegawa, M.Chuba, Y. Kawana, M.Kuroda, E.Minami, W.Mitsuhashi, H.Yamane(2014) Reverse-genetic approach to verify physiological roles of rice phytoalexins: characterization of a knockdown mutant of *OsCPS4* phytoalexin biosynthetic gene in rice. *Physiologia Plantarum*, 150, 55-62.

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 豊増知伸, 小松由貴, 千葉光浩, 松浦 嵩, 齋藤 遼, 三橋 涉, 深澤壽太郎, 加藤修雄 (2014) bZIP 転写因子の DNA 結合に対する 14-3-3 タンパク質相互作用の影響, 植物の生長調節、49、Supplement、46

### 小関卓也

#### 1-① 論文

- (1) T. Mizuno, Y. Shiono, T. Koseki<sup>\*</sup>, Biochemical characterization of *Aspergillus oryzae* native tannase and the recombinant enzyme expressed in *Pichia pastoris*. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 118, 392-395 (2014)
- (2) K. Suzuki, A. Hori, K. Kawamoto, R. R. Thangudu, T. Ishida, K. Igarashi, M. Samejima, T. Wakagi, T. Koseki, S. Fushinobu, Crystal structure of a feruloyl esterase belonging to the tannase family: a disulfide bond near a catalytic triad, *Proteins*, 82, 2857-2867 (2014)
- (3) T. Takano, T. Koseki, H. Koyama, Y. Shiono, A new cytosporon derivative from the endophytic fungus *Cytospora* sp. *Natural Product Communications*, 9, 973-975 (2014)
- (4) Y. Shiono, F. Shibuya, T. Koseki, Harizon, U. Supratman, S. Uesugi, K. Kimura, A new  $\alpha$ -pyron metabolite from a mangrove plant endophytic fungus, *Fusarium* sp. *Journal of Asian Natural Products Research*, DOI: 10. 1080/10286020.2014.961919 (2014)
- (5) 小関卓也, 麹菌由来のフェルラ酸エステラーゼの開発とその利用, 温古知新, 51, 40-44 (2014)
- (6) 小関卓也, ポリフェノールの高度利用を目指したエステラーゼ研究, *Peptide Newsletter Japan*, 93, 5-8 (2014)

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 大塚基広、水野聖之、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼの触媒残基近傍のジスルフィド結合の役割, 第66回日本生物工学会大会, 札幌(9月)
- (2) 大塚基広、河本かずさ、鈴木健太郎、伏信進矢、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae* 由来フェルラ酸エステラーゼBのリッドドメインの機能解析, 平成26年度日本農芸化学会北海道・東北合同支部大会, 札幌(9月)
- (3) 大塚基広、渡辺裕也、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae* 由来新規なアセチルキシランエステラーゼの特徴づけ, 第14回糸状菌分子生物学コンファレンス, 仙台(11月)
- (4) 宮崎 望、小関卓也、村山哲也、小酒井貴晴、塩野義人 (2014): マングローブ植物分離菌 IM2-155 株の生産する塩素含有物質について, 平成26年度 日本農芸化学会北海道支部・東北支部 合同支部大会, 札幌(9月)
- (5) 塩野義人、高野智也、村山哲也、小関卓也、小山浩正 (2015): ナラ枯れ被害木より分離した糸状菌 TT-12 株の生産する物質について, 日本農芸化学会2015年度大会, 岡山(3月)

#### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Yoshihito Shiono, Fumiaki Shibuya, Takuya Koseki, Unang Supratman (2014.8.3-8.8): Studies of salt culture conditions induced-compounds produced by mangrove endophytes, The 10th International Mycological Congress, タイ、バンコク、クイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センター

#### 1-④ その他の研究活動

- (1) 科学技術振興機構復興促進プログラム 特別企画シンポジウム『未来を創る 東北の力』—科学技術の英知・絆の成果—成果物展示(2014.4.27), 仙台

- (2) JST復興促進プログラム 成果発表・展示会『未来を創る東北の力』—科学技術の英知・絆の成果—In東京 成果発表・成果物展示(2015.3.24)

## 豊増知伸

### 1-① 論文

- (1) Toyomasu, T., Usui, M., Sugawara, C., Kanno, Y., Sakai, A., Takahashi, H., Nakazono, M., Kuroda, M., Miyamoto, K., Morimoto, Y. et al.: Transcripts of two ent-copalyl diphosphate synthase genes differentially localize in rice plants according to their distinct biological roles. *J. Exp. Bot.* 66: 369–376 (2015).
- (2) Wagatsuma, T., Khan, M.S.H., Watanabe, T., Maejima, E., Sekimoto, H., Yokota, T., Nakano, T., Toyomasu, T., Tawaraya, K., Koyama, H. et al. : Higher sterol content regulated by CYP51 with concomitant lower phospholipid content in membranes is a common strategy for aluminium tolerance in several plant species. *J. Exp. Bot.* 66: 907–918 (2015).

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 豊増知伸、小松由貴、千葉光浩、松浦嵩、斎藤遼、三橋渉、深澤壽太郎、加藤修雄(2014): bZIP転写因子のDNA結合に対する14-3-3タンパク質相互作用の影響、植物化学調節学会第49回大会研究発表記録集、p.46
- (2) 豊増知伸(2014): ジベレリン生合成初期段階の組織特異性の意義、平成26年度日本農芸化学会東北支部シンポジウム(招待講演)
- (3) 豊増知伸(2014): イネにおけるジテルペノイド生合成、第51回植物化学シンポジウム(招待講演)

## 永井 毅

### 1-① 著書

- (1) 永井 毅 監修・著. しくみ図解 食品加工が一番わかる. 技術評論社, 印刷中,

### 1-② 論文

- (1) TANOUE, Y., KAI, N., NAGAI, T. and USHIO, K. 2014. Cycloadducts of furan with arynes generated from 2-bromo- and 2,6-dibromo-1,4,5,8-tetramethoxynaphthalens. *Journal of Heterocyclic Chemistry*, Vol.51: 1199–1201.
- (2) TANOUE, Y., KAI, N., NAGAI, T. and USHIO, K. 2014. Reaction of some indoles with 1,4-naphthoquinones in the presence of Pd(OAc)<sub>2</sub>. *Journal of Heterocyclic Chemistry*, Vol.51: E364–366.
- (3) NAGAI, T., TAMAI, M., SATO, M., TANOUE, Y., KAI, N. and SUZUKI, N. 2014. Characterization and functional properties of new everbearing strawberry (*Fragaria x ananassa* Duch.) cultivar, ‘Summertiarra’ berries, *Functional Foods in Health and Disease*, Vol.4: 1–22.
- (4) NAGAI, T., TANOUE, Y., Kai, N. and SUZUKI, N. 2014. Collagen hydrolysates derived from Yezo sika deer (*Cervus nippon yezoensis*) tendon have highly health-promoting potentials. *International Food Research Journal*, Vol.21: 1395–1404.
- (5) NAGAI, T., SUZUKI, N., KAI, N. and TANOUE, Y. 2014. Functional properties of autolysate and enzymatic hydrolysate from yam tsukuneimo (*Dioscorea opposita* Thunb.) tuber mucilage tororo: antioxidative activity and antihypertensive activity. *Journal of Food Science and Technology*, Vol.51(12), 3838–3845.
- (6) NAGAI, T., TANOUE, Y., KAI, N. and SUZUKI, N. 2014. Characterization of collagen from emu (*Dromaius novaehollandiae*) skins. *Journal of Food Science and Technology*, online first, 10.1007/s13197-014-1266-1.
- (7) KAI, N., INOUE, T., KURAUCHI, Y., TANOUE, Y., TAKAHASHI, Y. and NAGAI, T. 2014. The available utilization of selenium from some inedible tissues of marine products-II: The distribution of selenium in several species of fish at lower trophic levels in the marine ecosystem. *Studies in Science and Technology*, Vol.3(2): 117–120.

### 1-③ その他の研究活動

- (1) お米のコンフィチュール. 荘内日報 2015.1.5
- (2) お米のコンフィチュール. 山形新聞 2015.1.29
- (3) お米のコンフィチュール. コミュニティ新聞 2015.2.6
- (4) お米のコンフィチュール. 鶴岡タイムス 2015.2.15
- (5) お米のコンフィチュール. 月刊庄内小僧 2015.2.25
- (6) お米のコンフィチュール. 朝日新聞 2015.2.25
- (7) お米のコンフィチュール. 読売新聞 2015.2.27
- (8) お米のコンフィチュール. 河北新報 2015.2.27
- (9) お米のコンフィチュール. 毎日新聞 2015.2.28
- (10) お米のコンフィチュール. 荘内日報 2015.3.1
- (11) お米のコンフィチュール. 山形新聞 2015.3.1
- (12) コラム. 河北新報 2015.3.8
- (13) この人に聞く 毎日新聞 2015.3.22
- (14) 米届ける. 荘内日報 2015.3.24
- (15) 米届ける. 山形新聞 2015.3.24

## 木村直子

### 1-① 著書

- (1) Fujii J, Tsunoda S and Kimura N. Antithetical Roles of Reactive Oxygen Species in Mammalian Reproduction, in “Handbook of System Biology of Free Radicals and Anti-oxidants” (I. Larher ed), Springer-Verlag, Germany, 2014, 2705-2721. ISBN-10: 3642300170.

### 1-② 論文

- (1) Tsunoda S, Kimura N and Junichi Fujii. Oxidative stress and redox regulation of gametogenesis, fertilization, and embryonic development. Reproductive Medicine and Biology 13:71-79 (2014).

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木 あやめ, 渡辺 連, 星野 由貴, 木村 直子. 卵成熟培地への親電性試薬の添加によるマウス胚発生能の向上. 第55回日本卵子学会大会要旨集, S61. 2014年5月17~18日. 神戸国際会議場(神戸市).
- (2) 名古 満, 藤井 順逸, 木村 直子. MI期動原体へのBubR1の局在性低下が卵染色体の異数性を増加させる~成熟培養系SOD1遺伝子欠損マウス卵を用いた研究~. 第32回日本受精着床学会総会・学術講演会抄録集, p194. 2014年7月31日~8月1日. ハイアットリージェンシー東京(東京都新宿区).
- (3) 渡辺 連, 李 允熙, 木村 直子. マウス卵における抗酸化機能遺伝子の発現パターンに及ぼす加齢の影響~野生型とxCT 遺伝子欠損型との比較. 第107回日本繁殖生物学会大会要旨集, j125. 2014年8月21~24日. 帯広畜産大学(北海道帯広市).

### 1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Hoshino Y, Watanabe R, Yoshida K, Fujii J, Kimura N. The role of vitamin C in in vitro mouse early embryonic development —the effects of Supplementation of ascorbic acid 2-phosphate—. World Congress of Reproductive Biology(WCRB 2014, 生殖生物学会世界大会2014), Proceeding Poster Abstract 40. 2014年9月2日~9月4日. Edinburgh, Edinburgh International Conference Centre, Scotland. (ポスター発表)
- (2) Watanabe R, Fujii J, Sato H, Kimura N. Evaluation of oocyte quality and ovarian function in aged female cystine-glutamate transporter gene-deficient mice. World Congress of Reproductive Biology(WCRB 2014, 生殖生物学会世界大会2014), Proceeding Poster Abstract 45. 2014年9月2日~9月4日. Edinburgh, Edinburgh International Conference Centre, Scotland. (ポスター発表)

- (3) Kimura N, Nago M, Odajima K, Fujii J. Intrinsic oxidative stress increases meiotic chromosome misalignment and aneuploidy in in vitro matured oocytes from SOD1-deficient mice. World Congress of Reproductive Biology(WCRB 2014, 生殖生物学学会世界大会2014), Proceeding Poster Abstract 20. 2014年9月2日～9月4日. Edinburgh, Edinburgh International Conference Centre, Scotland. (口頭発表にリクルート)

## 加来伸夫

### 1-① 論文

- (1) A. Ueki, T. Shibuya, N. Kaku, K. Ueki (2015) *Aminocella lysinolytica* gen. nov., sp. nov., a L-lysine-degrading, strictly anaerobic bacterium in the class Clostridia isolated from a methanogenic reactor of cattle farms. Archives of Microbiology, 197 (1), 97-104.
- (2) A. Ueki, M. Watanabe, Y. Ohtaki, N. Kaku, K. Ueki (2014) *Propionispira arcuata* sp. nov., isolated from a methanogenic reactor of cattle waste and reclassification of *Zymophilus raffinovorans* and *Zymophilus paucivorans* as *Propionispira raffinovorans* comb. nov. and *Propionispira paucivorans* comb. nov., and emended description of the genus *Propionispira*. International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, 64 (10), 3571-3577.
- (3) A. Kouzuma, N. Kaku, K. Watanabe (2014) Microbial electricity generation in rice paddy fields: recent advances and perspectives in rhizosphere microbial fuel cells. Applied Microbiology and Biotechnology, 98 (23), 9521-9526.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 紺野勇太・加来伸夫・上木厚子・上木勝司・渡部徹・渡邊一哉 (2014) 水田への微生物燃料電池の設置が水田土壤中におけるメタン生成に与える影響. 環境微生物系学会合同大会2014講演要旨集(浜松), 213.
- (2) 益子拓磨・加来伸夫・伊藤紘晃・梶原晶彦・渡部徹 (2015) 下水処理水の循環利用による飼料用米栽培システムにおける増収と発電. 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会(多賀城市).

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 日本微生物生態学会大会において「嫌気性界の微生物生態研究部会」を開催(平成20年度より毎年開催)
- (2) 益子拓磨・加来伸夫・梶原晶彦・渡部徹, 下水処理水を用いて飼料用米を栽培する水田での発電の可能性, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成27年1月14日, 酒田市

## 塩野義人

### 1-① 論文

- (1) Tomoya Takano, Takuya Koseki, Hiromasa Koyama, and Yoshihito Shiono. (2014) : Cytosporone Derivative from the Endophytic Fungus *Cytospora* sp. Natural Products Research, 9, 974-975.
- (2) Junpei Yokoigawa, Kyoko Morimoto, Yoshihito Shiono, Shota Uesugi, Ken-ichi Kimura and Takao Kataoka (2014) : Allantopyrone A, an  $\alpha$ -pyrone metabolite from an endophytic fungus, inhibits the tumor necrosis factor  $\alpha$ -induced nuclear factor  $\kappa$ B signaling pathway. Journal of antibiotics (Tokyo) 13. doi: 10.1038/ja.2014.103.
- (3) Yum Eryanti, Tati Herlina, Adel Zamri, Siti Nadiah Abdul Halim, Yoshihito Shiono, Yana M. Syah, Khalijah Awang and Unang Supratman (2014) : 3,5-Bis(2-hydroxybenzylidene)piperidin-4-one, Molbank 2014, 2014(2), M825; doi:10.3390/M825
- (4) Yoshihito Shiono, Fumiaki Shibuya, Takuya Koseki, Harizon, Unang Supratman, Shota Uesugi, Ken-ichi Kimura (2014) : A New  $\alpha$ -Pyrone Metabolite from a Mangrove Plant Endophytic Fungus, *Fusarium* sp. Journal of Asian Natural Products Research, 2014, 9(7):973-975.
- (5) T. Mizuno, Y. Shiono, T. Koseki (2014) : Biochemical characterization of *Aspergillus oryzae* native tannase and the recombinant enzyme expressed in *Pichia pastoris*. Journal of Bioscience and Bioengineering, 118, 392-395.

- (6) B. Ngameni, G.W. Fotso, E. Ngachussi, H.M. Poumale Poumale, B.T. Ngadjui, Y. Shiono and T. Murayama (2014): Hemisynthesis and Spectroscopic Characterization of Two Novel O-Allylated Benzophenones from *Garcinia punctata* Oliv. (Clusiaceae). *Asian Journal of Chemistry*, 26, 6943–6949

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 宮崎 望、小関卓也、村山哲也、小酒井貴晴、塩野義人 (2014): マングローブ植物分離菌 IM2-155 株の生産する塩素含有物質について、平成26年度 日本農芸化学会北海道支部・東北支部 合同支部大会(平成26年9月22日)
- (2) 塩野義人、高野智也、村山哲也、小関卓也、小山浩正 (2014): ナラ枯れ被害木より分離した糸状菌 TT-12 株の生産する物質について、日本農芸化学会2015年度大会(平成27年3月26日–29日)
- (3) 大塚基広、水野聖之、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae*由来タンナーゼの触媒残基近傍のジスルフィド結合の役割, 第66回日本生物工学会大会, 札幌(9月)
- (4) 大塚基広、河本かずさ、鈴木健太郎、伏信進矢、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae*由来フェルラ酸エステラーゼBのリッドドメインの機能解析, 平成26年度日本農芸化学会北海道・東北合同支部大会, 札幌(9月)
- (5) 大塚基広、渡辺裕也、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae*由来新規なアセチルキシランエステラーゼの特徴づけ, 第14回糸状菌分子生物学コンファレンス, 仙台(11月)

#### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Yoshihito Shiono, Fumiaki Shibuya, Takuya Koseki, Unang Supratman (2014): Studies of salt culture conditions induced-compounds produced by mangrove endophytes, The 10th International Mycological Congress, Thai

## 渡辺昌規

#### 1-① 著書

- (1) 渡辺昌規 (2014) リンのリサイクル 米加工副産物からのリン・タンパク質同時回収, 農業と園芸, 89(5), 545–550

#### 1-② 論文

- (1) M. Watanabe\*, I. Maeda, M. Koyama, K. Nakamura and K. Sasano (2014): Simultaneous recovery and purification of rice protein and phosphorus compounds from full-fat and defatted rice bran with organic solvent-free process. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 119(2), 206–211
- (2) M. Koyama, S. Hattori, Y. Amano, M. Watanabe and K. Nakamura\* (2014): Blood Pressure-Lowering Peptides from Neo-Fermented Buckwheat Sprouts: A New Approach to Estimating ACE-Inhibitory Activity. *PLOS ONE*, 9(9), e105802
- (3) S. Takenaka\*, A. Miyake, K. Tanaka, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, M. Watanabe and K. Yoshida (2014): Characterization of the native form and the carboxy-terminally truncated halotolerant form of  $\alpha$ -amylases from *Bacillus subtilis* strain FP-133. *Journal of Basic Microbiology*, 54, 1–10

#### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 渡辺昌規、烏舞花、塩野忠彦、楠信行 (2014.9.20): 茹で麵排水への酵素添加による固形成分への凝集・沈降性付与とタンパク質組成との関連、第57回日本生物工学会大会講演要旨集、pp. 31.

#### 1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) M. Watanabe, C. Techapun, N. Leksawasdi, A. Kuntiya, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso and S. Takenaka (2014): Fermentative L-(+)-lactic acid production from non-sterilized rice washing drainage containing rice bran by a newly isolated lactic acid bacteria without any additions of nutrients. *Thai Research Expo 2014 (TRE 2014)*, Thailand.
- (2) T. Chaiyaso, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, S. Takenaka and M. Watanabe (2014): Purification and characterization of lipase from thermotolerant *Streptomyces thermocarboxydus* ME168 and its application on sugar esters synthesis. *Thai Research Expo 2014 (TRE 2014)*, Thailand.

- (3) P. Seesuriyachan, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, T. Chaiyaso, S. Takenaka and M. Watanabe (2014): Single cell protein production by *Sporobolomyces pararoseus* TISTR5213 using a mixture of activated sludge hydrolysate and cheese whey wastewater in an aerobic Sequencing Batch Reactor (aerobic SBR) under opened acidic condition. Thai Research Expo 2014 (TRE 2014), Thailand.
- (4) S. Takenaka, A. Kuntiya, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, C. Techapun, N. Leksawasdi and M. Watanabe (2014): Characterization of a halotolerant extracellular enzymes from *Bacillus subtilis* FP-133. Thai Research Expo 2014 (TRE 2014), Thailand.

#### 1-⑤ その他の研究活動

- (1) 山形新聞大学広告(国立大学法人化10周年記念)記事執筆, 山形新聞2014年9月27日朝刊

## 植物機能開発学コース

### 村山哲也

#### 1-① 論文

- (1) B. Ngameni, G.W. Fotso, E. Ngachussi, H.M. Poumale Poumale, B.T. Ngadjui, Y. Shiono and T. Murayama (2014): Hemisynthesis and Spectroscopic Characterization of Two Novel O-Allylated Benzophenones from *Garcinia punctata* Oliv. (Clusiaceae). *Asian Journal of Chemistry*, 26, 6943-6949

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) マングローブ植物分離菌 IM2-155 株の生産する塩素含有物質について  
宮崎 望、小関卓也、村山哲也、小酒井貴晴、塩野義人  
平成26年度 日本農芸化学会北海道支部・東北支部 合同支部大会  
平成26年9月22日
- (2) ナラ枯れ被害木より分離した糸状菌 TT-12 株の生産する物質について  
塩野義人、高野智也、村山哲也、小関卓也、小山浩正  
日本農芸化学会2015年度大会  
平成27年3月26日-29日

### 俵谷圭太郎

#### 1-① 著書

- (1) Tawaraya, K. 2014. Use of arbuscular mycorrhizal fungal inocula for horticultural crop production. In: Solaiman Z, Abbott LK & Varma A (eds) *Mycorrhizal fungi: Use in sustainable agriculture and land restoration*, pp 81-88. Springer, Heidelberg.
- (2) Tawaraya, K., and Turjaman, M. 2014. Use of arbuscular mycorrhizal fungi for restration of degraded tropical forests. In: Solaiman Z, Abbott LK & Varma A (eds) *Mycorrhizal fungi: Use in sustainable agriculture and land restration*, pp 357-374. Spriger, Heiderberg.

#### 1-② 論文

- (1) Deguchi, S., Uozumi, S., Touno, E., Kaneko, M., and Tawaraya, K. 2014. White clover living mulch controlled only by mowing supplies nitrogen to corn. *Soil Science and Plant Nutrition*, 60, 183-187.
- (2) Tawaraya, K., Horie, R., Shinano, T., Wagatsuma, T., Saito, K., and Oikawa, A. 2014. Metabolite profiling of soybean root exudates under phosphorus deficiency. *Soil Science and Plant Nutrition*, 60, 679-694.
- (3) Tawaraya, K., Horie, R., Saito, S., Wagatsuma, T., Saito, K., and Oikawa, A. 2014. Metabolite Profiling of Root Exudates of Common Bean under Phosphorus Deficiency. *Metabolites*, 4, 599-611.
- (4) Wagatsuma, T., Khan, M.S.H., Watanabe, T., Maejima, E., Sekimoto, H., Yokota, T., Nakano, T., Toyomasu, T., Tawaraya, K., Koyama, H., Uemura, M., Ishikawa, S., Ishikawa, A., Kawamura, T., Murakami, S., Ueki, N., Umetsu, A., and Kannari, T. 2015. Higher sterol content regulated by CYP51 with concomitant lower phospholipid content in membranes is a common strategy for aluminium tolerance in several plant species. *J Exp Bot*, 66, 907-918.

#### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) Ahdiar Fikri Maulana Cheng W., Tawaraya K.(2013) Trapping endphyhtic fungi using different plants and forest soils of Indonesia. 日本土壤肥料学会2014年度東京大会
- (2) 向田拓弥、山崎優美子、本田創一郎、中場勝、斉藤和季、及川彰、丸山隼人、和崎淳、我妻忠雄、俵谷圭太郎(2014) 低リン耐性が異なるイネ品種のリン欠乏下におけるメタボローム解析 日本土壤肥料学会2014年度東京大会
- (3) 丸山隼人、向田拓弥、俵谷圭太郎、和崎淳(2014) 低リン耐性の異なるイネ品種のリン欠乏下におけるトランスクリプトーム解析 日本土壤肥料学会2014年度東京大会



#### 1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) Tawaraya, K Yamazaki, Y Mukada, T.Cheng, W. Chuba, M. Maruyama, H. Wasaki, J. Chuba, M Saito, K. Oikawa, A. Wagatsuma, W. (2014): Metabolite profiling of shoot extracts, root extracts and root exudates of rice cultivars under phosphorus deficiency 5th Phosphorus in soils and plants symposium, France
- (2) Tawaraya, K. Horie, R. Cheng, W. Wagatsuma, T. Saito, K. and Oikawa, A. Metabolite profiling of shoot extracts, root extracts, and root exudates of rice under phosphorus deficiency. Metabolomics 2014, Japan

## 村山秀樹

#### 1-① 論文

- (1) H. Murayama, M. Sai, A. Oikawa and A. Itai 2015. Inhibitory Factors That Affect the Ripening of Pear Fruit on the Tree. The Horticulture Journal, 84, 1-7.
- (2) N. Charoenchongsuk, K. Ikeda, A. Itai, A. Oikawa and H. Murayama\*. 2015. Comparison of the expression of chlorophyll-degradation-related genes during ripening between stay-green and yellow-pear cultivars. Scientia Horticulturae, 181, 89-94.
- (3) B. Nugraha, N. Bintoro and H. Murayama. 2015. Influence of CO<sub>2</sub> and C<sub>2</sub>H<sub>4</sub> adsorbents to the symptoms of internal browning on the packaged 'Silver Bell' pear (*Pyrus communis* L.) Agriculture and Agricultural Science Procedia, 3: 127 - 131.

#### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 村山秀樹・Bayu Nugraha・板井章浩・及川 彰(2014): フィルム包装を利用したセイヨウナシ 'シルバーベル' 果実の長期貯蔵に関する研究. 日本食品保蔵科学会第63回大会講演要旨集
- (2) 藤井美希・羽生剛・村山秀樹・板井章浩(2014): ナシ ACC合成酵素 (*PpACS1*) のプロモーターのメチル化解析. 園芸学研究, 13別2,
- (3) 池田和生・瀬賀美貴・高橋柚稀・高橋由信・村山秀樹(2014): 着色タイプの異なる赤着色系セイヨウナシのアントシアニンの蓄積. 園芸学研究, 13別2,
- (4) 藤井美希・羽生剛・村山秀樹・板井章浩 (2014): ナシACC合成酵素遺伝子 (*PpACS1*) のプロモーター領域におけるメチル化解析および核タンパク質との相互作用解析. 園芸学研究, 14別1,

#### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) H. Murayama, M. Shimomura, A. Kodama (2014) Starch degradation after harvest in 'La France' pears. 12th International Pear Symposium. Belgium
- (2) B. Nugraha, N. Bintoro, H. Murayama (2014) Influences of CO<sub>2</sub> and C<sub>2</sub>H<sub>4</sub> adsorbents to the symptoms of internal browning on the packaged 'Silver Bell' pear (*Pyrus communis* L.). International Conference on Agro-industry. Indonesia

#### 1-④ その他の研究活動

- (1) 村山秀樹(2015): 身近な野菜・果物～その起源から生産・消費まで(29) セイヨウナシ (I). 日本食品保蔵科学会誌. 41, 29-33.

## 江頭宏昌

#### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 江頭宏昌・高江洲賢文・山本伸一・竹谷勝(2015): 沖縄本島北部で見いだされたインリーと呼ばれるアブラナ属野菜について、育種学雑誌17巻別冊1号: 55

#### 1-② その他の研究活動

- (1) 江頭宏昌(2014): コラム「在来作物と種子を受け継ぐ」、榎湯俊子ら著「食と農の社会学」(ミネルヴァ書房)、2014年5月20日
- (2) 江頭宏昌(2014): 庄内の在来野菜連載、松柏、2014年6月15日、9月15日
- (3) 江頭宏昌(2014): 勝手に東北世界遺産・カラトリイモ、朝日新聞、2014年10月11日

## 程 為国

### 1-① 論文

- (1) Cheng, W., Okamoto, Y., Takei, M., Tawaraya, K., Yasuda, H. (2015) Combined use of Azolla and loach suppressed weed *Monochoria vaginalis* and increased rice yield without agrochemicals. *Organic Agriculture*, 5: 1-10
- (2) Cheng, W., Takei, M., Sato, C., Kautsar, K., Sasaki, Y., Sato, S., Tawaraya, K., Yasuda, H. (2015) Combined use of Azolla and loach suppressed paddy weeds and increased organic rice yield: second season results. *Journal of Wetlands Environmental Management*, (imprint)
- (3) Hungate, B.A., Duval, B D., Dijkstra, P., Johnson, D.W., Ketterer, M E., Stiling, P., Cheng, W., Millman, J., Hartley, A., Stover, D.B. (2014) Nitrogen inputs and losses in response to chronic CO<sub>2</sub> exposure in a subtropical oak woodland. *Biogeosciences*, 11: 3323-3337.
- (4) Sato, T., Ezawa, T., Cheng, W., Tawaraya, K. (2014) Release of acid phosphatase from extraradical hyphae of arbuscular mycorrhizal fungus *Rhizophagus clarus*. *Soil Science & Plant Nutrition*, 61: 269-274
- (5) Wu, H., Xu, X., Duan, C., Li, T., Cheng, W. (2015) Effect of vegetation type, wetting intensity, and nitrogen supply on external carbon stimulated heterotrophic respiration and microbial biomass carbon in forest soils. *Science China: Earth Sciences*, doi: 10.1007/s11430-015-5058-x.
- (6) Xu, X., Duan, C., Wu, H., Li T., Cheng, W. (2015) Effect of intensity and duration of freezing on soil microbial biomass, extractable C and N pools, and N<sub>2</sub>O and CO<sub>2</sub> emissions from forest soils in cold temperate region. *Science China: Earth Sciences*, (imprint)

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 程 為国・佐藤千鶴・塩野宏之・熊谷勝巳・俵谷圭太郎：長期連用肥料試験の水田圃場における土壌炭素の蓄積と窒素の無機化、日本土壌肥料学会2014年大会、東京、講演要旨集 第60集、p.173、(2014年9月)
- (2) 程 為国：中国の古代土壌学(4)両晋南北朝時代：「齊民要術」の土壌肥料学、日本土壌肥料学会2014年大会、東京、講演要旨集 第60集、p.181、(2014年9月)
- (3) 佐藤真樹・C.M.L. Lopez・高階文章・程 為国・野堀嘉裕：ニセアカシアの侵入がクロマツ海岸林からのN<sub>2</sub>O放出にあたる影響、日本土壌肥料学会2014年大会、東京、講演要旨集 第60集、p.163、(2014年9月)
- (4) Shuirong Tang, Weiguo Cheng, Keitaro Tawaraya, Toshihiro Hasegawa：Variations in soil organic carbon in a rice paddy field after five years warming、日本土壌肥料学会2014年大会、東京、講演要旨集 第60集、p.173、(2014年9月)
- (5) Valensi Kautsar, Weiguo Cheng, Keitaro Tawaraya, Kazunobu Toriyama, Kazuhiko Kobayashi：Organic rice farming increasing soil carbon stocks and nitrogen mineralization potentials in Japanese Andosols、日本土壌肥料学会2014年大会、東京、講演要旨集 第60集、p.174、(2014年9月)

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Cheng W, Liu T, Sato S, Tang S, Hattori S, Hayashida M, Tawaraya K, Hu R, Huang Q, Xu X, Huang Y. (2014) Changes in soil carbon and nitrogen contents, and their anaerobic decomposition potentials after rice paddy abandoned to wetland. 3rd International Symposium on Wetland Environmental Managements "How Tropical Wetlands Can Meet Agriculture, Energy and Settlement Demands" Joint Program of Lambung Mangkurat University and The Government of South Kalimantan Province Banjarmasin, 7-8 November, 2014. (招待講演)
- (2) Cheng, W., Takei, M., Sato, C., Tawaraya, K., Yasuda, H. (2014) A novel trial to combine use of Azolla and loach to suppress weed *Monochoria vaginalis* and increase organically farmed rice yield. 20th World Congress of Soil Science, June 8-13, 2014 in ICC, Jeju, Korea
- (3) Cheng, W., Okamoto, Y., Sato, S., Kasahara, K., Tawaraya, K., Yasuda, H. (2014) Combined use of Azolla and loach suppressed weed *Monochoria vaginalis* and increased organically farmed rice yield. *Organic Agriculture: clues for weed prevention and control*. Vigo, July 30-31, 2014
- (4) Cheng, W., Kautsar, V., Tawaraya, K., Toriyama, K., Kobayashi, K. (2014) Organic rice farming increasing soil carbon stocks and nitrogen mineralization potentials in Japanese Andosols. *Organic Agriculture: clues for weed prevention and control*. Vigo, July 30-31, 2014

## 1-④ その他の研究活動

- (1) Editor, Journal of Wetlands Environmental Management

## 笹沼恒男

### 1-① 論文

- (1) 笹沼恒男 (2014): ベニバナの系統進化・多様性と山形のベニバナ「最上紅花」について. Food and Food Ingredients Journal of Japan, 219, 264-274.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 新井友輔, 笹沼恒男 (2014年9月27日): コムギAゲノムにおけるイネ脱落性関連遺伝子 *qSH1* のオースログの遺伝学的研究、日本育種学会第126回講演会要旨集、130.
- (2) 松本幸也, 稲葉有紀, 笹沼恒男 (2014年9月27日): トウガラシ *baccatum* 種の果実色変異の遺伝学的解析、日本育種学会第126回講演会要旨集、131.
- (3) 青柳沙緒莉, 高橋優利佳, 相澤由佳里, 阿部利徳, 笹沼恒男 (2014年9月27日): ベニバナ遺伝資源の花弁収量関形質の評価、日本育種学会第126回講演会要旨集、136.
- (4) 笹沼恒男, 西田英隆, Zezua Asanidze, Tamar Bragvadze, Olga N. Kovaleva, Tamara N. Smekalova (2014年11月15日): グルジアにおける在来コムギ遺伝資源の現状について、第9回東北育種研究集会.
- (5) 平田諒, 笹沼恒男 (2014年11月15日): 日本在来コムギ連野生遺伝資源カモジグサの形態及び分子マーカーに基づく多様性解析、第9回東北育種研究集会.
- (6) 赤池隆亮, 柿崎彩佳, 笹沼恒男 (2014年11月15日): 北コーカサスから採集された新規系統を含むタルホコムギ遺伝資源の製パン性評価、第9回東北育種研究集会.
- (7) 青柳沙緒莉, 相澤由佳里, 高橋優利佳, 阿部利徳, 笹沼恒男 (2014年11月15日): 最上紅花及びベニバナ遺伝資源の花弁収量関連形質の評価、第9回東北育種研究集会.
- (8) 平田諒, 笹沼恒男 (2015年3月22日): 日本在来野生ムギ類カモジグサの形態形質及び分子マーカーに基づく多様性評価、日本育種学会第127回講演会要旨集、144.
- (9) 青柳沙緒莉, 湯春慧, 郎亜琴, 三輪哲也, 笹沼恒男 (2015年3月22日): ベニバナ遺伝資源の山形県における生育特性評価、日本育種学会第127回講演会要旨集、156.
- (10) 松本幸也, 稲葉有紀, 笹沼恒男 (2015年3月22日): トウガラシ *baccatum* 種の果実色変異の遺伝的解析2、日本育種学会第127回講演会要旨集、158.
- (11) 笹沼恒男, 西田英隆, Zezua Asanidze, Tamar Bragvadze, Olga N. Kovaleva, Tamara N. Smekalova (2015年3月22日): グルジアにおける在来コムギおよび野生ムギ類遺伝資源の探索と収集、日本育種学会第127回講演会要旨集、67.
- (12) 笹沼恒男 (2015年3月22日): 旧ソ連圏におけるムギ類及びベニバナ遺伝資源の探索及びその多様性、日本育種学会第127回講演会グループ研究集会“遺伝資源海外調査の現状と課題(15)”.

### 1-③ その他の研究活動

- (1) ベニバナの形質調査研究に関する記事掲載, 山形新聞2015年3月16日28面

## 及川 彰

### 1-① 論文

- (1) Osanai, T., Oikawa, A., Numata, K., Kuwahara, A., Iijima, H., Doi, Y., Saito, K., Hirai, M. (2014) Plant Physiol, 164, 1831-1841.
- (2) Satou, M., Enoki, H., Oikawa, A., Ohta, D., Saito, K., Hachiya, T., Sakakibara, H., Kusano, M., Fukushima, A., Saito, K., et al. Plant Mol Biol, 85, 411-428.
- (3) Tawarayama, K., Horie, R., Saito, S., Wagatsuma, T., Saito, K., Oikawa, A. (2014) Metabolites, 4, 599-611.
- (4) Osanai, T., Oikawa, A., Iijima, H., Kuwahara, A., Asayama, M., Tanaka, K., Ikeuchi, M., Saito, K., Hirai, M.Y. (2014) Environ Microbiol, 16, 3304-3317.

- (5) Kusuda, H., Koga, W., Kusano, M., Oikawa, A., Saito, K., Hirai, M.Y., Yoshida, K.T. (2015) Plant Sci, 232, 49–56.
- (6) 及川彰, 飯島陽子 (2015) 遺伝, 69, 58–62.
- (7) 及川彰 (2015) 明日の食品産業, 454, 33–38.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 及川彰 (2014.7.8) メタボロミクスの農産物・食品分野への応用, 第41回BMSカンファレンス.
- (2) 及川彰(2014.9.11) CE-MSを用いたメタボローム解析, 第66回日本生物工学会.
- (3) 及川彰(2015.3.29) 地域農産物のメタボロミクス, 日本農芸化学会2015年度大会

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Akira Oikawa, Takao Otsuka, Ryo Nakabayashi, Yusuke Jikumaru, Kanji Isuzugawa, Hideki Murayama, Kazuki Saito, Katsuhiko Shiratake (24th June 2014) Metabolome analysis of rosaceous fruits, Metabolomics 2014.

## 星野友紀

### 1-① 論文

- (1) T.Hoshino, S.Watanabe, Y.Takagi and T.Anai (2014): A novel GmFAD3-2a mutant allele developed through TILLING reduces  $\alpha$ -linolenic acid content in soybean seed oil. Breeding Science, 64, 371–377

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 星野 友紀、渡辺 啓史、高木 胖、穴井 豊昭(2014): TILLING法による低リノレン酸ダイズ突然変異系統の開発、第9回東北育種研究集会講演要旨集P-2
- (2) 石川 衿子、阿部 勝磨、杉本 和彦、星野 友紀 (2014): 塩基置換および欠失特異的な切断活性を有するCELIの抽出と反応条件の検討、第9回東北育種研究集会講演要旨集P-3
- (3) 星野 友紀、渡辺 啓史、高木 胖、穴井 豊昭(2014): 逆遺伝学的手法を用いた油脂の酸化安定性に優れた低リノレン酸ダイズ系統の開発、東北植物学会第4回大会研究発表記録P37
- (4) 渡辺 杏里、滝口 可菜、穴井 豊昭、星野 友紀 (2014): 高ステアリン酸ダイズ突然変異系統群のDNA変異様式の解析、東北植物学会第4回大会研究発表記録P38
- (5) 阿部 勝磨、杉本 和彦、星野 友紀 (2014): 高変異率を有するイネ突然変異集団の作出を目指したDNA修復欠損突然変異体の利用、東北植物学会第4回大会研究発表記録P39
- (6) 石川 衿子、阿部 勝磨、杉本 和彦、星野 友紀 (2014): 欠失および塩基置換特異的な切断活性を有するCELIの抽出と切断反応の最適化、東北植物学会第4回大会研究発表記録P40

## 網干貴子

### 1-① 論文

- (1) Yoshitake Y, Yokoo T, Saito H, Tsukiyama T, Quan X, Zikihara K, Katsura H, Tokutomi S, Aboshi T, Tanisaka T et al.(2015): The effects of phytochrome-mediated light signals on the developmental acquisition of photoperiod sensitivity in rice. Scientific Reports, 5, 7709

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 網干貴子、石田真大、松下香織、平野裕之介、森直樹 (2015): アワヨトウ幼虫終齢におけるケルセチン代謝の変化、日本農薬学会台40回大会、B318.
- (2) 志野真実子、内藤裕彬、齊藤準、網干貴子、吉永直子、西田律夫、森直樹 (2015): クチナシ防御物質と広食性はスモンヨトウ幼虫に見られる攻防の分子機構、日本農薬学会第40回大会、A303.
- (3) 網干貴子、Jian Yan、寺石政義、石原亨、奥本裕、Georg Jander、森直樹(2015): ジャスモン酸難処理したイネ葉における $\beta$ -tyrosineの蓄積、日本農芸化学会2015年度大会、3E11p16.
- (4) 前坂佳宏、網干貴子、寺石政義、奥本裕、石原亨、吉永直子、小野肇、西田律夫、森直樹(2015): 植物ホルモンによるイネ新規代謝物 $\beta$ -チロシンの誘導と分布、日本農芸化学会2015年度大会、3E11p17.

- (5) 中田隆、網王貴子、吉永直子、石原亨、寺石政義、Eric Schmelz、小野肇、西田律夫、奥本裕、森直樹(2015):ハスモンヨトウ幼虫の食害に対するダイズ毛茸の化学的応答、日本農芸化学会2015年大会、2E21p01.

## 森林科学コース

### 野堀嘉裕

#### 1-① 著書

- (1) 野堀 嘉裕(2015)山形大学演習林の歴史と現況. 山形の魅力再発見—パート12, 山形大学都市・地域学研究所編,12-17

#### 1-② 論文

- (1) M. L. Lopez C.・C. Mizota・Y. Nobori・T. Sasaki・T. Yamanaka(2014) Temporal changes in nitrogen acquisition of Japanese black pine (*Pinus thunbergii*) associated with black locust (*Robinia pseudoacacia*). *Journal of Forestry Research* 25(3): DOI 10.1007/s11676-014-0498-2: 585-589.
- (2) 瀧誠志郎・南佳織・野堀嘉裕(2014) クロマツ海岸林におけるバイオマス拡大係数の推定. *日森林誌* 96: 229-233.

#### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 白川浩司・飯塚眞成・小林昂太・南佳織・野堀嘉裕(2014) 山形大学上名川演習林スギ林の収量-密度図の構築. 東北森林科学会大会要旨集 19回: 42-42.
- (2) 小林昂太・野堀嘉裕・南佳織・飯塚眞成・白川浩司・武田一夫(2014) タイガの森林限界域におけるカラマツの温暖化影響評価. 東北森林科学会大会要旨集 19回: 43-43.
- (3) 飯塚眞成・白川浩司・南佳織・小林昂太・野堀嘉裕・菊池俊一(2014) 山形大学上名川演習林の林道辺縁部における土砂崩壊地と植生的特徴の関連性の検討. 東北森林科学会大会要旨集 19回: 44-44.
- (4) 小林昂太・野堀 嘉裕・武田一夫(2015)タイガ森林限界付近におけるカラマツの温暖化影響評価. 第126回日本森林学会大会学術講演集 P1B017
- (5) 武田一夫・野堀嘉裕・Larry Lopez・石田祐宣・小林昂太(2015)モンゴル最北部・フブスグル湖集水域における年輪垂直分布の気候変動応答性. 第126回日本森林学会大会学術講演集 P2B150
- (6) 野堀嘉裕・武田一夫・瀧誠志郎・石田祐宣・Lopez, Larry(2015)モンゴル北部カラマツ林の山火事後の森林構造のモデル化. 第126回日本森林学会大会学術講演集 P2B133

#### 1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Kobayashi K., Nobori Y., Takeda K.(2014) Global warming impact for the boreal forest at tree line area in northern Mongolia, Joint Symposium on Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, December 8-10, 2014.
- (2) Zhang Q., Lopez C.M.L., Nobori Y., Takeda K., Byambasuren M.(2014) Climate reconstruction in northern Mongolia inferred from carbon isotopes in tree-rings, Joint Symposium on Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, December 8-10, 2014.
- (3) Hayashi M., Lopez C.M.L., Boy J., Nobori Y., Byambasuren M.(2014) Nitrogen cycle inferred by  $\delta^{15}\text{N}$  in larch stands in Mongolia, Joint Symposium on Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, December 8-10, 2014.
- (4) Takeda K., Nobori Y., Lopez C.M.L., Ishida S., Kobayashi K.(2014) Response of tree growth to climate change in the watershed around Lake Hovsgol, Northern Mongolia, Joint Symposium on Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, December 8-10, 2014.
- (5) Nobori Y., Taki S., Lopez C.M.L., Takeda K., Ishida S., Mizota C.(2014) Forest Window 3D models after forest fire: Biomass and structure change in northern Mongolian forest, Joint Symposium on Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, December 8-10, 2014.
- (6) Minami K., Nobori Y.(2014) Simulation of regeneration time and forest structure on coastal forest stands at Miyagi Prefecture, Joint Symposium on Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, December 8-10, 2014.

## 1-⑤ その他の研究活動

- (1) 野堀 嘉裕(2014):「杉並木の奏でる音」、庄内日報、2014年12月11日掲載

## 高橋孝悦

### 1-① 論文

- (1) Takuya Morikawa, Tatsuya Ashitani, Hisayoshi Kofujita, Koetsu Takahashi (2014): Antitermitic activity of extracts from *Chamaecyparis obtusa* branch heartwood, *European Journal of Wood and Wood Products*, 72, 651-657
- (2) Yohei Yamashita, Naoya Hashimoto, Norihisa Kusumoto, Hiromi Saijo, Ikumi Goto, Hikaru Kobayashi, Yuka Kurihara, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani (2015): Acaricidal activity of components of *Cryptomeria japonica* against spider mites, *Journal of Wood Science*, 61, 60-64
- (3) H. Saijo, H. Kofujita, K. Takahashi, T. Ashitani (2015): Antioxidant activity and mechanism of the abietane-type diterpene ferruginol, *Natural Product Research*, DOI: 10.1080/14786419.2014.997233

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木佑梨, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦(2014): スギ各部位抽出物の藍藻類(*Microcystis aeruginosa*)に対する増殖抑制効果, 第19回東北森林科学学会大会講演要旨集, 28
- (2) 田中駿耶, 富田莉奈, 向井堯徳, 西條裕美, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2014): スギ葉ヘキサノ抽出物の植物生長抑制活性, 第19回東北森林科学学会大会講演要旨集, 40
- (3) 西條裕美, 小藤田久義, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): Ferruginolの自動酸化反応, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M18-07-1000
- (4) 鈴木佑梨, 西條裕美, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): スギ各部位抽出物の藍藻類(*Microcystis aeruginosa*)に対する増殖抑制効果II, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M18-07-1015
- (5) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): Longifoleneの自動酸化反応の解析と生成物の抗蟻活性II, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M17-P-F08
- (6) 田中駿耶, 富田莉奈, 西條裕美, 小山浩正, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): スギ針葉の植物生長抑制効果III, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M17-P-F09
- (7) 高橋孝悦, 向井堯徳, 芦谷竜矢, 楠本倫久, 高田克彦(2015): スギ心材のメタセコイア型ノルリグナンの変異-山形と秋田のスギのノルリグナン類-, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M17-P-F10

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) SAIJO Hiromi, KOFUJITA Hisayoshi, TAKAHASHI Koetsu, ASHITANI Tatsuya (2014): OXIDATION of TERPENE COMPONENTS in *Cryptomeria japonica* BARK, 22nd Conference on Isoprenoids, Prague, Czech Republic, September 7 - 10, Abstract book S131.

## 森 茂太

### 1-① 論文

- (1) 正木 隆, 森 茂太, ほか (2015) 添畑沢スギ間伐試験地における45年生から104年生までの長期成長データ. 森林総合研究所研究報告 第14巻1号: 65-72.
- (2) D. Flaster, S. Mori et al. (2015) A Biomass and Allometry database for woody plants. *Ecology* 95(6): 1445.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 王莫非, 芳士戸啓, Ferrio JP, 森茂太 .2014.12.03. 開葉前のモウソウチクのシュート呼吸スケールリング. 東北植物学会第4大会研究発表記録 p45
- (2) 芳士戸啓, 王莫非, 相澤拓, Ferrio JP, 森茂太 .2014.12.03. 草本植物と木本植物の個体呼吸スケールリング. 東北植物学会第4大会研究発表記録 p46

- (3) Ferrio JP, Wang M, Hoshido H, Aizawa T, Mori S .2014.12.03. Size effects on water content, transpiration and respiration rates in whole sugi seedlings. 東北植物学会第4大会研究発表記録 p47
- (4) 森茂太、王莫非、芳士戸啓、相澤拓、フェリオジュアンペドロ (リエイダ大学・農林)、春間俊克、沖村沙耶佳、山路恵子(筑波大・生命環境)石田厚(京大・生態学研究センター). 2014.12.03. 陸上生態系の網羅的な植物個体呼吸スケーリング: 東北植物学会第4大会研究発表記録. P. 22.
- (5) 相澤拓、森 茂太. 2014.12.03. 維管束植物個体と菌類子実体の呼吸スケーリング. 東北植物学会第4大会研究発表記録. P. 44.

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Wang M, Hoshido H, Ferrio JP, Mori S. 2014. 09. 09. Extremely high respiration of growing whole-bamboo sprouts *Phyllostachys pubescens* -Linked with carbon supply from roots-. 6th international symposium on physiological process in roots of woody plants abstract book. p.80. Japan
- (2) Hoshido H, Wang M, Ferrio JP, Mori S. 2014 . 09. 09. Shoot/Root ratio in whole-plant respiration in some herbaceous and woody plants. 6th international symposium on physiological process in roots of woody plants abstract book p. 80. Japan
- (3) Ferrio JP, Hoshido H, Wang M, Mori S. 2014. 09. 09. The carbon and water balance upside down: Linking root respiration and water uptake in whole trees. 6th international symposium on physiological process in roots of woody plants abstract book. P. 88. Japan
- (4) S Mori, K Yamaji, A Ishida, J P Ferrio. 2014. 09. 09. Universal scaling of shoot/root ratio of whole-plant respiration from seedlings to giant trees. 6th international symposium on physiological process in roots of woody plants abstract book. P. 81. Japan
- (5) S Okimura, K Yamaji, G Hitsuma, S Mori. 2014. 09. 09. The consideration to the possibility of Ni accumulation and the tolerance of *Thujaopsis dolabrata* seedlings growing in serpentine soil, Mt. Hayachine. 6th international symposium on physiological process in roots of woody plants abstract book. P. 57. Japan

## 林田光祐

### 1-① 論文

- (1) 岡田穰・坂本知己・後藤義明・林田光祐(2014): 東日本大震災津波による屋敷林および社寺林の被害からみた広葉樹の耐塩水性の評価. 海岸林学会誌, 13, 15-24.
- (2) 小林峻大・林田光祐(2014): 特異な果実形態を持つケンボナシの種子散布と被食による発芽への影響. 東北森林科学会誌, 19, 41-50.
- (3) 小山浩正・小田野郁子・林田光祐・高橋敏能(2014): ナラ枯れ跡地の低木類の現況と刈り払い後の飼料化の試み. 東北森林科学会誌, 19, 51-58.
- (4) 高橋文・大築和彦・林田光祐(2014): 選択的刈り払いによる森林整備の効果と森林学習の実施による検証—山形県金山町立明安小学校林を事例として—. 東北森林科学会誌, 19, 59-62.
- (5) 渡部公一・上野満・伊藤聡・林田光祐(2014): 海岸風衝地におけるクロマツと落葉広葉樹の混交林造成方法の検討. 海岸林学会誌, 13, 67-72.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 花井滉大・林田光祐(2014): 小流域における樹洞の出現頻度と形態の特徴. 東北森林科学会大会講演要旨集、19、50.
- (2) 高橋文・大築和彦・林田光祐(2014): 山形県森林研究研修センターにおける森林環境学習の取り組みと学校林整備の効果と検証. 東北森林科学会大会講演要旨集、19、65.
- (3) 桑原景子・林田光祐・高橋誠(2014): クロマツ海岸林におけるオオタカとノスリの繁殖環境の特徴. 日本鳥学会大会2014年度大会講演要旨集、55.
- (4) 林田光祐・蜂谷瑞季・結城伸・坂本知己(2014): 仙台井土浦海岸林における2011年津波後の植生回復とクロマツの天然更新. 日本海岸林学会平成26年度大会講演要旨集、26、40-41.
- (5) 高橋あかり・林田光祐(2015): 常緑低木の除去と落ち葉掻きが木本の実生更新に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、126、113.



- (6) 高橋文・林田光祐・大築和彦(2015):選択的刈り払いによる森林整備の効果と森林学習の実施による検証—山形県金山町立明安小学校林を事例として—. 日本森林科学会大会学術講演集、126、167.
- (7) 林田光祐・結城伸(2015):津波被害を受けた仙台平野の海岸林におけるクロマツの天然更新の現状とその要因. 日本森林学会大会学術講演集、126、249.

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 林田光祐(2014):里山のスプリングエフェメラル, 森の時間75, 荘内日報 2014年4月18日.
- (2) 林田光祐(2014):飛島の野生ナシの謎, 森の時間80, 荘内日報 2014年9月11日.
- (3) 林田光祐ほか(2015):大山上池・下池、都沢湿地における植生に関する研究報告書(平成26年度). 21pp. 2015年3月、鶴岡市.

## 小山浩正

### 1-① 論文

- (1) Takano, T., Koseki, T., Koyama, H. and Shiono, Y. (2014) A new cytosporone derivative from the endophytic fungus *Cytopora* sp. *Natural Product Communications* 9: 1-3.
- (2) 小山浩正・佐藤充・東澤春菜(2014) 2013年の結実状況による山形版ブナ豊凶予測手法の検証. 東北森林科学会19:37-40
- (3) 小山浩正・小田野郁子・林田光祐・高橋敏能(2014)ナラ枯れ跡地の低木類の現況と刈り払い後の飼料化の試み. 東北森林科学会19:51-58.
- (4) 武藤輝行・小山浩正 (2014) 河川敷におけるニセアカシアの再生防止を目的とした「切り下げ工法」の効果. 森林立地学会誌. 56:107-110(Corresponding author).

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 小山浩正・佐藤充・東澤春菜・飯沼久仁佳(2014)山形版ブナ豊凶予測手法—2013年の結実状況による検証. 第19回東北森林科学大会. 講演要旨集75.
- (2) 斎藤幹保・小山浩正(2014)クズが登攀可能な支柱の直径の観察. 第19回東北森林科学大会. 講演要旨集48.
- (3) 飯沼久仁佳・小山浩正・芦谷竜矢・森茂太(2014)ブナ葉の諸形質の個体差. 第19回東北森林科学大会. 講演要旨集49.
- (4) 塩野義人・高野智也・村山哲也・小関卓也・小山浩正 (2014) ナラ枯れ被害木より分離した糸状菌 TT-12 株の生産する物質について. 日本農芸化学会大会2015 大会
- (5) Iinuma K., Koyama, H., Difference in resource allocation among beech trees(*Fagus crenata*) in Yamagata. *Present Forestry, Agriculture and Husbandry conditions in Mongolia*.
- (6) 榊原幸江・小山浩正 (2015)クズの匍匐、登攀、下垂各段階における当年シュートの形状の違い. 第126回日本森林学会大会
- (7) 斎藤幹保・小山浩正 (2015)クズが登攀可能な支柱の直径の推定日本森林学会大会 3.26-3.29 第126回日本森林学会大会
- (8) 飯沼久仁佳・小山浩正・芦谷竜矢(2015) 陽樹冠におけるブナの葉の形質、着花数、防御物質量の個体内・個体間差. 第126回日本森林学会大会
- (9) 小山浩正・佐藤充(2015)山形県内全域における開花と結実の最近の状況. 第126回日本森林学会大会
- (10) 橋本美里・小山浩正(2015) 山形県内のブナ豊凶とツキノワグマ出没の地域による違い. 第126回日本森林学会大会

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 山形大の知を地に 教育2014「里山再生へ市民をいざなう」朝日新聞(2014. 6.30)
- (2) 「森の時間」連載 荘内日報(2014.4~2015.3 合計7回)

## 芦谷竜矢

### 1-① 論文

- (1) Takuya Morikawa, Tatsuya Ashitani, Hisayoshi Kofujita, Koetsu Takahashi (2014): Antitermitic activity of extracts from *Chamaecyparis obtusa* branch heartwood, *European Journal of Wood and Wood Products*, 72, 651-657
- (2) Yohei Yamashita, Naoya Hashimoto, Norihisa Kusumoto, Hiromi Saijo, Ikumi Goto, Hikaru Kobayashi, Yuka Kurihara, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani\* (2015): Acaricidal activity of components of *Cryptomeria japonica* against spider mites, *Journal of Wood Science*, 61, 60-64
- (3) H. Saijo, H. Kofujita, K. Takahashi, T. Ashitani (2015): Antioxidant activity and mechanism of the abietane-type diterpene ferruginol, *Natural Product Research*, DOI: 10.1080/14786419.2014.997233

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木佑梨, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦(2014): スギ各部位抽出物の藍藻類(*Microcystis aeruginosa*)に対する増殖抑制効果, 第19回東北森林科学会大会講演要旨集, 28
- (2) 田中駿耶, 富田莉奈, 向井堯徳, 西條裕美, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2014): スギ葉ヘキササン抽出物の植物生長抑制活性, 第19回東北森林科学会大会講演要旨集, 40
- (3) 飯沼久仁佳, 小山浩正, 芦谷竜矢, 森茂太(2014): ブナ葉の諸形質の個体差, 第19回東北森林科学会大会講演要旨集, 49
- (4) 西條裕美, 小藤田久義, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): Ferruginolの自動酸化反応, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M18-07-1000
- (5) 鈴木佑梨, 西條裕美, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): スギ各部位抽出物の藍藻類(*Microcystis aeruginosa*)に対する増殖抑制効果II, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M18-07-1015
- (6) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): Longifoleneの自動酸化反応の解析と生成物の抗蟻活性II, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M17-P-F08
- (7) 田中駿耶, 富田莉奈, 西條裕美, 小山浩正, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2015): スギ針葉の植物生長抑制効果III, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M17-P-F09
- (8) 高橋孝悦, 向井堯徳, 芦谷竜矢, 楠本倫久, 高田克彦(2015): スギ心材のメタセコイア型ノルリグナンの変異-山形と秋田のノルリグナン類-, 第65回日本木材学会研究発表要旨集CD-ROM, M17-P-F10

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) SAIJO Hiromi, KOFUJITA Hisayoshi, TAKAHASHI Koetsu, ASHITANI Tatsuya (2014): OXIDATION of TERPENE COMPONENTS in *Cryptomeria japonica* BARK, 22nd Conference on Isoprenoids, Prague, Czech Republic, September 7 - 10, Abstract book S131.

## ロペス・ラリー

### 1-① 論文

- (1) Lopez C.M.L., Mizota C., Nobori Y, Sasaki T., Yamanaka T., 2014. Temporal changes in nitrogen acquisition of Japanese black pine (*Pinus thunbergii*) associated with black locust (*Robinia pseudoacacia*). *Journal of Forestry Research* 25(3):585-589.
- (2) Lopez C.M.L., Takakai F., Iwahana G., Fedorov T., Iijima Y., Hatano R., Fukuda M. 2015. Snowmelt and the hydrological interaction of forest-grassland ecosystems in Central Yakutia, eastern Siberia. *Hydrological Processes* (In Press).

### 1-② 学会発表(国際学会)

- (1) Snowmelt and the hydrological interaction of forest-grassland ecosystems in Central Yakutia, eastern Siberia. (2014): Symposium Present Forestry, Agriculture and Husbandry Conditions in Mongolia, December 8-10, 2014..

## 早尻正宏

### 1-① 著書

- (1) 興枳克久・早尻正宏他(2015)「緑の雇用」のすべて, 日本林業調査会
- (2) 濱田武士・小山良太・早尻正宏(2015)福島に農林漁業をとり戻す, みすず書房

### 1-② 論文

- (1) 早尻正宏(2014)原子力災害からの山村の復興と森林組合の「協同の任務」, 協同組合経営研究誌にじ, 647, 117-125
- (2) 早尻正宏(2014)原発事故・放射能汚染と森林組合の経営対応——福島県内の「被災組合」の事例分析, 林業経済研究, 60(3), 13-24
- (3) 木村憲一郎・岡田秀二・伊藤幸男・早尻正宏・岡田久仁子(2014)東日本大震災後の福島県森林・林業行政の取り組みと課題, 農村計画学会誌, 33, 209-214
- (4) 早尻正宏(2014)山村地域の再生と「小さな協同」——広域合併下の森林組合の課題, 協同組合研究, 34(1), 12-20
- (5) 早尻正宏・小山良太.(2015). 地域開発・資源管理の展開局面と持続可能性——北海道オホーツク東部地区を中心に. 商学論集, 83(4), 53-72

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 早尻正宏, 2014年5月17日、山村地域の再生と「小さな協同」——広域合併下における森林組合の課題、日本協同組合学会第33回春季研究大会シンポジウム(招待講演)
- (2) 早尻正宏, 2014年7月5日、原子力災害からの山村の復興と「協同の任務」、JC総研第32回公開研究会(招待講演)
- (3) 早尻正宏, 2014年9月11日、ポスト流域林業政策期における産地形成の多様化——北海道の報告、2014年度東日本林業経済研究会(招待講演)
- (4) 木村憲一郎・岡田秀二・伊藤幸男・早尻正宏・岡田久仁子, 2014年11月29日、東日本大震災後の福島県森林・林業行政の取り組みと課題、農村計画学会2014年度秋期大会学術研究発表会

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 早尻正宏(2014)山村地域の再生と「小さな協同」——広域合併下の森林組合の課題, 共済と保険, 676, 22-25
- (2) 早尻正宏(2014)福島のエコ再生に何が必要か——「公共の任務」を考える, 森林科学, 72, 21-24
- (3) 早尻正宏(2015)被災山村の地域経済と産業再建の現局面——原発事故と森林組合, 森林組合, 535, 16-20
- (4) 早尻正宏, 2015年2月26日、「緑の雇用」の利用定着と実践的研修の展開——北海道の事例、平成26年度「緑の雇用」に関する調査検討委員会(第2回)
- (5) 興枳克久・早尻正宏ほか(2015)平成26年度「緑の雇用」現場技術者育成対策の評価に関する調査報告書, 全国森林組合連合会

## 江成広斗

### 1-① 著書

- (1) 關 義和・江成広斗・小寺祐二・辻大和, 編(2015): 野生動物管理のためのフィールド調査法: 哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで. 京都大学学術出版会. 436 pp.

### 1-② 論文

- (1) Enari H. & Sakamaki-Enari H (2014): Synergistic effects of primates and dung beetles on soil seed accumulation in snow regions. Ecological Research 69:653-660
- (2) 桜井良・江成広斗・松田奈帆子・丸山哲也(2014): 社会心理学理論を基にした野生動物に対する住民意識調査の実施とその検証. 哺乳類科学 54(2):219-230
- (3) Tsunoda H, Mitsuo Y, & Enari H (2015) Predicting patterns of intentional introduction of non-native largemouth bass into farm ponds in northeastern Japan. Ecological Research 30(1):15-24

- (4) 江成広斗・渡邊邦夫・常田邦彦 (受理)ニホンザル捕獲の現状:全国市町村アンケート結果から. 哺乳類科学

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 江成広斗、江成はるか (2014) ダム開発がニホンザルの生息地に及ぼす影響:白神山地を事例に. 「野生生物と社会」学会 犬山大会
- (2) 江成はるか、江成広斗、齊藤正一、伊藤志津、渡邊久光、蛭原紘子 (2014) ニホンジカ初期侵入個体群の土地利用特性—山形県の事例—. 「野生生物と社会」学会 犬山大会
- (3) 江成広斗 (2014) 鳥獣法改正に伴うニホンザル管理の行方～科学と現場の課題を考える～. 4学会合同シンポジウム:鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に寄せる期待と展望 (招待講演)
- (4) 江成広斗 (2014) 市町村におけるサル管理の課題と今後. 京都大学霊長類研究所共同利用研究会「法改正に伴う今後のニホンザルの保全と管理の在り方:～ニホンザル個体群管理～方法論の整理～」 愛知県犬山市 (招待講演)

## 水土環境科学コース

### 藤井秀人

#### 1-① 論文

- (1) 藤原洋一・佐藤嘉展・星川圭介・藤井秀人(2014): 気候変動や人間活動が水文・水環境に及ぼす影響―手取川流域およびメコンデルタを対象として―、作物研究59、49-53

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 藤井秀人, 藤原洋一, 星川圭介, 横山繁樹(2014): メコンデルタ洪水常襲稲作地域のフルダイクの進展と水文環境への影響、農業農村工学会大会講演要旨集、636-637.
- (2) 前川勝朗・藤井秀人・本橋 元・畑田一志(2014): 落差工に設置したクロスフロー水車の流況への影響に関する基礎実験、農業農村工学会東北支部宮城大会講演要旨集、57、102-103.
- (3) 藤原洋一・星川圭介・藤井秀人・小寺昭彦・長野宇規・横山繁樹: ベトナム・メコンデルタの河川水位変動とその要因、水文・水資源学会2014年度研究発表会要旨集、pp.116-117、2014

#### 1-③ その他の研究活動

- (1) 本橋元・伊藤祐太・前川勝朗・藤井秀人・丹 省一・畑田 一志・武田 啓之・佐藤大輔(2015): 落差工に設置した開放型水車が流況に及ぼす影響、第20回 庄内・社会基盤技術フォーラム 講演要旨集

### 奥山武彦

#### 1-① 論文

- (1) 土原健雄・奥山武彦・吉本周平・白旗克志・石田聡(2015): 六フツ化硫黄を指標とした山形県七五三掛地すべり地における地下水の年代推定、農業農村工学会論文集、294、65-74

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 奥山武彦(2014): 対策後の大規模地すべりの地下水環境、第53回日本地すべり学会研究発表会講演集、53-54

#### 1-③ その他の研究活動

- (1) 奥山武彦(2014): 「内陸へつなぐ道 一明治から平成の六十里越街道一」、農学の夕べ、2014年11月13日

### 安中武幸

#### 1-① 論文

- (1) 安中武幸・花山 奨(2014): メロンがトンネル栽培された砂丘畑における土壌水分・溶質変動の5T Eセンサーを用いた測定、日本砂丘学会誌、61(1)、1-10
- (2) 花山奨, 安中武幸(2014): 田面水のpH変化が水田土壌からのリン溶出におよぼす影響 農業農村工学会論文集、291、49-50
- (3) Md.Zahidul Haque, Choichi Sasaki, Nobuhiko Matstuyama, Takeyuki Annaka, Chihiro Kato (2014): Groundwater level effect on redox potential, on cadmium uptake and yield of soybean, American J. Plant Sciences, 2014, 5, 3022-3031

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 花山 奨, 安中武幸(2014): ヒートプローブによる田面水の対流速度測定、土壌物理学学会大会講演要旨集、35-36

### 花山 奨

#### 1-① 論文

- (1) 花山奨, 安中武幸(2014): 田面水のpH変化が水田土壌からのリン溶出におよぼす影響 農業農村工学会論文集、291、49-50

- (2) 安中武幸, 花山奨 (2014): メロンがトンネル栽培された砂丘畑における土壌水分・溶質量変動の5TEセンサーを用いた測定 日本砂丘学会, 61, 1-9

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 花山奨, 安中武幸 (2014): ヒートプローブによる田面水の対流速度測定 土壤物理学会大会講演要旨集, 35-36

## 渡邊一哉

### 1-① 論文

- (1) 渡邊一哉, 加藤布美子, (2014), カエルの跳躍能力からみた移動障害となる農業用水路規模, 環境情報科学 学術研究論文集, No.28, 13-18.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 菊地朋希, 渡邊一哉\*, 大久保博, (2014.8.27), 農業用水路に生息するイシガイ類の宿主魚類の特定とその環境条件の検討~山形県鶴岡市文下堰を事例として~, 農業農村工学会大会講演会, 新潟
- (2) 塙壮太, 渡邊一哉\*, 大久保博, (2014.10.30), 山地溪流に放流されたサクラマス幼魚の動態-早田川を事例として-, 農業農村工学会 東北支部宮城大会, 宮城
- (3) 岡本侑樹, 石川智士, 今孝悦, 渡邊一哉, 吉川尚, Jintana Salaenoi, (2014.3.31)タイ南部バンドン湾の貝類養殖域における食物網構造, 平成26年度日本水産学会春季大会 ミニシンポジウム「微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望」, 北海道大学(函館市)
- (4) 岡本侑樹・石川智士・申基澈・中野孝教・渡邊一哉・吉川尚・Jintana Salaenoi タイ南部・バンドン湾における貝類養殖漁場の水質評価 -微量元素分析を用いて-. 平成26年度日本水産学会秋季大会, 2014年09月19日-2014年09月22日, 九州大学(福岡市)

### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Takashi Yoshikawa, Kosuke Tomizawa, Yuki Okamoto, Kazuya Watanabe, Jintana Salaenoi, Kenichi Hayashizaki, Hisashi Kurokura and Satoshi Ishikawa. Primary productivity in aquaculture grounds of bivalves in Bandon Bay, Surat Thani province, Thailand. 9th WESTPAC International Scientific Symposium, 22-25 April 2014, Nha Trang, Vietnam.

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 渡邊一哉, 山本愛, (2014), 赤川におけるサクラマスの越夏環境について, 最上川フォーラム 第10回 もがみがわ水環境発表会, 山形市

## 渡部 徹

### 1-① 著書

- (1) 渡部徹(分担執筆), 東日本大震災合同調査報告 土木編3 ライフライン施設の被害と復旧(東日本大震災合同調査報告書編集委員会編集), pp.87-161(「第2章 下水道施設」の主査, うち, pp.161「4 まとめ」の執筆), 丸善出版, 2015

### 1-② 論文

- (1) 渡部徹\*, 井田真悟, 福士謙介, 中島典之, 山本和夫, 都市のコンパクト化と地産地消の推進によって大気由来の農薬への曝露は増加するか?, 土木学会論文集G(環境), 70(2), 18-31, 2014
- (2) Ayumi Muramatsu, Toru Watanabe\*, Atsushi Sasaki, Hiroaki Ito, Akihiko Kajihara. Rice production with minimal irrigation and no nitrogen fertilizer by intensive use of treated municipal wastewater. Water Science and Technology, 70(3), 510-516, 2014
- (3) 村松亜由美, 渡部徹\*, 伊藤紘晃, 佐々木貴史, 梶原晶彦, 資源循環を目的とした都市下水処理水の循環灌漑による飼料用米栽培システム, 土木学会論文集G(環境), 70(7), III\_175-III\_183, 2014
- (4) 伊藤紘晃\*, 熊谷卓也, 風間しのぶ, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹, パイロシークエンシング法による養殖カキ中のノロウイルスGIIの網羅的遺伝子解析, 土木学会論文集G(環境), 70(7), III\_305-III\_311, 2014
- (5) 三浦郁修\*, 渡部徹, 渡辺幸三, 福士謙介, 家庭内での二次感染を考慮したノロウイルス感染症伝播モデルの構築, 土木学会論文集G(環境), 70(7), III\_295-III\_304, 2014

- (6) Wilai Chiemchaisri\*, Phanida Deerut, Toru Watanabe, Ryo Honda, Chart Chiemchaisri. Effect of norfloxacin on antibiotic resistance of Escherichia coli: Comparison between sequencing batch reactor and sequencing batch membrane bioreactor. ASEAN Engineering Journal Part C, 4(1), 81-92, 2015
- (7) 水中の健康関連微生物研究委員会(片山浩之他, 全13名中7番目として渡部徹), 水中の健康関連微生物に関する研究動向, 水環境学会誌, 37(A)(12), 424-433, 2014

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 村松亜由美, 渡部徹, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 都市下水処理水の循環灌漑による飼料用米栽培に関する研究, 平成26年度農業農村工学会大会講演会, 平成26年8月26~28日, 新潟市
- (2) 紺野勇太, 加来伸夫, 上木厚子, 上木勝司, 渡部徹, 渡邊一哉, 水田への微生物燃料電池の設置が水田土壌中におけるメタン生成に与える影響, 環境微生物系学会合同大会2014, 平成26年10月21~24日, 浜松市
- (3) 益子拓磨, 加来伸夫, 梶原晶彦, 渡部徹, 下水処理水を用いて飼料用米を栽培する水田での発電の可能性, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成27年1月14日, 酒田市
- (4) 有坂知朗, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 渡部徹, 高感度検出法を用いたノロウイルスによる牡蠣汚染のモニタリング, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成27年1月14日, 酒田市
- (5) 于双, 梶原晶彦, 渡部徹, ベトナム中部の洪水氾濫域にある農地の金属汚染調査, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成27年1月14日, 酒田市
- (6) 工藤れん, 田中梨花, 片倉一平, 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 渡部徹, 森は海の恋人~腐植物質による鉄の輸送と太陽光の役割~, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成27年1月14日, 酒田市
- (7) 小澤耕平, 渡辺幸三, 本多了, 梶原晶彦, 渡部徹, チャオプラヤ川流域に生息する薬剤耐性大腸菌の起源推定のための系統発生解析, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成27年3月7日, 多賀城市
- (8) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 藤井学, 吉村千洋, 渡部徹, 溶存鉄の動態への有機物による影響に関する土壌起源別の特性評価, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成27年3月7日, 多賀城市
- (9) 益子拓磨, 加来伸夫, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 下水処理水の循環利用による飼料用米栽培システムにおける増収と発電, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成27年3月7日, 多賀城市
- (10) 于双, 佐々木貴史, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, ベトナム・フエ市周辺の洪水に見舞われる農地における金属汚染, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成27年3月7日, 多賀城市
- (11) 有坂知朗, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 渡部徹, 2014~2015年シーズンの感染性胃腸炎流行期に至るまでの養殖牡蠣のノロウイルス汚染の動向, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成27年3月7日, 多賀城市
- (12) 伊藤紘晃, 有坂知朗, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹, パッシブサンプラーを用いた水中のウイルス連続モニタリングの実現可能性, 第49回日本水環境学会年会, 平成27年3月16~18日, 金沢市
- (13) 林夢雨, 楊森, 野口愛, 本多了, 池本良子, 渡部徹, 石川県河北潟における抗生物質耐性菌の分布と季節変動, 第49回日本水環境学会年会, 平成27年3月16~18日, 金沢市

### 1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Chihiro Tachi, Ryo Honda, Eri Tsuchiya-Nakakahira, Tingting Gu, Ryoko Yamamoto-Ikemoto, Toru Watanabe, Impacts of final sedimentation process on profile of quinolone-resistance genes and their expression in Escherichia coli isolates from a wastewater treatment process. Water and Environment Technology Conference, Tokyo, Japan, June 28-29, 2014
- (2) Toru Watanabe, Yuki Takada. Flood and food as potential carriers of health risk agents between urban and rural lives: A case-study in central Vietnam. EcoHealth 2014 Conference, Montreal, Canada, August 11-15, 2014
- (3) Hiroaki Ito, Takuya Kumagai, Yoshifumi Masago, You Ueki and Toru Watanabe. Application of new generation sequencing technique for NoV GII in oysters. The 4th International Conference on Food and Environmental Virology, Corfu town, Greece, September 2-5, 2014
- (4) T. Watanabe, Y. Takada, D. V. Hieu, P. K. Lieu, H. Ito, T. Omura. Microbial contamination of agricultural fields affected by seasonal flood around Hue city, Vietnam. 13th IWA Specialist Conference on Watershed and River Basin Management, San Francisco, USA, September 9-12, 2014

- (5) A. Muramatsu, H. Ito, A. Sasaki, A. Kajihara, T. Watanabe. Rice cultivation system with circulated irrigation for enhanced nitrogen removal from treated municipal wastewater: Comparison of systems feeding irrigation water upward and downward. IWA 14th International Conference on Wetland Systems for Water Pollution Control, Shanghai, China, October 12–16, 2014
- (6) Kohei Ozawa, Toru Watanabe, Horoaki Ito, Ryo Honda, Wilai Chiemchaisri and Kozo Watanabe. Restriction fragment length polymorphism (RFLP) analysis of antibiotic resistant Escherichia coli for its source tracking. The 7th ASEAN Environmental Engineering Conference, Puerto Princesa, Palawan, Philippines, November 21–22, 2014
- (7) Takayuki Sakuraba, Hiroaki Ito, Manabu Fujii and Toru Watanabe. Effect of photochemical reaction in fulvic acid on composition of functional groups and rate constant of complexation with Fe (III). The 7th ASEAN Environmental Engineering Conference, Puerto Princesa, Palawan, Philippines, November 21–22, 2014
- (8) Toru Watanabe, Yuki Takada, Duong V. Hieu, Pham K. Lieu. Does floodwater transport contaminants from urban area to surrounding agricultural fields? – A case study in Hue, Vietnam. The 6th ASIAHORCs Joint Symposium, Bangkok, Thailand, November 26–28, 2014(招待講演)



## プロジェクト教員

### 伊藤紘晃

#### 1-① 論文

- (1) A. Muramatsu, T. Watanabe, A. Sasaki, H. Ito, A. Kajihara. (2014): Rice production with minimal irrigation and no nitrogen fertilizer by intensive use of treated municipal wastewater, *Water Science and Technology*, 70, 510-516.
- (2) 村松亜由美, 渡部徹, 伊藤紘晃, 佐々木貴史, 梶原晶彦 (2014): 資源循環を目的とした都市下水処理水の循環灌漑による飼料用米栽培システム, *土木学会論文集G(環境)*, 70, III\_175-III\_183.
- (3) 伊藤紘晃, 熊谷卓也, 風間しのぶ, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹 (2014): パイロシークエンシング法による養殖カキ中のノロウイルスGIIの網羅的遺伝子解析, *土木学会論文集G(環境)*, 70, III\_305-III\_311.
- (4) H. Ito, M. Fujii, Y. Masago, T. D. Waite and T. Omura (2015): Effect of ionic strength on ligand exchange kinetics between a mononuclear ferric citrate complex and siderophore desferrioxamine B, *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 154, 81-97.

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 村松亜由美, 渡部徹, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 2014年8月26-28日, 都市下水処理水の循環灌漑による飼料用米栽培に関する研究, 平成26年度農業農村工学会大会講演会.
- (2) 有坂知朗, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 渡部徹, 2015年1月14日, 高感度検出法を用いたノロウイルスによる牡蠣汚染のモニタリング, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム.
- (3) 工藤れん, 田中梨花, 片倉一平, 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 渡部徹, 2015年1月14日, 森は海の恋人～腐植物質による鉄の輸送と太陽光の役割～, 第20回庄内・社会基盤技術フォーラム.
- (4) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 藤井学, 吉村千洋, 渡部徹, 2015年3月7日, 溶存鉄の動態への有機物による影響に関する土壌起源別の特性評価, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会.
- (5) 益子拓磨, 加来伸夫, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 2015年3月7日, 下水処理水の循環利用による飼料用米栽培システムにおける増収と発電, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会.
- (6) 于双, 佐々木貴史, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 2015年3月7日, ベトナム・フエ市周辺の洪水に見舞われる農地における金属汚染, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会.
- (7) 有坂知朗, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 渡部徹, 2015年3月7日, 2014～2015年シーズンの感染性胃腸炎流行期に至るまでの養殖牡蠣のノロウイルス汚染の動向, 平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会.
- (8) 伊藤紘晃, 有坂知朗, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹, 2015年3月16-18日, パッシブサンプラーを用いた水中のウイルス連続モニタリングの実現可能性, 第49回日本水環境学会年会.

#### 1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) H. Ito, Takuya Kumagai, Y. Masago, Y. Ueki and T. Watanabe, September 2-5, 2014, Application of new generation sequencing technique for NoV GII in oysters, The 4th International Conference on Food and Environmental Virology, Greece.
- (2) T. Watanabe, Y. Takada, D. V. Hieu, P. K. Lieu, H. Ito and T. Omura, September 9-12, 2014, Microbial contamination of agricultural fields affected by seasonal flood around Hue city, Vietnam, 13th IWA Specialist Conference on Watershed and River Basin Management, USA.
- (3) A. Muramatsu, H. Ito, A. Sasaki, A. Kajihara and T. Watanabe, October 12-16, 2014, Rice cultivation system with circulated irrigation for enhanced nitrogen removal from treated municipal wastewater: Comparison of systems feeding irrigation water upward and downward, IWA 14th International Conference on Wetland Systems for Water Pollution Control, China.
- (4) K. Ozawa, T. Watanabe, H. Ito, R. Honda, W. Chiemchaisri and K. Watanabe, November 21-22, 2014, Restriction fragment length polymorphism (RFLP) analysis of antibiotic resistant *Escherichia coli* for its source tracking, The 7th ASEAN Environmental Engineering Conference, Philippines.
- (5) T. Sakuraba, H. Ito, M. Fujii and T. Watanabe, November 21-22, 2014, Effect of photochemical reaction in fulvic acid on composition of functional groups and rate constant of complexation with Fe (III), The 7th ASEAN Environmental Engineering Conference, Philippines.

## ②学会・社会活動

### 安全農産物生産学コース

#### 夏賀元康

##### 2-① 学会活動

###### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業機械学会(評議員 2005年4月～2015年3月)
- (2) 近赤外研究会(理事 2005年4月～)
- (3) 韓国農業機械学会(The Korean Society for Agricultural Machinery) (英文誌編集委員 2011年4月～)
- (4) 農業食料工学会(理事 2013年9月～2015年3月)
- (5) 農業食料工学会(表彰委員 2013年9月～2015年3月)
- (6) 農業食料工学会東北支部(支部長 2013年9月～2015年3月)
- (7) 北海道家畜管理研究会
- (8) 農業施設学会
- (9) 農業機械学会北海道支部会
- (10) 日本食品科学工学会
- (11) アメリカ農業生物工学会(American Society of Agricultural and Biological Engineers)
- (12) 農業機械学会東北支部
- (13) エダマメ研究会

##### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 科学まつり in 鶴岡, 2014年11月

##### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 農業食料工学会東北支部学術賞, 2014年08月21日, 日本国, 農業食料工学会東北支部, 夏賀元康

#### 西澤 隆

##### 2-① 学会活動

###### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本園芸学会
- (2) 生物環境工学会(評議員2014)
- (3) 園芸学会東北支部会
- (4) 国際園芸学会
- (5) 米国園芸学会
- (6) 人間植物関係学会

##### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「白色有機ELディスプレイを用いた野菜栽培」に関する講演. 情報機構(平成26年6月19日)

- (2) 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業実施. 日本学術振興会補助事業・鶴岡南高校主催 (平成26年4月～平成27年2月)
- (3) 「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業実施. 日本学術振興会補助事業(平成26年9月20日)

## 2-③ 学会賞受賞等

- (1) Outstanding Postharvest Horticulture Researcher賞. The 3rd Asia Pacific Symposium on Postharvest Research, Education and Extension(平成26年12月9日)

## 藤井弘志

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会、日本作物学会
- (2) 日本土壌肥料学会(第6部門、部門長2011～2014)
- (3) 日本土壌肥料学会(欧文誌)編集委員(2011～2014)
- (4) 日本土壌肥料学会評議員、日本土壌肥料学会東北支部会評議員
- (5) 日本作物学会評議員、日本作物学会東北支部会評議員

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Sci. Plant Nutri. 5件
- (2) 日本土壌肥料学雑誌:1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立農業大学校特別講義(土壌肥料)(植物生理)6回:6月5日、7月17日、10月9日
- (2) 山形県立農業大学校「働きながら学ぶ稲作講座」2回:7月30日、8月27日
- (3) 営農指導員技術研修会「藤井塾」9回:4月25日、5月16日・23日、6月12日・19日、7月10日・17日、8月7日・8日
- (4) 土づくり研修会(7月6日)(JA余目)(100人)
- (5) 土づくり講演会(7月8日)(三重県伊賀農協)(150人)
- (6) 講演会「酒田市農業の方向」(7月14日)(酒田市)(50人)
- (7) エコ農業会議(7月28日)(山形県)(30人)
- (8) 講演会(山形ビジネススクール)(7月19日)(50人)
- (9) 講演会「気象変動に負けない作物生産」(11月11日)(庄果)(100人)
- (10) 土づくり講演会(11月16日)(JA鶴岡)(70人)
- (11) 講演会「大石田農業の方向」(12月2日)(大石田町)(100人)
- (12) 土づくり講演会(12月7日)(JA余目)(120人)
- (13) 有機農業認証委員会(12月24日)(山形県)(10人)
- (14) 講演会「気象変動に負けない作物生産」(1月20日)(庄果)(100人)
- (15) 土づくり講演会(1月25日)(福井県)(150人)
- (16) 有機農業コンソーシアム(2月6日)(山形県)(40人)
- (17) 講演会「気象変動に負けない作物生産」(2月8日)(産直ネット)(120人)
- (18) 講演会「気象変動に負けない作物生産」(2月27日)(JAみどり)(100人)
- (19) 認定農業者講演会「土づくり」(3月7日)(酒田市)(140人)

- (20) 有機農業研究会(3月13日)(山形県)(70人)

## 平 智

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(評議員、2012～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(理事、学会賞選考委員、2011～現在)
- (3) 人間・植物関係学会(理事、2005～現在)

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所所長(2012～現在)
- (2) 鶴岡食文化創造都市推進委員会委員長(2011～現在)
- (3) 鶴岡市グリーンツーリズム推進協議会会長(2007～現在)
- (4) 鶴岡市森林文化都市研究会会長(2011～現在)
- (5) 鶴岡市総合計画審議会委員、同企画専門委員会委員長(2007～現在)
- (6) 山形在来作物研究会副会長(2009～現在)

## 堀口健一

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会(国際情報担当委員2011年度～)
- (3) 東北畜産学会(評議員2010年度～)
- (4) 日本家畜管理学会
- (5) 肉用牛研究会
- (6) ルーメン研究会(評議員2013年度～)

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 全国山羊サミットin山形・サミット運営委員(事務局長): 山形県鶴岡市(2014年10月11日～2014年10月12日)

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 夏期セミナー「牛肉にもいろいろありましてー肉質からの評価ー」2014年8月4日
- (2) 山形県試験研究機関アドバイザー・ボードメンバー 2014年4月1日～2016年3月31日

## 吉田宣夫

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会(評議員2001～2014)
- (2) 東北畜産学会(評議員2008～2014)

## 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 全国山羊(やぎ)サミットin山形・大会委員長:鶴岡市山形大学農学部(平成26年10月11日～平成26年10月12日)

## 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Animal Science Journal(日本) 1件
- (2) 日本草地学会誌(日本) 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農林水産省生産局畜産振興課 平成23年度国産粗飼料増産対策事業に係る稲発酵粗飼料コーディネーター資質向上会議委員(2012～2014)
- (2) (一社)日本草地畜産種子協会 フォーレンジテスト新システム構築事業に係る推進委員(2012～2014)
- (3) (一社)中央畜産会 全国優秀畜産経営管理技術発表大会審査委員(2014)
- (4) (一社)日本草地畜産種子協会 全国自給飼料生産コンクール審査委員および全国飼料増産優良事例選考委員(2014)
- (5) (一財)畜産環境整備機構 牛由来堆肥被災地水田施用実証等事業に係る事業推進委員(2012～2014)
- (6) 山形県農林水産部 山形県農林水産技術会議委員(2010～2014)
- (7) 山形県最上総合支庁 農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業審査委員(2009～2014)
- (8) 「飼料用米生産振興に向けた課題提起」について講演:JA全中主催・海運ビル(平成26年11月11日)
- (9) 「飼料用米利用の現状と問題点」について講演:農水省農林水産技術会議事務局・農研機構東北農業研究センター主催・ホテルメトロポリタン盛岡(平成26年11月26日)
- (10) 「飼料用米・WCS用稲の現状と課題」について講演:農研機構畜産草地研究所・全国農業普及支援協会・全国酪農業協同組合連合会主催・発明会館(平成26年12月1-2日)
- (11) 「飼料用米の全国動向とマッチング方向」について講演:山口県飼料用米推進協議会、(一社)日本草地畜産種子協会主催・山口県農業試験場(平成27年2月27日)

## 小笠原宣好

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

## 角田憲一

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(常任編集委員2014～現在)
- (2) Sago Palm
- (3) 根の学会
- (4) 日本土壌肥料学会東北支部会
- (5) 日本作物学会東北支部会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本土壌肥料学会誌(日本) 8件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) わんぱく農業クラブ 年8回実施
- (2) 鶴岡市有機農産物認定判定委員会委員(平成26年～現在)
- (3) 「粘土は私たちのくらしと平和を守っている?～土からみた農学」についての講演:鶴岡東高等学校(平成26年11月12日)

## 長谷 修

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会 (東北部会幹事2008～現在)
- (2) アメリカ植物病理学会 会員
- (3) 日本植物生理学会 会員
- (4) 北日本病害虫研究会 会員(評議員2013.4～現在)
- (5) 日本菌学会 会員

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of General Plant Pathology (日本) 1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 平成26年度 免許状更新講習「作物病害と水稻栽培に関する講義」講師(分担)平成26年8月7日、山形大学農学部、受講人数4名
- (2) 平成26年度日本植物病理学会植物病害診断教育プログラム「花卉類・野菜類の病害診断」講師(分担)、平成26年8月26日、弘前大学農学生命科学部、受講人数19名

## 小林 隆

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会
- (2) The American Phytopathological Society
- (3) 北日本病害虫研究会(編集委員2009～)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本植物病理学会報 1件
- (2) 北日本病害虫研究会報 3件

## 片平光彦

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業機械学会
- (2) 農業施設学会
- (3) 農作業学会
- (4) American Society of Agricultural and Biological Engineers

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) JICAアフリカ地域 稲作収穫後処理研修, 2011年08月 ~ 継続中
- (2) 秋田県農業研修センター, 2010年07月 ~ 継続中  
水田転換ほ場の営農排水対策

## 森 静香

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本作物学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県科学技術奨励賞審査委員会委員(2014年6月1日~2016年5月31日)
- (2) 山形県リサイクル製品認定・リサイクルシステム認証審査会審査員(2014年6月2日~2016年3月31日)
- (3) ほとりあ学習発表会:主指導の学生(修士課程)の研究(都沢湿地におけるヨシの生育に関する研究)についての報告・紹介 3月8日(鶴岡市自然学習交流館)

## 佐藤 智

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本昆虫学会
- (2) 日本昆虫学会東北支部会
- (3) 日本生態学会
- (4) 日本応用動物昆虫学会

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第59回日本応用動物昆虫学会・大会事務局長:山形県山形市(平成27年3月26日~平成27年3月29日)

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 公開セミナー:ひらめきときめきサイエンスの実施:2014年9月20日、場所:山形大学農学部、参加人数は20人程度

## 松山裕城

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会
- (3) 東北畜産学会

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第16回全国山羊サミットin山形、庶務・渉外担当:山形大学農学部(平成26年10月11日~12日)

## 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本草地学会 1件
- (2) 山形大学紀要(農学) 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「飼料設計の基本について」の講演、農林水産省主催、平成26年度中央畜産技術研修会(飼料A・B)、2014年8月26日、場所:家畜改良センター、参加人数:30人
- (2) 「飼料用イネ(稲発酵粗飼料・飼料用米)の給与技術」の講演、農林水産省主催、平成26年度中央畜産技術研修会(自給飼料 飼料用米・WCS)、2014年10月7日、場所:家畜改良センター、参加人数:30人
- (3) 「お米を食べる動物のはなし」の講演、山形大学附属やまがたFSC主催、2014年10月4日、場所:附属FSC、参加人数:20人

## 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第64回東北畜産学会福島大会優秀発表賞:肥育豚における膨軟化粳米サイレージの給与が発育ならびに肉質に及ぼす影響(2014年9月12日)

## 池田和生

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会
- (2) 園芸学会東北支部(会計幹事)
- (3) 日本植物細胞分子生物学会
- (4) 山形在来作物研究会(幹事)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 園芸学研究(国内)1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 県立酒田西高等学校大学模擬講義「山形の果物のヒミツにせまる」(平成26年7月3日)
- (2) 在来作物実践講座「おしゃべりな畑」生産支援コース副担任

## 佐々木由佳

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本作物学会
- (3) 農業農村工学会
- (4) 日本熱帯農業学会
- (5) サゴヤシ学会
- (6) 山形在来作物研究会
- (7) 東北地区自然災害科学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 附属農場開放事業「わんぱく農業クラブ」の運営(2005年～現在)



- (2) 庄内水田農業推進機構委員(2009年4月～現在)
- (3) 山形大学農学部鶴窓会代議員(2011年4月～現在)
- (4) 山形大学東北創生研究所 研究員(食糧生産研究部門) 兼任(2014年6月～2017年5月)
- (5) JICA短期研修「アフリカ地域(英語圏)稲作収穫後処理」講師(2014年8月18日～9月25日)
- (6) 庄内水田農業推進機構庄内水田フォーラム2015 コーディネーター(2015年2月20日)

## 松本大生

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) The Horticultural Journal: 1件
- (2) PLoS ONE: 2件

## 食農環境マネジメント学コース

### 岩鼻通明

#### 2-① 学会活動

##### 2-①- (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本民俗学会(理事2011～2014)
- (2) 日本山岳修験学会(理事1990～現在)
- (3) 東北地理学会(評議員2013～現在)
- (4) 歴史地理学会(評議員1990～現在)
- (5) 人文地理学会(評議員2012～現在)

##### 2-①- (ii) 学会の主催等

- (1) 東北地理学会・秋季大会実行委員長:山形大学小白川キャンパス(2014年10月11～12日)

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県景観審議会委員(2008～2015)、大江町文化的景観委員会委員(2008～2015)
- (2) 「米沢市綱木の「草木塔」について講演:山形大学コンソーシアム主催・やまがた夜話(2014年6月11日)
- (3) 「出羽三山の信仰圏と秋田」について講演:秋田大学史学会主催(2014年9月26日)
- (4) 「山形県の即身仏」について講演:致道博物館土曜講座(2014年10月4日)
- (5) NHK総合TV「小さな旅 月山」について事前に用語に関するアドバイスをを行う(2014年9月7日放送)
- (6) 農学部大学祭において韓国映画「南宮洞1985」上映会を主催(2014年11月2日)
- (7) 朝日新聞社東京本社記者より出羽三山の即身仏に関する取材(2014年12月8日付夕刊に記事掲載)

### 小沢 互

#### 2-① 学会活動

##### 2-①- (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 東北農業経済学会(副会長. 2008～現在)
- (4) 農村計画学会(評議員. 2013～現在)
- (5) 日本フードシステム学会
- (6) 地域活性学会

##### 2-①- (ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経済研究 2件
- (2) 農村経済研究 5件
- (3) ISFJ日本政策学生会議 3件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業・農村政策審議会委員(山形県. 会長代理. 2006年4月～)
- (2) 「やまがた6次産業ビジネススクール」プログラム開発リーダー(やまがた6次産業コンソーシアム. 2008年10月～)

- (3) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員(やまがた6次産業コンソーシアム, 2009年4月～)
- (4) やまがた6次産業ビジネススクール講師(やまがた6次産業コンソーシアム, 2009年8月～)
- (5) 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員(鶴岡市, 2009年11月～)
- (6) 専門家派遣事業にかかる専門家(山形県農業会議, 2008年5月～)
- (7) 山形県米政策推進会議委員(山形県, 会長, 2007年9月～)
- (8) 産学連携による高度アグリビジネス人材育成プロジェクト委員会委員(高崎経済大学, 2011年11月～)
- (9) 山形県農村環境保全推進委員会委員(山形県, 座長, 2012年2月～)
- (10) 公益財団法人やまがた農業支援センター評議員選定委員会委員(やまがた農業支援センター, 2011年2月～)
- (11) やまがた6次産業化戦略推進本部(山形県, 2013年4月～)
- (12) 豊かなむらづくり審査会委員(東北農政局, 2014年5月～)
- (13) 米政策等の見直しに係る検討会アドバイザー(川西町農業再生協議会, 2014年5月～)
- (14) 農地中間管理事業評価委員会委員(やまがた農業支援センター, 委員長, 2015年1月)
- (15) 例会におけるゲスト講話「農業・農村活性化に役立つために」(鶴岡ロータリークラブ, 2014年5月13日)
- (16) 三川町農業振興検討会講師『三川町の今後の農業振興策について』(三川町議会, 2014年6月6日)
- (17) 研修会講師『農政の方向性と水田農業地域の今後』(川西町農業再生協議会, 2014年6月22日)
- (18) 農林漁家民宿はじめるための第一歩講習会講師『農家民宿を始めるってどんなことー農家経営にとっての意義ー』(鶴岡食文化産業創造センター, 2014年7月31日)
- (19) 講師『農と食、国際情勢を踏まえて』(山形高校生フロンティア事業, 2014年8月6日)
- (20) 講師『統計は社会を映す鏡です』(西川町統計調査員研修会, 2014年8月25日)
- (21) 平成26年度おしゃべりな畑講師『6次産業の意義と役割、研修のねらい』(山形大学農学部, 2014年8月26日)
- (22) 平成26年度おしゃべりな畑講師『ワークショップ・私のねらい』(山形大学農学部, 2014年9月3日)
- (23) 田川地区高校PTA研修会講師『消費者が生産者とともに築く食の安全』(鶴岡まちなかキネマ, 2014年11月22日)
- (24) 寒河江市特別市民講座「第6次産業を考える」講師『農業集落の活性化を図り、地域に根差した農業を考える』(寒河江式中交流プラザ, 2015年1月19日)
- (25) 新規就農フォーラム・パネルディスカッション・アドバイザー(鶴岡市, 2015年3月10日)

## 角田 毅

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 東北農業経済学会・理事
- (4) 地域農林経済学会
- (5) 日本農業普及学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農村経済研究(日本)1本

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 酒田市スーパー農業経営塾座長(2014.4～2015.3)
- (2) 東北公益文科大学非常勤講師(2014.4～2014.9)
- (3) やまがた6次産業ビジネススクール講師
- (4) 山形県創意工夫プロジェクト支援事業(最上総合支庁)計画審査委員(2014.4～2015.3)
- (5) 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員(2014.4～2015.3)
- (6) 鶴岡市農業委員会農業振興担い手専門委員会・山形大学農学部交流事業、2014.5.24
- (7) 東北農政局国営事業事後評価技術検討会委員(2014.4～2015.3)
- (8) 第5回農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウムコーディネーター(2014.10)

## 家串哲生

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 地域農林経済学会(編集委員会委員 現在～2016)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 山形大学紀要、論文審査レフリー、1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「再生可能エネルギーを活用した産業振興に関する研修会」での講演:山形県議会事務局政策調査室主催、山形県議会(2014年6月25日)
- (2) 「農業×再生可能エネルギー戦略」、最上夜学での講演:山形大学国際事業化研究センター主催、新庄信用金庫文化ホール(2015年1月22日)

## 藤科智海

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 日本フードシステム学会
- (4) 東北農業経済学会
- (5) 農村計画学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県研究評価委員会委員(2012年6月～継続中)
- (2) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員(2011年08月～継続中)
- (3) やまがた6次産業ビジネススクール講師(2011年08月～継続中)
- (4) 在来作物の実践講座「おしゃべりな畑」講師(2012年09月～2015年3月)
- (5) 山形県立農業大学校「農産加工マーケティング」講師(2014年10月～12月)
- (6) 庄内地域農林水産業若者賞審査委員(2014年10月24日)
- (7) 食の未来創生講座講師(2014年11月21日)

## 渡辺理絵

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地理学会
- (2) 人文地理学会
- (3) 国際地図学会
- (4) 東北地理学会
- (5) 歴史地理学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 東北地理学会:1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 松江市史専門委員(絵図・地図部会)(平成23年6月15日～平成27年3月31日)
- (2) 松江市史専門委員(城郭部会)(平成23年6月15日～平成27年3月31日)
- (3) 米沢市文化財保護審議会委員(平成23年7月1日～平成29年6月30日)
- (4) 山形県景観審議会委員(平成24年2月8日～平成28年2月7日)
- (5) 山形県文化財審議会委員(平成24年7月1日～平成26年6月30日)
- (6) 山形県庄内総合支庁山形海区漁業調整委員会委員(平成24年8月15日～平成28年8月14日)
- (7) 山形県環境審議会委員(平成25年5月1日～平成29年4月30日)
- (8) 山形県総合政策審議会特別委員(平成25年7月5日～平成27年4月29日)
- (9) 鶴岡市都市再興基本都市計画市民懇話会委員(平成27年3月18日～平成28年3月17日)

## 食品・応用生命科学コース

### 三橋 涉

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会(東北支部幹事 2000～現在)
- (2) 日本農芸化学会(東北支部参与 2013～現在)
- (3) 日本植物生理学会
- (4) 日本植物学会
- (5) アメリカ植物科学会、日本分子生物学会

##### 2-①-② (ii) 学会の主催等

- (1) 日本農芸化学会東北支部シンポジウム「植物ホルモン研究の“New Era”」準備委員長・鶴岡市(平成26年7月19日)

### 小関卓也

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(代議員2014.5～2016、JABEE対応委員会委員2011～現在、東北支部山形県代表参与2013.7～)
- (2) 日本生物工学会(北日本支部代議員2011.5～現在)
- (3) 日本応用糖質科学会(東北支部理事2010.5～現在)
- (4) 日本醸造学会
- (5) 日本栄養・食糧学会(東北支部参与2014.2～)
- (6) 糸状菌分子生物学研究会

##### 2-①-② (ii) 学会の主催等

- (1) 第66回日本生物工学会大会・実行委員:札幌市(平成26年9月9日～9月11日)

##### 2-①-③ (iii) 論文審査の依頼等

- (1) PLoS ONE(米国), 1件
- (2) Journal of Agricultural and Food Chemistry(米国), 1件
- (3) Biotechnology for Biofuels(米国), 1件
- (4) British Microbiology Research Journal(英国), 1件
- (5) Molecular Biotechnology(米国), 1件
- (6) Food Technology and Biotechnology(クロアチア), 1件
- (7) Journal of Biochemistry(日本), 1件
- (8) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本), 2件
- (9) Bioscience, Biotechnology and Biochemistry(日本), 1件
- (10) Journal of Applied Glycoscience(日本), 1件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形セレクション加工食品分野(日本酒)専門委員会委員(2007.4～現在)

- (2) 山形県農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会委員(2014.4～)
- (3) 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究課題評価分科会委員(2014.10～2017.3)
- (4) 鶴岡南高校スーパーサイエンスハイスクール「鶴南ゼミ」講師(2013.4～現在)
- (5) 産学連携交流会(2014.10.3)
- (6) 平成26年度大学模擬講義, 山形県立楯岡高校(2014.10.8)

## 豊増知伸

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会(評議員2010～現在)
- (3) 植物生理学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Biotechnology Reports(1件)
- (2) Journal of Plant Growth Regulation(1件)
- (3) Plant Science(1件)

## 永井 毅

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本食品科学工学会
- (2) 日本食品化学学会
- (3) 日本農芸化学会
- (4) 日本水産学会
- (5) 日本生化学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Food Science and Technology 2報
- (2) British Journal of Medicine and Medical Research 1報
- (3) Journal of Chemistry 2報
- (4) British Microbiology Research Journal 1報
- (5) American Chemical Science Journal 4報
- (6) British Journal of Applied Science & Technology 2報
- (7) Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine 1報
- (8) LWT – Food Science & Technology 1報
- (9) International Journal of Agricultural Policy and Research 2報
- (10) International Research Journal of Pure and Applied Chemistry 3報
- (11) American Journal of Experimental Agriculture 1報
- (12) Journal of Applied Chemical Science International 1報

- (13) European Journal of Medicinal Plants 2報
- (14) Advances in Toxicology 1報
- (15) Annual Research & Review in Biology 1報 他

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 最上夜学 新庄信用金庫文化ホール(2014.11.19)
- (2) 寒河江市特別市民講座 寒河江市技術交流プラザ(2014.11.27)
- (3) 全国水産加工業協同組合連合会水産加工食品製造業技能評価試験試験官

## 木村直子

### 2-① 学会活動

#### 2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会会員(1995年～)
- (2) 日本繁殖生物学会会員(2012年～理事、2010年～男女共同参画推進委員およびJRD編集委員)
- (3) 日本受精着床学会会員(2012年～理事、2010年～評議員)
- (4) 日本哺乳動物卵子学会会員(2014年～理事、代議員、2013年～生殖補助医療胚培養士資格認定委員)
- (5) 東北畜産学会(2011年～評議員)

#### 2-①-② (ii) 学会の主催等

- (1) 第107回日本繁殖生物学会大会男女共同参画推進ランチョンセミナー「若手研究者の現状と将来ビジョン～男女共同参画社会におけるリーダー像～」の企画・実施・プレゼン。(2014年8月22日開催、帯広畜産大学(帯広市))

#### 2-①-③ (iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Reproduction and Development (日本): 3件
- (2) 日本栄養・食糧学会誌(日本): 2件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)の講師(兼業)、2014年度通年。
- (2) 山形大学特殊講義IV-ライフサイエンス特論-の講師(分担)、講義タイトル「卵子の研究と生殖技術への応用・普及」。(2014年4月25日担当、山形大学小白川キャンパス)
- (3) 女性研究者裾野拡大セミナー2014 in 農学部 Part1「女子高校生のためのランチョンセミナー～これからのキャリア形成を考える上で～」の企画・実施・プレゼン(2014年8月3日開催、山形大学農学部キャンパス)
- (4) 平成26年度「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」への参加(日本繁殖生物学会男女共同参画推進委員としてポスター展示・キャリア相談ブースを担当、2014年8月7・8日、埼玉県比企郡国立女性教育会館)
- (5) 女性研究者裾野拡大セミナー2014 in 農学部 Part2「企業に聞いてみよう!～修士号を得て就職するメリットって!?～」の企画・実施(2014年11月25日開催、山形大学農学部キャンパス)
- (6) 栃木県栃木翔南高等学校の翔南一日大学にて模擬講義の講師「豊かな未来を目指して、食料-生命-環境科学を多面的に学ぼう!」(2014年9月30日実施、栃木市)

### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 独立行政法人日本学術振興会平成26年度「科研費」審査委員の表彰(平成26年10月31日)



## 加来伸夫

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会(嫌気性界の微生物生態研究部会事務局担当)
- (2) 日本土壤微生物学会
- (3) 日本農芸化学会
- (4) 日本土壤肥料学会
- (5) 日本水環境学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Microbes and Environments (日本) 2件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校科学部の研究活動への支援・協力・連携(平成20年9月～現在)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校SSH授業講師
- (3) 山形県立農業大学校地域連携会議委員
- (4) 福島県立橘港等学校出前講義
- (5) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 平成26年度スキルアップ研修会にてポスター発表
- (6) 平成26年度免許状更新講習講師
- (7) 鶴岡市立荘内看護専門学校非常勤講師
- (8) 鶴岡工業高等専門学校非常勤講師

### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 環境微生物系学会合同大会2014優秀ポスター賞

## 塩野義人

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会
- (3) 日本薬学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 4件

## 渡辺昌規

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生物工学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品工学会

- (4) Journal of Bioscience and Bioengineering (Elsevier publisher) 英文誌編集委員2013～2017
- (5) 山形県サイエンスナビゲーター

## 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本) 12件
- (2) Applied Microbioloy and Biotechnology(独) 2件
- (3) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本) 1件
- (4) Food and Applied Bioscience(タイ) 3件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 愛知工業大学名電高等学校 出前講義:平成26年6月30日
- (2) 山形県サイエンスナビゲーター事業「竹炭電池の製作」講演:主催・山形県工業戦略技術振興課・東根市立東郷小学校(平成26年7月26日)
- (3) 山形大学農学部夏期セミナー(生命系コース)担当:主催本学農学部(平成26年8月4日)
- (4) やまがた第6次産業ビジネススクール講師:主催・やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム、(山形県産業創造支援センター、平成26年8月6日)
- (5) 「農学のタベ」講師:主催本学農学部(平成26年10月2日)
- (6) 山形県サイエンスナビゲーター事業「竹炭電池づくり、手作りヨーグルトの微生物観察」講演:主催・山形県工業戦略技術振興課・三川町公民館(平成26年11月8日)
- (7) 庄内総合支庁・農学部情報交流会講演:主催本学農学部(平成26年11月11日)
- (8) Bridgestone・山形大学情報交流会講演:主催山形大学・本学工学部100周年記念会館(平成27年3月9日)

## 植物機能開発学コース

### 村山哲也

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学(東北支部参与継続中)
- (2) 日本薬学会
- (3) 有機合成化学協会

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry(日本)2件

### 俵谷圭太郎

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会(東北支部評議員)
- (2) 日本土壤微生物学会
- (3) 日本菌学会

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition
- (2) Biology and Fertilites of Soils
- (3) Mycoscience

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北公益文科大学非常勤講師(持続的農林業概論)
- (2) 鶴岡市環境審議会委員

### 村山秀樹

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(園芸学会雑誌編集委員2012～現在, 園芸学会東北支部会支部長2013～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(評議員2009～現在)
- (3) 国際園芸学会

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Science 1件
- (2) Protoplasma 1件
- (3) Biologia Plantrum1件
- (4) 園芸学研究1件
- (5) 日本食品保蔵科学会誌1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県「ラ・フランス」検討委員会委員(2014)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校「鶴南ゼミでの講師」(2014)
- (3) ひらめきときめきサイエンスプログラム「生物の多様性を考える」の開催、2014年9月20日、場所：農学部
- (4) 農学のタベ講師、2014年10月30日、場所：農学部
- (5) 6次産業ビジネススクールで「農産物の保存」について講義、2014年11月5日

## 江頭宏昌

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) エダマメ研究会(幹事2002～2014年、代表2014年～)
- (2) 山形在来作物研究会(幹事2003～2007、副会長2008、会長2009～現在)
- (3) 日本育種学会、園芸学会、人間・植物関係学会、KJ法学会、農耕文化研究振興会、雑穀研究会、民族自然史研究会、生き物文化誌学会、農業機械学会、日本DNA多型学会

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 山形在来作物研究会公開フォーラム「お米の博物学事始め」の開催(主催：山形大学農学部、共催：庄内町新産業創造協議会・山形在来作物研究会)：庄内町商工ふれあい会館「コア・アルザ」(平成26年11月29日)

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 園芸学会雑誌(日本) 1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所企画講師、鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員(2008年～)、鶴岡まちづくり塾アドバイザー、鶴岡食文化創造都市推進協議会委員、焼畑かぶブランド力向上プロジェクト協議会アドバイザー
- (2) 山形県農林水産業活性化推進本部委員(2009～)委員(2010)、山形県農林水産技術会議委員(2010～)、山形県ミラノ国際博覧会出展等実行委員会委員(2014～)、山形おぎたま伝統野菜振興協議会アドバイザー(2014～)、沖縄県「うちなー島野菜商品化支援技術開発事業」推進会議外部アドバイザー委員(2014～)
- (3) 庄内松柏会畑作講師(2008～)
- (4) 白鷹ノラの会の依頼で、「山形の在来野菜とお豆の話」と題して講演、白鷹町文化交流センター(平成26年4月19日)
- (5) NHK松山放送局の依頼で、番組「四国羅針盤『復活する在来品種』」にコメンテーターとして出演、NHK松山放送局(平成26年5月15日)
- (6) いわて食文化研究会の依頼で「山形における在来作物をめぐる活動と今後の課題」と題して講演、岩手県立大学アイーナキャンパスくいわて県民情報交流センター(アイーナ)7F(平成26年6月14日)
- (7) 興譲館高校の依頼でスーパーサイエンスハイスクールにて「伝統野菜へのサイエンスアプローチ～文理融合の研究を目指して」と題して講義、興譲館高校(平成26年6月23日)
- (8) 新潟県長岡市の依頼で長岡の地元野菜を見直すトークイベントに出演、長岡グランドホテル(平成26年7月27日)
- (9) 山形県農林水産部の依頼で「全国伝統野菜サミット」のパネルディスカッションのコーディネーターとして、山形国際ホテル(平成26年8月30日)
- (10) 寒河江市技術振興協会の依頼で第6次産業を考える特別市民講座第2回-挑み続ける美味しい農産物づくりを考える-の中で「寒河江周辺の在来作物とその魅力を活かす」と題して講演、寒河江市技術交流プラザ(平成26年9月9日)

- (11) 酒田市立東部中学校の依頼で、「北庄内の在来作物」と題して中学校の生徒に講演、山形大学農学部301講義室(平成26年9月11日)
- (12) 鶴岡労働基準協会の依頼で、鶴岡地区産業安全衛生大会において「在来野菜の魅力と活用」と題して講演、グランド・エルサン(平成26年9月25日)
- (13) 山形大学農学部の依頼で、おしゃべりな畑実践講座にて「在来作物をめぐる全国の動き」と題して講演、山形大学農学部(平成26年10月7日)
- (14) 岡山大学農学部の依頼で、「地域活性化システム論」の平成26年度テーマ「農学と地域活性化」の第1回目、伝統的在来野菜を活用した地域活性化において「在来作物の魅力を地域に活かす～山形の事例から」と題して講演、岡山大農学部(平成26年10月18日)
- (15) 鶴岡食文化産業創造センターの依頼で、「江頭宏昌氏と渡辺智史氏が語る！『在来作物がつかなく食と地域の未来』」と題してトーク、東北文科公益大学大学院ホール(平成26年10月30日)
- (16) 庄内農業共済組合の依頼で、広報誌「ふれあい」Vol.160新春特集「この手で、在来作物を作る、守る、繋ぐ」の記事に情報提供(平成26年12月18日)

## 程 為国

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(英文誌SSPN編集委員2009～現在)
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本作物学会(学会連携ワーキンググループ委員、2012～2014)
- (4) 日本気象学会
- (5) Soil Science Society of America

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 20件以上
- (2) Biology and Fertility of Soils 14件
- (3) Agriculture, Ecosystems & Environment 8件
- (4) Organic Agriculture 2件
- (5) Agricultural and Forest Meteorology 2件
- (6) Ecotoxicology and Environmental Safety 1件
- (7) CLEAN – Soil, Air, Water 1件
- (8) Environmental Science: Processes & Impacts 1件
- (9) Global Change Biology 1件
- (10) Journal of Soils and Sediments 1件
- (11) Plant and Soil 1件
- (12) Wetlands Ecology and Management 1件
- (13) 湿地研究 1件

## 笹沼恒男

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会(幹事2012年4月～現在)

- (2) 日本遺伝学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)コムギ小委員会委員(2003～現在)
- (5) 研究情報電子ジャーナル Wheat Information Service (eWIS) 編集委員(2005～現在)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Breeding Science(日本) 1件
- (2) Genetica(ドイツ) 1件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業総合研究センター園芸試験場 遺伝子組換え実験安全委員会委員(2013～現在)
- (2) 庄内バイオ研修センター バイオテクノロジー学習会講師
- (3) ホームメイドクッキング機関誌キッチン倶楽部通信にて、コラム「ご存知ですか こんなこと」連載(年6回)(2006年11月～現在)

#### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第9回東北育種研究集会優秀ポスター賞:「日本在来コムギ連野生遺伝資源カモジグサの形態及び分子マーカーに基づく多様性解析」(平成26年11月15日)(発表者:平田諒、笹沼恒男、受賞者は指導学生の平田諒)
- (2) 第9回東北育種研究集会優秀ポスター賞:「北コーカサスから採集された新規系統を含むタルホコムギ遺伝資源の製パン性評価」(平成26年11月15日)(発表者:赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男、受賞者は指導学生の赤池隆亮)

## 服部 聡

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会(編集委員会幹事、英文誌Microbes and Environments Managing Editor 2011～2014)
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 極限環境生物学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Microbes and Environments (日本) 2件

## 及川 彰

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 園芸学会東北支部会(庶務幹事2013～2014)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Metabolites (スイス) 2件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「生命科学研究と鶴岡の食」について講演:鶴岡市ふうどガイド・鶴岡メタボロームキャンパス(平成26年7月3日)
- (2) 「農作物・食品の質的評価におけるメタボローム解析」について講演:秋田県立大生物生産フロンティアセミナー・秋田県立大(平成26年12月12日)

- (3) 「ダダチャマメの美味しさ」について説明: NHK「ためしてガッテン」に出演(平成26年9月3日)
- (4) 「ダダチャマメの特性」について説明: 朝日放送「日本! 食紀行」に出演(平成26年10月19日)

### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本農芸化学会東北支部会奨励賞: 果実のメタボローム解析(平成26年11月26日)

## 星野友紀

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会 学会員
- (2) 東北植物学会 学会員

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Molecular Breeding(スペイン)1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 夏季セミナー(生命系コース)の開催: 2014年8月3日、場所: 農学部3号間5階実験室、参加者: 19人

## 網干貴子

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農薬学会
- (2) 日本農芸化学会

## 森林科学コース

### 野堀嘉裕

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(編集委員)
- (2) 森林計画学会
- (3) 東北森林学会(会長)
- (4) 比較文明学会

##### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 東北森林科学会、福島県、2014年9月1～2日

##### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌(2014)5件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県森林審議会会長(2011～)
- (2) 山形県文化環境部CO2固定認証評価検討委員会会長(2009～)
- (3) 山形県環境影響評価審査会委員(2011～)
- (4) 山形県環境審議会環境保全部会長(2011～)
- (5) 山形県環境審議会自然保護部会委員(2011～)
- (6) 山形県最上地域森林・林業再生会議会長(2014～)
- (7) 鶴岡市林業振興協議会副会長(2009～)
- (8) 鶴岡市景観審議会委員(2010～)
- (9) 鶴岡市公園整備計画懇談会座長(2010～)
- (10) 東北森林管理局計画策定委員会委員(2011～)

### 高橋孝悦

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会(幹事 現在)
- (2) 日本林学会
- (3) 日本醸造学会
- (4) 日本紙パルプ技術協会(木材科学委員会委員 現在)
- (5) 東北森林科学会
- (6) International Society of Chemical Ecology

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本) 1件
- (2) Holzforschung (独国) 1件



## 森 茂太

### 2-① 学会活動

#### 2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 東北森林科学会 理事
- (2) 根研究会 編集委員
- (3) 日本森林学会
- (4) 日本生態学会
- (5) 東北植物学会
- (6) Ecological Processes (Springer) 編集委員
- (7) Eurasian journal of forest reseach 審査委員

#### 2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Ecology
- (2) Ecologcial Resaearch
- (3) Journal of Plant Research

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会顧問
- (2) 青森県平内町林業研究グループ 滝の沢林業研究グループ顧問
- (3) 山形市森林整備推進協議会委員
- (4) 東北森林管理局国有林野管理審議委員
- (5) 山形大学農学の夕べ 2014.12.11 講演

## 林田光祐

### 2-① 学会活動

#### 2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本海岸林学会(副会長 2008～現在)
- (4) 東北森林科学会
- (5) 植生学会
- (6) 日本鳥学会

#### 2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌(2件)
- (2) Journal of Forest Research (1件)

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県環境審議会委員(2005～現在)
- (2) 交付金プロジェクト「東日本大震災で被災した海岸林の復興技術の開発」外部評価委員、独立行政法人森林総合研究所(2012～現在)
- (3) 希少野生動植物種保存推進員、環境省自然環境局(2012～現在)
- (4) 名勝高田松原の再生に関する試験植栽技術検討委員会委員、日本緑化センター(2014～現在)

- (5) 福島県「防災林造成2604業務鹿島地区」検討委員会委員、国土防災技術株式会社(2015～現在)
- (6) 庄内自然博物館構想推進協議会運営委員会委員、鶴岡市(2012～現在)
- (7) 里地里山学講座第1回において「春の女神ギフチョウとヒメギフチョウの生態」について講演:鶴岡市自然学習交流館(平成26年4月19日)
- (8) 湿地保全サポーターの指導:鶴岡市大山都沢湿地(平成26年6月14日、9月6日の2回)
- (9) 鶴岡市指定天然記念物「熊野長峰湿原群」でのヨシ刈り作業の技術指導:鶴岡市教育委員会社会教育課(平成26年6月17日)
- (10) 鳥海山麓でのイヌワシ保全のための森林整備事業に関する楽天・山形県・山形大学との連携協定に関する新聞報道:読売新聞、山形新聞、庄内日報(平成26年7月4日)
- (11) ラムサール登録湿地大山上池・下池の水環境と植生への影響に関する学習会での講演「大山上池・下池における水位変動と水辺植生に及ぼす影響」:庄内自然博物館構想推進協議会、鶴岡市自然学習交流館(平成26年7月25日)
- (12) 平成26年度山形県学校林環境学習推進・森林整備研修会での講師:山形県森林研究研修センター主催、山形県金山町(平成26年8月7日)
- (13) 平成26年度山形県森づくり支援人材育成研修の講師:山形県森林研究研修センター主催、山形県西川町(平成26年8月9～10日)
- (14) 出羽庄内地域文化情報誌「Cradle」9月号での特集「里山と暮らす」で里山の活用と生態系の保全を解説(平成26年9月)
- (15) 平成26年度第2回出羽庄内公益の森づくりを考える会現地検討会での講演「庄内海岸林における茂り松エゾイタヤケヤキ群落の位置づけ」:出羽庄内公益の森づくりを考える会主催、遊佐町勤労者研修センター(平成26年9月29日)
- (16) 小学生対象体験型学習イベント「イヌワシふれあい体験! in 山形」での「多様な生き物たちと共生するために」の講演:大学コンソーシアムやまがた主催、山形市ゆうキャンパスステーション(平成26年11月9日)
- (17) 三瀬保育園での森林活動の一環としての森林の動物に関する講話(平成27年1月23日)
- (18) 鶴岡市立山戸小学校の総合学習「学びの森・森の学習」での指導:山形県学校林環境学習推進フォローアップ事業ー山形県森林研究研修センター主催(平成27年1月27日)
- (19) 平成26年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農林水産省)のプロジェクト研究「津波被害軽減効果の高い海岸防災林造成技術の開発」研究推進会議の外部評価委員:独立行政法人森林総合研究所(平成27年2月2日)
- (20) 遊佐町森づくり講演会での「『共存の森』へ向けての森づくり」の講演:遊佐町共存の森運営協議会、遊佐町生涯学習センター(平成27年2月27日)
- (21) 「東北の野生動物管理を考える」東北野生動物管理研究交流会inやまがたの主催:山形大学YU-COE (C)人口減少社会適合型野生動物管理システム創成拠点研究交流会実行委員会、山形大学小白川キャンパス(平成27年3月7日)

## 小山浩正

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会 編集委員(2012.4～2015.3)
- (2) 森林立地学会 理事(2014.3～2017.3)
- (3) 森林計画学会
- (4) 日本生態学会
- (5) 東北森林科学会 常任理事(2014.8～2016.3)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林科学会誌 編集担当 8件
- (2) Journal of Forest Research 2件

- (3) 森林立地 審査 1件
- (4) Ecological research 1件
- (5) 森林遺伝育種 1件
- (6) Trees 1件
- (7) 日本緑化工学会学会誌 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡市森林文化研究会委員(2006年～)
- (2) 山形県みどり推進機構運営協議会委員(2011.4～2017.3.31)
- (3) 山形県アドバイザー・ボードメンバー(2012.4～2015.3.31)
- (4) 東北森林管理局 烏海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)自然再生実施協議会委員(2012.5～)
- (5) 東北森林管理局技術開発委員会委員(2013.4～2015.3)
- (6) 東北森林管理局 保護林モニタリング調査検討委員 (2013. 7.25.～2017.3.31)
- (7) 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会にて講演「生き物たちの生態研究を通して、僕が学生さんに伝えたいこと」(2014. 6. 28)
- (8) 鶴岡市自然科学交流館 里地里山学講座「ブナの種子は、なぜ全然ならない年があるのだろうか？ー豊凶性の進化と予測手法の開発物語」講演 (2014. 7.4.)
- (9) 自然体験や観察通し 森林の大切さ学ぶ 山大生が指導 上郷小校外学習 荘内日報(2014.7.3)
- (10) 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム2014 これからの森林・林業について シンポジウムパネリスト 2014.11.14. 山形大学農学部301講義室
- (11) 「第5回やまがた絆の森セミナー&活動報告会」にて、基調講演「人類は森に何をしてきたかー神話と歴史が教える森の変遷ー」 2015.1.29. 山形県総合研修センター.
- (12) 岩手連大代議員(2014.4～2016.3)

## 芦谷竜矢

### 2-① 学会活動

#### 2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会
- (2) 日本化学会
- (3) 日本木材加工技術協会
- (4) 東北森林科学会

#### 2-①-① (ii) 学会の主催等

- (1) 第65回日本木材学会大会・口頭発表座長(抽出成分部門3件):東京都, 江戸川区

#### 2-①-① (iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本), 4件
- (2) Natural Product Research (英国), 1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 日本木材学会 2014年度木材教育委員会委員
- (2) 現代農業2014年5月号 p.144, 水田の藻類防除についての取材

## ロペス・ラリー

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Ecological Engineering (米国) 1件
- (2) Sensors (スイス) 1件

## 早尻正宏

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 林業経済学会(編集担当主事、2013年4月～2015年3月)
- (2) 日本地域経済学会
- (3) 日本協同組合学会
- (4) 日本社会教育学会
- (5) 農村計画学会
- (6) 東北森林科学会(総務主事、2014年4月～2016年3月)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 林業経済研究(日本) 3件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) ふくしま中央森林組合「21世紀の森プロジェクト委員会」委員(2014年2月～2015年2月)
- (2) 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員(2014年3月～2015年3月)

## 江成広斗

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 「野生生物と社会」学会 ワイルドライフフォーラム誌編集委員長(2014年)、「野生生物と社会」編集委員(2014～現在)
- (2) 日本生態学会 Ecological Research 編集委員(2014～現在)
- (3) 日本哺乳類学会 ニホンザル保護管理作業部会 副部長(2014～現在)
- (4) 日本霊長類学会 役職特になし
- (5) 東北森林科学会 役職特になし
- (6) The Wildfie Society 役職特になし

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 東北野生動物管理研究交流会(小白川キャンパス 2015年3月7日 YU-COE事業)

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Ecological Resaearch(編集業務+査読依頼 ※多数論文を担当)
- (2) Insect Conservation and Diversity 論文査読

- (3) ワイルドライフフォーラム誌（編集業務 + 査読結果審査 ※多数の論文を担当）

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 環境省 ニホンザル保護管理検討会 委員(2012年～現在)
- (2) 農水省 鳥獣被害対策基盤支援事業 対策手法確立調査・実証事業 検討委員会委員 (2014～2015)
- (3) 山形県環境科学研究センター アドバイザリー・ボード (2014～現在)
- (4) 山形県 特定鳥獣保護管理検討委員会委員 (2013～現在)
- (5) 山形県文化財保護審議会 委員 (2014～現在)
- (6) 里地里山学講座 ほとりあ主催「野生動物との共存に必要な視点」2014年11月8日
- (7) 秋田県立大学 森林科学セミナー「白神の森に残されたニホンザル:その生態と意味」2014年12月9日

## 水土環境科学コース

### 藤井秀人

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 日本雨水資源化システム学会 評議員(2007～現在)
- (2) 農業農村工学会(1983～現在)
- (3) 水文水資源学会(1994～現在)
- (4) 日本熱帯農業学会(1987～現在)
- (5) 日本雨水資源化システム学会(1988～現在)

##### 2-①-② 論文審査の依頼等

- (1) Japan Agricultural Research Quarterly(日本)1件査読

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 西郷北部地区経営体育成基盤整備事業推進委員会環境情報部会座長(2014年2月～3月)
- (2) 総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者委員:山形県(2014年4月～2015年3月)
- (3) 夏期セミナー モンスーンアジアにおける水資源 とその利用(山形大学農学部)2014年8月4日

#### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本熱帯農業学会:2013年度最優秀論文賞,2014年3月受賞,Masato ODA, Praphasri CHONGPRADITNUN, Sarattana SANOH, Nongluck SUPHANCHAIMAT, Yoichi FUJIHARA, Ryuichi YAMADA, Hideto FUJII, Osamu ITO(2013):Indigenous Soil Fertility Knowledge of Rainfed Lowland Rice Farmers in Central Laos

### 奥山武彦

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) (公社)日本地すべり学会(理事H16～,東北支部長H26～)
- (2) (公社)農業農村工学会
- (3) (公社)土木学会
- (4) (公社)地盤工学会(災害連絡会議地方連絡委員)
- (5) アメリカ農業工学会

##### 2-①-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東日本高速道路株式会社東北支社山形地域技術懇談会委員(26.6.10～28.3.31)
- (2) 財団法人日本水土総合研究所客員研究員(26.5.9～27.3.31)
- (3) (独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業外部評価委員(24.8.3～27.3.31)
- (4) 農林水産省農村振興局 官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員(26.8.30～29.8.29)
- (5) 平成25年度地すべり調査意見聴取会(26.10～27.3.31)
- (6) 平成26年度鉱害防止事業事前評価検討会委員(26.10.1～27.3.31)

## 安中武幸

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会 代議員(2012～現在)、土壌物理研究部会長(2013～2014)
- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本砂丘学会
- (4) アメリカ土壌科学会
- (5) 日本土壌肥料学会
- (6) 地盤工学会

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第53回農業農村工学会土壌物理研究集会・実行委員長:宮城県仙台市 宮城県立大学キャンパス(平成26年10月24日)

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition (1件)

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「第20回庄内・社会基盤技術フォーラム2015」の運営委員長:場所:東北公益文科大学、参加人数250人
- (2) 山形県ゆとりとうるおい空間整備推進委員会 委員長(平成26年10月～平成27年3月)

## 石川雅也

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) ICID(国際灌漑排水協会、国内推進委員会委員 2003年4月1日～現在)
- (2) 農業農村工学会(資源循環研究部会幹事 2003年4月1日～現在)
- (3) 農業農村工学会(水田農業地域の農業用水における有効利用に関する分析調査検討委員会委員 2005年07月01日～現在)
- (4) PAWEES(国際研究集会国内実行委員会委員 2005年2月1日～現在)
- (5) (財)日本水土総合研究所(客員研究員 2006年11月27日～現在)
- (6) 山形県土地改良事業団体連合会・舟形地区集排汚泥利活用検討委員会(委員長 2011年11月29日～現在)

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 農業農村工学会 土壌物理研究部会:副部会長:宮城県仙台市(平成26年10月24日～平成26年10月24日)

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Paddy and Water Environment (ドイツ) 6件
- (2) 農業農村工学会資源循環研究部会研究発表会論文(日本)2件
- (3) 農業農村工学論文集(日本)1件
- (4) 農村計画論文集(日本)3件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県土地改良事業団体連合会主催・土地改良区役職員研修会コーディネータ(平成27年2月2日、2月3日)

## 花山 奨

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会
- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本土壌肥料学会

## 渡邊一哉

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会(正会員1995-現在)
- (2) 日本生態学会(正会員2005-現在)
- (3) 応用生態工学会(正会員2000-現在)
- (4) 環境情報科学センター(正会員2005-現在)
- (5) Ecological Society of America (正会員2006-現在)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 環境情報科学センター学術研究論文集 査読委員(1件)

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 庄内社会基盤フォーラム 運営委員(2010～)
- (2) 国土交通省 東北整備局 リバーカウンセラー(最上川), 2014～
- (3) 平成26年度総合地球環境学研究所共同研究員
- (4) 山形ブロック総合評価委員会委員, H26.4.1～H27.3.31
- (5) 最上川水系流域委員会委員, H26.4.1～H27.6.30
- (6) 赤川水系河川整備学識者懇談会委員, H26.4.1～H27.3.31

## 渡部 徹

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会(1998～現在, 東北支部幹事2010～現在, 環境工学委員会委員兼幹事2011～2015)
- (2) 日本水環境学会(1998～現在)
- (3) Society for Risk Analysis(2009～現在)
- (4) International Water Association(2000～現在)
- (5) 農業農村工学会(2011～現在)
- (6) 日本エコヘルス研究会(2013～現在, 事務局担当2013～現在)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research(英国)2件



- (2) Water Science and Technology(英国)1件
- (3) Journal of Water, Sanitation and Hygiene for Development(英国)1件
- (4) Journal of Water and Health(英国)1件
- (5) Hydrological Research Letters(日本)2件
- (6) Journal of Nanomaterials(インド)1件
- (7) Journal of Water Environment and Technology(日本)1件
- (8) Environmental Engineering Research(韓国)1件
- (9) 水環境学会誌(日本)1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校 スーパーサイエンスハイスクール事業への協力(平成25年4月～現在)
- (2) 「南陽市の豪雨被害」について説明:さくらんぼテレビに出演(平成26年7月14日夕刻のニュース番組にて放送)
- (3) 「南陽市の豪雨被害」に関する現地調査の取材:さくらんぼテレビに出演(平成26年7月23日夕刻のニュース番組にて放送)

## 2-③ 学会賞受賞等

- (1) Outstanding Paper Award at The 7th ASEAN Environmental Engineering Conference (AUN/SEED-Netより)(平成26年11月23日)(受賞者:小澤耕平, 共著者:伊藤紘晃, 本多了, Wilai Chiemchaisri, 渡辺幸三, 渡部徹)
- (2) Outstanding Paper Award at The 7th ASEAN Environmental Engineering Conference (AUN/SEED-Netより)(平成26年11月23日)(受賞者:櫻庭敬之, 共著者:櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 藤井学, 渡部徹)

## プロジェクト教員

### 伊藤紘晃

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会
- (2) 日本水環境学会
- (3) Association for the Sciences of Limnology and Oceanography

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research(英国) 2件
- (2) Water Science and Technology(英国) 4件
- (3) 土木学会論文集(国内) 1件

### ③産学官など国内他機関との連携研究実績 (研究費を受けていない場合も含む)

## 安全農産物生産学コース

### 西澤 隆

- (1) 庄内産イチゴ研究ユニット:山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携ユニット,平成26年4月～平成27年3月
- (2) 庄内産トマト研究ユニット:山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携ユニット,平成26年4月～平成27年3月

### 藤井弘志

- (1) 先端実証事業(農林水産省)コニカミノルタ、ヤンマー、伊藤電子工業、山形大学農学部

### 平 智

- (1) 山形県庄内総合支庁「食の都庄内」推進会議アドバイザー(2010～現在)

### 堀口健一

- (1) 株式会社野澤組「エクストルーダ処理飼料用米のルーメン内消失特性に関する研究」2014年8月～
- (2) コーキン化学株式会社「反芻家畜へのACTIFOR-PRO利用に関する研究」2014年9月～
- (3) 下山株式会社「近赤外分光法による牛肉評価に関する研究」2014年5月～

### 長谷 修

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 野菜花き病害研究ユニット,2012年4月～継続

### 小林 隆

- (1) 山形農総研、東北農研,攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業,2014年4月～2016年3月

### 片平光彦

- (1) 東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証,2014年04月～2016年03月,一般受託研究

### 森 静香

- (1) (独)理化学研究所(鶴岡):潮風害を受けた水稻のメタボローム解析に関する連携研究,2014年4月～2015年3月(科研費)

- (2) (独)農業環境技術研究所:資材中のケイ酸形態に関する連携研究、2014年4月～2015年3月(科研費)
- (3) 山形県、鶴岡市、香蘭産業(株):未利用資源の資材化に関する連携研究、2014年4月～2015年3月(東北創生研究所)
- (4) (独)理化学研究所:水稲における塩耐性系統の塩分付着害に関する連携研究、2014年4月～2015年3月
- (5) 大塚アグリテクノ(株):「亜りん酸肥料の施用が水稲の生育、品質および収量に及ぼす影響」に関する連携研究、2014年4月～2015年3月
- (6) サカタのタネ(株)、(株)サミュエルインターナショナル:「バリカタの施肥試験」に関する連携研究、2014年4月～2015年3月
- (7) 昭和化学工業(株):「珪藻土が水稲に及ぼす影響」に関する連携研究、2014年4月～2015年3月
- (8) 丸善薬品産業(株)、ミネヒロ(株):育苗に関する連携研究、2014年4月～2015年3月
- (9) 富士チタン(株):育苗に関する連携研究、2014年4月～2015年3月

## 佐藤 智

- (1) 平成26年度 地域産学官連携プロジェクト:簡易水中ライトトラップの研究開発、2014年9月～2015年3月
- (2) 農林水産省委託プロジェクト研究「農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発」:2014年4月～2015年3月

## 池田和生

- (1) 山形県:西洋なし品種開発・生理研究ユニット
- (2) 山形県:庄内地方の果樹生産推進研究ユニット
- (3) 鶴岡市農業振興協議会:庄内柿への石灰肥料効果に関する研究

## 佐々木由佳

- (1) 名古屋大学大学院生命農学研究科:SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)
- (2) 名古屋大学大学院生命農学研究科:熱帯泥炭湿地における環境農業—サゴヤシ栽培の炭素シンク機能と生産技術の改善
- (3) 高知大学農学部:サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究
- (4) JA鶴岡:ただちや豆の連作障害防止に関する研究
- (5) 株式会社関東農産:ただちや豆栽培における有機質肥料の連用効果に関する研究
- (6) 珪酸石灰肥料協会:水稲のケイ酸吸収に対するケイカル施用効果試験

## 松本大生

- (1) 山形県:バラ科サクラ属果樹の自家不和合性機構に関する連携研究、2014年4月1日～2015年3月31日

## 食農環境マネジメント学コース

### 小沢 亙

- (1) 自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発(研究代表者・吉田宣夫)・平成22年4月～平成27年3月(農林水産省)
- (2) やまがた第6次産業(農商工連携)人材創生プロジェクト(やまがた6次産業人材創生コンソーシアム・管理法人・フィデア総研)におけるプログラム開発リーダー
- (3) 「土地利用型大規模経営体の安定的発展の条件ー我が国の水田農業のあり方を考えるー」(一般社団法人 JC総研)

### 角田 毅

- (1) 国際農林水産業研究センター: アフリカ低湿地における低投入稲作技術の開発
- (2) 北海道大学大学院農学研究科: 後継者がいない農業経営者の資産計画と生活設計に関する研究
- (3) 秋田県立大学生物資源科学部: 東北水田地帯における田畑輪換作の現局面と農法変革に向けた条件に関する研究

### 家串哲生

- (1) 酪農学園大学(尾碕亨・樋元淳一): 青果物輸送における環境対応型包装資材に関する研究

## 食品・応用生命科学コース

### 三橋 涉

- (1) 慶應義塾大学先端生命科学研究所「高等植物の細胞周期停止因子相互作用タンパク質の研究」
- (2) 理化学研究所環境資源科学研究センター「細胞周期停止因子過剰発現体の解析」
- (3) 岩手大学農学部寒冷バイオフィロンティア研究センター「Understanding the auxin-cell cycle molecular connection」

### 小関卓也

- (1) 山形県農業総合研究センター、民間企業: 新規発酵技術による風味の良い米糠高機能化製品の開発(2012.10～2015.3)

### 豊増知伸

- (1) 国立遺伝学研究所共同研究(A1): イネのジテルペン生合成遺伝子の進化に関する研究, 2014年4月～2015年3月

### 永井 毅

- (1) 鶴岡市: 農産物の活用法

- (2) JF山形:庄内浜魚介類の活用法
- (3) グループ農夫の会:棚田米他の活用法
- (4) JA全農山形:食材の活用法
- (5) 最上支庁:在来作物の活用法

## 加来伸夫

- (1) 東京薬科大学:メタン発酵ならびに微生物燃料電池に関する研究(2011年~現在)
- (2) 山形県自動車販売店リサイクルセンター:資源リサイクルに関する研究(2010年~現在)
- (3) (株)森環境技術研究所:各種条件下におけるセルロース分解に関する研究
- (4) (株)エコハイテックコーポレーションおよび(有)拓芯工建:浄水発生土焼成物の有効活用に関する研究

## 渡辺昌規

- (1) 平成26年度 JST研究成果展開事業A-STEP探索タイプ事業「米副産物からの機能性タンパク質・リン化合物同時回収プロセスの開発」(採択、研究開発費1,700千円)
- (2) 平成26年度 山形県3R研究開発事業費補助金(先導的研究開発事業・共同研究)「米副産物からのリン成分・高純度タンパク質の同時回収・精製プロセスの開発」(採択、配分額1,000千円、(株)三和油脂)
- (3) 広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター「米表層タンパク質組成の任意制御による米の高品質化に関する研究」
- (4) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット「米の食味・物性評価用マーカー開発研究ユニット」県農業総合研究センター水田農業試験場 水稻部長 中場勝
- (5) 山形大学農学部地域産学官連携協議会 地域産学官連携プロジェクト事業「天草残渣への保存性付与とその有効利活用技術の開発」(採択、研究開発費150千円、(株)まるい食品)
- (6) 大道山竹炭工房:「竹炭を用いた学習教材用空気電池の開発」

## 植物機能開発学コース

### 俵谷圭太郎

- (1) 農林水産省農林水産技術会議事務局:「イネの低コスト化・省力化・環境負荷低減に資する有用遺伝子の同定とDNAマーカーの開発」
- (2) 科学技術振興機構:「共生ネットワークの分子基盤とその応用展開」

### 村山秀樹

- (1) 山形県農林水産部と「りんご研究」連携ユニットならびに「西洋なし品種開発・生理研究ユニット」連携ユニットで研究活動

### 江頭宏昌

- (1) 農業生物資源研究所:中課題「遺伝資源の効率的保存技術等の開発」における小課題「伝統野菜等の生息域内保存支援システムの開発」, 2013年6月~2018年3月

## 程 為国

- (1) 山形県農業総合研究センター: 農耕地からの温室効果ガス削減技術の研究、2014年4月～2015年3月
- (2) 農業環境技術研究所: 地球温暖化に関する研究、2014年4月～2015年3月

## 笹沼恒男

- (1) 京都大学農学研究科: コムギ・エギロプス属の系統進化、遺伝的多様性に関する研究、2002年5月～現在
- (2) 岡山大学資源植物科学研究所; ロシア・北コーカサスのムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究、2010年6月～現在
- (3) 岡山大学農学部: 東アジアのムギ類遺伝資源の調査研究: 2011年4月～現在
- (4) 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社: ベニバナの品種内多様性に関する研究、2013年10月～現在
- (5) 味の素株式会社: 紅花種子の品種選抜に関する研究、2014年1月～現在

## 及川 彰

- (1) 新学術領域「植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明」(平成25～29年)
- (2) 基盤研究B「ナシ属の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析」(平成25～27年)
- (3) 挑戦的萌芽研究「葉と果実のクロストーク: Tree Factorが支配する果実追熟性の機構解明」(平成26～27年)

## 星野友紀

- (1) つや姫突然変異体集団の構築と利用: 山形県農業総合研究センター水田農業試験場と連携研究

## 森林科学コース

### 野堀嘉裕

- (1) 山形県最上地域森林・林業再生会議会長(2014～)
- (2) 山形大学「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)地域志向教育研究「廃校舎を利用した木質バイオマスエネルギーによる施設型栽培の研究」、平成26年度
- (3) 「森林整備によるクロマツ林内へのショウロの誘導と特産品化」、学校法人天真学園ボランティアサークルとの共同調査、平成26年度

### 高橋孝悦

- (1) 秋田県立大学木材高度加工研究所: 木質材料の化学加工についての研究、継続中
- (2) 秋田県立大学木材高度加工研究所: 秋田杉の化学成分についての研究、継続中
- (3) 岩手大学: 樹皮成分についての研究、継続中

## 森 茂太

- (1) 琉球大学理学部海洋自然科学科:植物個体呼吸の共同研究(科研基盤(B))
- (2) 筑波大学大学院生命環境科学科:植物個体呼吸に与えるエンドファイトの影響評価研究(科研基盤(B))
- (3) 京都大学生態学研究センターとの樹木個体生理に関する共同研究
- (4) 新潟県森林研究所との個体呼吸に関する共同研究,
- (5) 東北森林管理局森林技術センターとの共同研究
- (6) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会、滝の沢林業研究グループとのヒバの持続的省力化施業に関する研究
- (7) 弘前大学遺伝子研究施設の赤田辰治氏とのブナ実生のストレス誘導遺伝子に関連した個体生理の共同研究
- (8) 豊橋技術科学大学足立忠晴教授との「呼吸速度と組織強度の関係解明」の共同研究

## 林田光祐

- (1) やまがた絆の森(楽天の森)協定書に基づき、楽天株式会社と山形県林業公社・山形県と連携して、烏海山麓のイヌワシ保全を目的とした森林整備を行い、その効果を検証する役割を担う研究責任者(2014.7~2019.3)
- (2) やまがた森林環境学習推進研究ユニット:山形県森林研究研修センターとの共同研究

## 小山浩正

- (1) 山形県内のブナおよびミズナラ林の結実豊凶モニタリング(山形県環境技術研究センターとの共同研究)

## 芦谷竜矢

- (1) 九州大学:樹木成分化学についての研究, 継続中
- (2) 秋田県立大学木材高度加工研究所:木質材料の化学加工についての研究, 継続中
- (3) 岩手大学:樹皮成分についての研究, 継続中

## 江成広斗

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット「森林野生獣類の総合的管理研究交流活動ユニット」(2014~現在) ※山形県森林研究研修センターとの連携

## 水土環境科学コース

### 奥山武彦

- (1) 農林水産省:気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発, 2013~2017



## 石川雅也

- (1) 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(海外科研B、東大・筑波大・北里大・弘前大・山形大・三重大)

## 渡邊一哉

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット H26年度

## 渡部 徹

- (1) 東北大学, 北海道大学: 水環境におけるヒトノロウイルス未知動態の解明, 2012年4月～2015年3月
- (2) 東北大学, 宮城県保健環境センター, 東京大学: 迅速・高精度・網羅的な病原微生物検出による水監視システムの開発, 2011年10月～現在
- (3) 東京工業大学, カセサート大学(タイ): アジアにおける都市水環境の保全・再生のための研究教育拠点, 2011年9月～2015年3月
- (4) 東京大学, 愛媛大学, 総合地球環境研究所, 長崎大学: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成, 2011年10月～現在
- (5) 東北大学, 金沢大学, カセサート大学(タイ): 東南アジアの水環境における薬剤耐性菌と耐性獲得経路の推定, 2012年4月～2015年3月
- (6) 東北大学, 金沢大学, 岩手大学: 水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発と水再利用へのその適用, 2014年4月～現在
- (7) 愛媛大学: フィリピンにおけるデング熱媒介蚊の集団遺伝学的研究: 飛翔パターンと感染経路, 2013年3月～現在
- (8) 東京大学, 愛媛大学: 気候・社会・生態系の変動に対応した感染症リスク評価モデルの構築, 2014年4月～現在
- (9) 東京工業大学: 沿岸域における鉄と有機物の動態, 2014年4月～現在

## ④海外研究者との研究活動

### 安全農産物生産学コース

#### 西澤 隆

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 二国間共同研究事業(バングラデシュ): 日本学術振興会, 平成26年8月12日～平成26年8月19日
- (2) 論文博士支援事業(バングラデシュ): 日本学術振興会, 平成26年12月26日～平成27年1月2日

##### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 二国間共同研究事業(バングラデシュ): 日本学術振興会, 平成26年4月～平成27年3月

#### 吉田宣夫

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年8月 中国・日中韓草地学会議で講演(ポスター)発表
- (2) 2014年11月 中国・黒竜江八一農墾大学動物科学技術学院において講演と学術交流

#### 角田憲一

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年9月 マレーシア: 熱帯泥炭土壌のサゴヤシ林における物質循環に関する調査
- (2) 2015年3月 インドネシア: 西パプア州のサゴヤシ自然林土壌に関する調査

#### 佐々木由佳

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年8月17日～2014年8月29日、インドネシア: サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究の現地調査、試料採取
- (2) 2014年12月6日～12月18日、ケニア: SATREPS(テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)に関する研究の現地調査、研究打ち合わせ

##### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) マレーシア、熱帯泥炭湿地を利用した持続的サゴヤシ栽培に関する研究、共同研究者: Tropical Peat Research Laboratory UnitのDr. Lulie Melling、2010年～
- (2) ベトナム、国際共同研究(東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稲栽培の確立)、共同研究者: ハノイ農業大学のDr. Cuong、Dr. Hanh、2011年～
- (3) インドネシア、三井物産環境基金研究助成国際共同研究(サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究)、共同研究者: ハルオレオ大学農学部講師Mr. Fransiscus S. Rembon、2012年～
- (4) ケニア、SATREPS(テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)、共同研究者: Ministry of AgricultureのMr. Johnson Irungu Waithaka, Kenya Agricultural Research Institute (KARI), MweaのMr. John Kimani, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)のMr. Hunja Murage, Maseno UniversityのMr. John Collins Onyango, Natinal Irrigation Board (NIB), Mwea Irrigation Agriculture Development Centre (MIAD)のMr. Raphael Wanjogu、2012年～

## 食農環境マネジメント学コース

### 岩鼻通明

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年5月 韓国:全州国際映画祭に参加
- (2) 2014年7月 韓国:プチョン国際ファンタスティック映画祭に参加
- (3) 2014年10月 韓国:釜山国際映画祭に参加

### 角田 毅

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年6月 ガーナ:アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査
- (2) 2014年9月 中国:学術交流協定に関わる打ち合わせと現地調査
- (3) 2015年3月 ガーナ:アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査

## 食品・応用生命科学コース

### 三橋 渉

#### 4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) Dr. Hong Wang (University of Saskatchewan in Canada)「Understanding the auxin-cell cycle molecular connection」

### 小関卓也

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年9月 インドネシア:共同研究打合わせ、大学訪問

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2014年4月 米糠の高度再資源化およびその健康機能応用に関する共同研究(ボゴール農科大学教授B. Slamet氏, バークリー大学講師Ardiansyah氏との共同研究)

### 塩野義人

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年10月 インドネシア:熱帯生植物から分離した菌類の生理活性物質の探索源の可能性について

## 渡辺昌規

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年7月 タイ・チェンマイ大学学長表敬訪問、山形大サテライト設置に関わるコーディネート業務の実施
- (2) 2014年7月 在チェンマイ日本国総領事館公式訪問、コーディネート業務の実施
- (3) 2014年8月 タイ:JSPS研究拠点形成事業(CCP)「バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成」1st Joint seminarで講演(ポスター)発表、運営会議出席

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究(JSPS研究拠点形成事業Core to core (CCP) Program, チェンマイ大学農工学部長Charin Techapun氏、神戸大学農学部教授竹中慎治氏との共同研究)(2014~2018)(平成26年3月採択)

## 植物機能開発学コース

## 俵谷圭太郎

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年5月 インドネシア:日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する支援事業による派遣

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2014年12月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究(インドネシア林業省Turjaman博士との共同研究)

## 村山秀樹

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年5月 アメリカUSDAIにおいてナシ属植物の遺伝資源調査
- (2) 2014年7月 ベルギー:国際セイヨウナシシンポジウムで口頭発表

## 程 為国

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 韓国・光州市 全南大学校農学部を訪問、2014年6月12日~15日
- (2) フランス、Universite de Bourgogneを訪問、2014年8月2日~4日
- (3) インドネシア、UNIVETTSITAS LAMBUNG MANGKURATを訪問、2014年11月7日~10日

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年01月から、中国科学院大気物理研究所XU Xingkai教授と一緒に「森林生態系における炭素・窒素の動態に及ぼす土壌凍結の影響」共同研究を行なっている

## 笹沼恒男

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年8月 グルジア(現ジョージア):ムギ類を中心とする植物遺伝資源調査

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ロシア・旧ソ連圏のムギ類を中心とする植物遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(バビロフ研究所T.N.Smekalova博士、O.N. Kovaleva博士との共同研究):2010年6月～現在

## 森林科学コース

### 野堀嘉裕

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 国際交流協定に基づく海外サマースクールの実施、ドイツ・ライプニッツハノーバー大学、2014年5月13-27日

#### 4-② 国際研究集会の開催

- (1) Joint Symposium of Mongolian University of Life Sciences and the United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University “Present Forestry, Agriculture and Husbandry Conditions in Mongolia” Venue: Iwate University, Morioka, Japan December 8-10, 2014

### 高橋孝悦

#### 4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 植物成分の化学に関する共同研究(スウェーデン王立工科大学教授Anna-Karin Borg-Karlson氏との共同研究):継続中

### 森 茂太

#### 4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 米ミネソタ大 PB Reich(現 ウェスタンシドニー大学環境研究所長)教授へのスケーリングに関するデータ提供。
- (2) 米コロラド大学 William Lewis 教授(Professor & Director of the Center for Limnology)へのスケーリングに関するデータ提供。
- (3) 米メリーランド大学 J Banavar 教授に個体呼吸のデータを提供し、提供データを解析した論文がPNASに掲載された。<http://www.pnas.org/content/111/9/3332.abstract>

### 芦谷竜矢

#### 4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 植物成分の化学に関する共同研究(スウェーデン王立工科大学教授Anna-Karin Borg-Karlson氏との共同研究):継続中

### ロペス・ラリー

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年5月ドイツ・ハノーバー大学とドイツ学術交流会(DAAD)の招待によりハノーバーでサマースクールを実施し、山形大学農学部教員2名、学生9名が参加した。
- (2) 2014年9月中国・東北林業大学の教員(5名)が演習林を見学し、共同研究についての打合せを行った。

- (3) 2014年10月～2015年3月ドイツ・ハノーバー大学から受け入れた留学生4名が、演習林での地域交流事業である森の学校に積極的に参加するほか、研究も実施した。
- (4) 2014年10月さくらサイエンスプランに採択されたプログラムで、中国の東北林業大学の学生(10名)及び教員(1名)が演習林を訪問し、山形大学の日本人学生と共同ゼミを実施した。演習林の代表的なサイトを見学した他、山形大学教員の英語による講義を受講した。
- (5) 2015年1月山形大学の日本人学生と留学生(ドイツ・中国・ポリビア・インドネシア)が演習林においてゼミ(森林・雪の共生)を実施した。

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2014年6月 モンゴルの森林に気候変動の及ぼす影響に関する共同研究(モンゴル生命科学大学・植物防疫総長ビアンバスレン氏との共同研究)
- (2) 2014年7月 中国の東北地域における森林に気候変動の及ぼす影響に関する共同研究(中国東北林業大学教授チョウ氏との共同研究)
- (3) 2014年10月 庄内地方の焼畑後土壌の科学と物理的な変化に関する共同研究(ハノーバー大学教授グゲンバーガー氏との共同研究)

#### 4-③ 国際研究集会の開催

- (1) Symposium Present Forestry, Agriculture and Husbandry Conditions in Mongolia, December 8-10, 2014.

## 水土環境科学コース

### 藤井秀人

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) ベトナム: JIRCAS気候変動プロジェクトのワークショップ発表および座長(2014年9月)
- (2) ベトナム: メコンデルタ高洪水稲作地域における気候変動に向けたダイクシステムの再構築(科研費)のための現地調査(2014年9月)

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) メコンデルタ高洪水稲作地域における気候変動に向けたダイクシステムの再構築についてベトナム南部水資源研究所(SIWRR)、Dr.Trin Thi Longと共同研究(2014年4月～2015年3月: 科研費)

#### 4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 国際セミナーの開催(会場: ベトナム: 南部水資源研究所、参加国数: 2、参加人数: 30(2014年9月))

### 石川雅也

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年10月 台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授との研究調査
- (2) 2015年1月 ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との研究調査

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2014年4月 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授・ボゴール農科大学(インドネシア)・Budi 副学部長、ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との共同研究)

## 渡邊一哉

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年8月 マレーシア ペナンを中心とした沿岸資源利用実態調査(科研c)
- (2) 2014年10月 ベトナム フェエ市における農作物流通調査および消費実態調査(GRENE)
- (3) 2014年12月 沿岸資源利用に関する研究(科研c)

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2014年12月 沿岸資源利用に関する研究(タマサート大学・カセサート大学)

## 渡部 徹

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年8月 カナダ: EcoHealth2014で研究発表(ポスター)
- (2) 2014年9月 アメリカ: 第13回IWA流域管理に関する専門家会議で研究発表(口頭)
- (3) 2014年9月 タイ: アジアにおける都市水環境の保全・再生のための研究教育拠点に関する打合せ
- (4) 2014年10月 中国: 第14回IWA水汚染の制御のための湿地システムに関する国際会議で研究発表(口頭)
- (5) 2014年11月 ベトナム: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (6) 2014年11月 フィリピン: 第7回ASEAN環境工学会議で研究発表(口頭)
- (7) 2014年11月 タイ: 第6回ASIAHORCs合同シンポジウムで招待講演
- (8) 2015年3月 インドネシア: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2008年4月～現在 病原微生物による感染症リスクの定量評価に関する共同研究(米国ドレクセル大学Charles Haas教授との共同研究)
- (2) 2009年4月～現在 熱帯地域における水環境汚染に関する研究(タイ王国カセサート大学Wilai Chiemchaisri准教授, Chart Chiemchaisri准教授との共同研究)
- (3) 2011年4月～現在 途上国都市における洪水起因の健康リスクに関する研究(ベトナム・フェエ大学Pham Khac Lieu講師との共同研究)

## プロジェクト教員

## 伊藤 紘晃

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年9月 フランス: 養殖カキのウイルス汚染に関する情報交換(IFREMER(フランス海洋開発研究機関)Soizick F. Le Guyader博士との交流)

## ⑤ 研究員等の受け入れ状況

### 安全農産物生産学コース

#### 西澤 隆

- (1) シエレ・バングラ・農業大学(バングラデシュ)・教授 Tuhin Suvra Roy: 二国間共同研究事業(平成26年5月18日～5月30日)
- (2) シエレ・バングラ・農業大学(バングラデシュ)・教授 Tuhin Suvra Roy: 二国間共同研究事業(平成27年3月15日～3月26日)
- (3) シエレ・バングラ・農業大学(バングラデシュ)・助教 Abul Hasnat Md. Solaiman: 論文博士支援事業(平成26年6月16日～6月28日)
- (4) シエレ・バングラ・農業大学(バングラデシュ)・助教 Abul Hasnat Md. Solaiman: 二国間共同研究事業(平成27年3月15日～3月26日)

#### 佐藤 智

- (1) ユタ州立大学教授 テッド エバンス: 日本応用動物昆虫学会経費による受け入れ「生物多様性について」平成27年3月

### 食農環境マネジメント学コース

#### 小沢 亙

- (1) 金紅蘭「中国延辺地域における農地流動化と専業農場について」(平成26年4月1日～8月31日)

#### 角田 毅

- (1) 山形県村山総合支庁 清野明子: 専門技術研修による研究員の受け入れ, 「集落営農組織の経営展開方向の考察について」(平成26年9月1日～平成27年2月28日)

### 食品・応用生命科学コース

#### 小関卓也

- (1) ボゴール農科大学教授 B.Slamet, 研究員 D.Y. Nancy : 二国間交流事業共同研究による研究員の受け入れ, 「米糠の高度再資源化およびその健康機能応用に関する共同研究」(平成26年6月23日～平成26年6月26日)

#### 塩野義人

- (1) インドネシア共和国・パジャジャラン大学  
理学部 数学・自然科学部 講師, Dr. Dikdik Kurnia 「インドネシアにおける薬用植物資源の生理活性物質の研究」  
平成26年10月19日から11月18日



- (2) インドネシア共和国・パジャジャラン大学  
理学部 数学・自然科学部 講師, Dr. Iman Rahayu 「インドネシアにおける薬用植物資源の生理活性物質の研究」  
平成26年10月19日から11月18日

## 渡辺昌規

- (1) 広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 塩野忠彦 主任研究員・広島県立総合技術センター 探索研究費・米表層タンパク質組成の任意制御による米の高品質化に関する研究・平成27年3月4～5日

## 植物機能開発学コース

### 村山秀樹

- (1) Student Exchange Support Programでガジヤマダ大学より学生1名受け入れ

### 程 為国

- (1) フィリピンにある国際稲研究所のDr Agnes T. PadreをJSPS外国人招へい研究者(短期)として受け入れ、「アジア各国長期連用肥料試験を用いた水田土壌有機態炭素と窒素の変動解析と将来予測」の共同研究を行なった(平成26年5月18日～平成26年6月16日)
- (2) Gadjahmada University, Indonesia 4年学生Meilania Nugraheni (Meme)さんをJASSO(留学生交流支援制度(短期受入れ))の支援制度で受け入れ、「庄内黒松林における窒素の硝化・脱窒に関する研究」を行なっている(平成26年9月1日～平成27年8月31日)
- (3) ベトナム出身のNguyen Sy Toan君を文部科学省国費外国人留学生として受け入れている。(平成26年10月1日～)

## 森林科学コース

### 森 茂太

- (1) スペイン レリイダ大 FERRIO DIAZ Juan Pedro氏(ラモンイハカール研究員)をJSPSの長期外国人研究者として9か月間招聘し、学生の指導・教育を担っていただいた。

### 小山浩正

- (1) JASSO留学生受け入れ 1名

### ロペス・ラリー

- (1) 東北林業大学林学部チョウ教授ほか教員4名: 国際交流基金による研究員の受け入れ、「日本と中国の東北地域の森林比較について」(平成26年9月1日～5日)
- (2) ハノーバー大学自然科学学部教授 G. Guggenberger: 国際交流基金による研究員の受け入れ、「土壌科学について」(平成26年10月25日～29日)

## ⑥その他

### 安全農産物生産学コース

#### 藤井弘志

- (1) 公務員ゼミ開催:2回参加人数40人

### 食農環境マネジメント学コース

#### 小沢 亙

- (1) 学科長(学務委員長兼任)(2013年4月～2015年3月)
- (2) 総括教育ディレクター(2013年4月～2015年3月)
- (3) 全学就職委員会委員(2012年4月～2015年3月)
- (4) 全学教育・学生委員会委員(2013年4月～2015年3月)
- (5) 平成26年度山形大学・元気プロジェクトに係る審査委員会委員(2014年7月～2015年3月)
- (6) 基盤教育院再構築ワーキング(2014年8月～2015年3月)

### 食品・応用生命科学コース

#### 木村直子

- (1) 研究費獲得状況:①平成24年度科学研究費補助金基盤研究(C)(平24-26, 420万円, 代表)、②平成26年度YU-COE「山形大学先進的研究拠点」(E)形成支援(300万円, 分担)
- (2) 大学内委員関係:生物資源学科専攻長、食品・応用生命科学コース主任、山形大学動物実験委員会委員(平成25年～)、山形大学男女共同参画推進(平成26年2月～)
- (3) 兼業:日本学術会議連携会員(平成26年10月～)、鶴南ゼミ講師(平成25年4月～)、日本繁殖生物学会理事、日本受精着床学会理事、日本哺乳動物卵子学会理事
- (4) 岩手連合大学院関連:平成26年度前期連合一般ゼミナール(日本語)分担

#### 渡辺昌規

- (1) (全学委員)  
山形大学国際交流コーディネーター(タイ・チェンマイ大学担当、教員養成機構運営委員会、同WG(H25-26)  
教育ディレクター(H25-26)
- (2) (学部内委員)  
学務委員(H25-26)、教育研究支援室運営委員会(H25-26)、月山会役員(H26-27)
- (3) (企業見学会)  
(株)三和油脂(天童市)企業研修・見学会の実施(平成26年8月8日、食応コース3年8名)
- (4) (技術指導)  
佐藤製餡所(新庄市)、まるい食品(鶴岡市)、三和油脂(天童市)、ASK(山形市)
- (5) (JASSO関連)  
平成27年度海外留学支援制度(協定派遣・受入)申請プログラム「未利用バイオマス再資源化技術・研究者育成プログラム」申請(採択、平成27年1月29日)の申請代表者

## 森林科学コース

### 森 茂太

- (1) ●研究:国内、国外の大学研究機関と境界領域研究を進めた。残念ながら科研費の新規獲得は1件にとどまったが、今後も科研(A)や企業ファンドに複数応募する。また、欧米からの植物個体呼吸データに関する問い合わせが多く、対応に多くの時間と労力を要した。当研究室の植物個体呼吸論文の引用数やダウンロード数が時間の経過とともに尻上がりに高まりつつある。今後は物質の創発特性を考慮した、個体生理学の研究の重要性が高まると予想され、対応を続けたい。
- (2) ●教育:大学院生の確保に努めた結果、2名が進学した。また、現4年生4名中2名が進学予定。さらに、他大学で博士を取得した研究者を特別研究員として呼び、共同研究/教育体制を充実させたい。
- (3) ●管理運営:研究と教育を基盤としつつ、今後に対応する。

### 3. 国際交流状況について

#### (1) 学部間国際交流協定締結大学一覧

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	2002年 3月11日
インドネシア	ガジャマダ大学林学部	2002年12月19日
中華人民共和国	浙江省農業科学院	2003年 8月 1日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2004年 5月 5日
バングラデシュ	シエレ・バングラ農業大学	2005年 8月31日
ラオス	ラオス国立大学工学部	2006年 3月 9日
スリランカ	ペラデニア大学農学部	2006年 7月 5日
中華人民共和国	中国農業大学食品科学栄養工学部	2006年11月22日
中華人民共和国	瀋陽農業大学	2006年12月26日
中華人民共和国	延辺大学農学院	2006年12月27日
バングラデシュ	ハジエ・モハマト・ダグネ科学技術大学	2007年 3月 7日
タイ	キング・モンクット工科大学トブリ校	2008年 6月24日
フィリピン	ビサヤ大学	2008年 7月24日
インドネシア	インドネシア林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター	2008年 7月25日
インドネシア	ムラワルマン大学林学部	2008年11月25日
インドネシア	ガジャマダ大学農業工学部	2010年 7月 7日
インドネシア	ランブンマンクラート大学林学部	2010年 7月 7日
中華人民共和国	南京農業大学	2011年 3月24日
インドネシア	パジャジャラン大学	2011年 3月31日
中華人民共和国	華中農業大学	2011年 9月16日
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	東北林業大学	2012年 7月27日
インドネシア	ボルネオ大学	2012年10月12日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2013年 2月 4日
タイ	カセサート大学	2014年 4月 9日
インドネシア	ジェンデラルアチマドヤニ大学数学・自然科学部	2014年 9月 5日
インドネシア	ガジャマダ大学数学・自然科学部	2014年11月11日
インドネシア	東南アジア熱帯生物学センター	2015年 3月16日

## (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）

国名	機関名	締結年月日
チリ	タルカ大学	2005年 8月26日
ベトナム	ハノイ農業大学	2008年 4月21日
大韓民国	忠北大学校農業生命環境大学	2008年 6月 5日
中華人民共和国	北京林業大学	2009年 2月25日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	延辺大学	2012年 3月26日
ペルー	ラモリナ国立農業大学	2012年12月 3日
ペルー	カトリカ大学	2012年12月 4日
タイ	チェンマイ大学	2013年 1月30日
インドネシア	ガジャマダ大学	2013年 2月 6日
中華人民共和国	黒竜江八一農墾大学	2014年 3月12日
ドイツ連邦共和国	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2014年 5月 8日

## (3) 外国出張一覧

氏 名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
俵 谷 圭太郎	インドネシア	26. 5. 6～26. 5. 17	研究打合せ
金 成 学	フランス, オランダ, ドイツ	26. 5. 12～26. 5. 22	現地調査
野 堀 嘉 裕 ロペス・ラリー	ドイツ	26. 5. 13～26. 5. 27	サマースクール引率
片 平 光 彦	台湾	26. 5. 19～26. 5. 23	学会出席
村 山 秀 樹	アメリカ	26. 5. 19～26. 5. 26	現地調査
岩 鼻 通 明	韓国	26. 5. 29～26. 6. 3	現地調査
程 為 国	韓国	26. 6. 7～26. 6. 15	学会出席, 協定機関と打合せ
ロペス・ラリー	モンゴル	25. 6. 12～26. 6. 16	協定機関と打合せ
角 田 毅	ガーナ	26. 6. 14～26. 6. 24	現地調査
松 本 大 生	アメリカ	26. 6. 20～26. 6. 27	研究発表
村 山 秀 樹	ベルギー	26. 7. 13～26. 7. 21	シンポジウム参加・発表
ロペス・ラリー	中国	26. 7. 16～26. 7. 20	研究打合せ
岩 鼻 通 明	韓国	26. 7. 18～26. 7. 22	現地調査
渡 辺 昌 規	タイ	26. 7. 20～26. 7. 23	協定機関と打合せ
程 為 国	スペイン, フランス	26. 7. 28～26. 8. 5	学会出席, 学術交流
渡 邊 一 哉	マレーシア, タイ	26. 7. 29～26. 8. 7	現地調査

氏名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
塩野 義人	タイ	26. 8. 2～26. 8. 9	学会出席
渡辺 昌規	タイ	26. 8. 9～26. 8. 12	招待講演・セミナー参加
岩鼻 通明	韓国	26. 8. 9～26. 8. 18	現地調査
笹沼 恒男	グルジア	26. 8. 9～26. 8. 24	現地調査
渡部 徹	カナダ	26. 8. 11～26. 8. 17	学会出席・発表
西澤 隆	バングラデシュ	26. 8. 12～26. 8. 19	協定機関訪問・研究指導
佐々木 由佳	インドネシア	26. 8. 17～26. 8. 29	現地調査
吉田 宣夫	中国	26. 8. 20～26. 8. 25	学会出席
岩鼻 通明	韓国	26. 8. 25～26. 8. 29	現地調査
俵谷 圭太郎	フランス	26. 8. 25～26. 8. 31	シンポジウム出席
小関 卓也	インドネシア	26. 8. 29～26. 9. 6	研究打合せ
伊藤 紘晃	ギリシャ, フランス	26. 9. 1～26. 9. 10	学会出席, 研究資料収集
藤井 秀人	ベトナム	26. 9. 6～26. 9. 14	現地調査
渡部 徹	アメリカ	26. 9. 9～26. 9. 13	学会出席
小沢 互 角田 毅	中国	26. 9. 21～26. 9. 26	現地調査, 交流打合せ
金 成学	韓国	26. 9. 22～26. 9. 26	現地調査
藤井 秀人	ベトナム	26. 9. 25～26. 9. 29	ワークショップ参加・発表
角田 憲一	マレーシア	26. 9. 26～26. 10. 6	現地調査, 研究打合せ
渡部 徹	タイ	26. 9. 28～26. 10. 1	研究打合せ
岩鼻 通明	韓国	26. 10. 5～26. 10. 9	現地調査
渡部 徹	中国	26. 10. 11～26. 10. 14	学会出席, 研究資料収集
夏賀 元康 吉田 宣夫 片平 光彦 松山 裕城	中国	26. 10. 31～26. 11. 5	協定に基づく学術交流
程 為国	インドネシア	26. 11. 5～26. 11. 11	要請講演
渡邊 一哉	ベトナム	26. 11. 10～26. 11. 16	現地調査
渡部 徹	ベトナム	26. 11. 14～26. 11. 19	現地調査, 研究打合せ
渡部 徹	フィリピン	26. 11. 21～26. 11. 24	学会参加, 研究資料収集
渡部 徹	タイ	26. 11. 26～26. 11. 29	招待講演, 研究打合せ
俵谷 圭太郎	インドネシア	26. 12. 1～26. 12. 12	研究打合せ
佐藤 隆平	インドネシア	26. 12. 1～26. 12. 12	職員大使
渡邊 一哉	タイ	26. 12. 6～26. 12. 14	現地調査
佐々木 由佳	ケニア	26. 12. 6～26. 12. 18	研究指導, 研究打合せ, 調査

氏名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
西澤 隆	ベトナム	26. 12. 7～26. 12. 13	学会出席・発表
菊池 俊一	ニュージーランド	26. 12. 8～26. 12. 23	現地調査
西澤 隆	バングラデシュ	26. 12. 26～27. 1. 2	研究打合せ
俵谷 圭太郎	バングラデシュ	27. 1. 7～27. 1. 12	交流打合せ
金 成 学	アメリカ	27. 3. 3～27. 9. 30	現地調査
角田 毅	ガーナ	27. 3. 7～27. 3. 19	現地調査
村山 秀樹	ドイツ	27. 3. 9～27. 3. 16	共同研究
ロペス・ラリー	モンゴル	27. 3. 13～27. 3. 20	研究打合せ
角田 憲一	インドネシア	27. 3. 15～27. 3. 22	研究成果報告, 打合せ, 調査
渡部 徹	インドネシア	27. 3. 19～27. 3. 27	現地調査
ロペス・ラリー	中国	27. 3. 22～27. 3. 25	研究打合せ

#### (4) その他の国際交流の実施

##### ① 国際交流協定締結校との国際交流

###### ○ドイツ ライプニッツ・ハノーヴァー大学

- ・サマースクールの実施 (26. 5. 13～26. 5. 27)
- ・大学間交流協定に基づく学生の受入 ロペス・ラリー准教授 (26. 10. 1～27. 3. 31)

###### ○インドネシア ガジャマダ大学

- ・大学間交流協定に基づく学生の受入 (26. 9. 1～27. 8. 31)  
西澤隆教授、塩野義人教授、俵谷圭太郎教授、村山秀樹教授、程為国准教授、  
小山浩正教授、芦谷竜矢教授、渡部徹准教授、

###### ○インドネシア パジャジャラン大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の受入 塩野義人教授 (26. 10. 19～26. 11. 18)

###### ○中国 黒竜江八一農墾大学

- ・大学間交流協定に基づく教員の派遣  
吉田宣夫教授 (26. 8. 23～26. 8. 24)  
夏賀元康教授、吉田宣夫教授、片平光彦准教授、松山裕城准教授 (26. 10. 31～26. 11. 2)

###### ○インドネシア ランブンマンクラート大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣 程 為国准教授 (26. 11. 7～26. 11. 10)

○バングラデシュ シエレ・バングラ農業大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の受入  
西澤隆教授 (26. 6. 16～26. 6. 28 , 27. 3. 15～27. 3. 26)
- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣  
西澤隆教授 (26. 8. 13～26. 8. 18 , 26. 12. 27～27. 1. 1)

○タイ チェンマイ大学

- ・大学間交流協定に基づく教職員の派遣 渡辺昌規准教授 (26. 7. 20～26. 7. 23)

○タイ カセサート大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣 渡辺昌規准教授 (26. 8. 9～26. 8. 12)
- ・学部間交流協定に基づく学生の受入 西澤隆教授 (26. 8. 1～26. 8. 31)

○中国 東北林業大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の受入 ロペス・ラリー准教授 (26. 9. 2～26. 9. 4)

② 研修の受け入れ

独立行政法人国際協力機構(JICA)の地域別研修「アフリカ地域(英語圏)稲作収穫後処理コース」から、8月18日から9月25日にわたり、アフリカ地域9か国から15名の研修生を受入



## 4. 社会活動・地域貢献

### (1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧

番号	類別	件名	研究者
1	調査	牛肉の成分分析について	堀口 健一
2	相談	木の葉の症状に関すること	小山 浩正
3	相談	飼料に関すること	吉田 宣夫
4	相談	防草に関すること	片平 光彦
5	相談	農業用機械の技術開発に関すること	片平 光彦
6	相談	「しもしらず」に関すること	小笠原 宣好
7	相談	彼岸花に関すること	小笠原 宣好
8	相談	木材利用に関すること	高橋 孝悦
9	講演	統計情報と専攻研修の関わりについて	小沢 亙
10	講演	新庄中学校総合学習講演会	野堀 嘉裕
11	講演	酒田市立東部中学校第一学年 総合学習	江頭 宏昌
12	講演	幼児の森林活動	林田 光祐
13	講演	寒河江市技術振興協会 特別講座	永井、平、江頭、西澤、 小沢、藤科、池田、片平
14	講演	遊佐町学校給食調理師研修会	五十嵐 喜治(客員教授)
15	委員委嘱	平成26年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 における講評者の委嘱について	西澤 隆
16	その他	鶴岡北高等学校 研究室訪問	豊増 知伸
17	その他	仙台向山高等学校 野外巡検	やまがたフィールド科学センター
18	その他	鶴岡南高等学校 科学部研究活動支援	加来 伸夫
19	その他	山形高校生フロンティア事業 講演および大学見学	小沢 亙 藤井 弘志 やまがたフィールド科学センター
20	その他	地すべり対策工模型について	奥山 武彦
21	その他	酒田東高等学校SGH事業支援	ロペス・ラリー
22	その他	寒河江高等学校・谷地高等学校 進路学習	長谷 修 森 茂太 服部 聡 村山 秀樹
23	その他	山形北高等学校 進路学習	村山 秀樹 やまがたフィールド科学センター
24	その他	栃木県立栃木農業高等学校 大学見学	やまがたフィールド科学センター

(2) 平成26年度 社会・地域等の要請により派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
夏賀 元康	実行委員	出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会
西澤 隆	平成26年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会における講評者	独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部
	山形県立鶴岡南高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	山形県教育庁高校教育課
	鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探求活動)講師	山形県立鶴岡南高等学校
	庄内水田農業推進機構会長	鶴岡市農林水産部農政課
	実行委員	出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会
	会員	つるおか農商工観連携総合推進協議会
	顧問	財団法人山形大学産業研究所
	理事	公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファクト
	鶴岡市農業発展奨励賞表彰審査委員会委員	鶴岡市
藤井 弘志	エコエリヤやまがた推進協議会委員	山形県農林水産部
	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市農林水産部農政課
	有機農産物認証業務公平性委員会委員	公益財団法人やまがた農業支援センター
	平成26年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業審査委員	山形県庄内総合支庁
平 智	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	庄内自然博物館構想推進協議会委員	鶴岡市企画部
	庄内自然博物館構想推進協議会専門委員会委員及び運営委員会委員	鶴岡市企画部
	鶴岡総合研究所所長	鶴岡市企画部
	鶴岡市下水道使用料等審議会委員	鶴岡市下水道部下水道課
	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市企画部政策企画課
堀口 健一	アドバイザー・ボードメンバー	山形県
吉田 宣夫	全国優良畜産経営管理技術発表会に係る審査委員	公益社団法人中央畜産会
	平成26年度牛由来堆肥被災地水田施用実証等事業推進委員会委員	一般財団法人畜産環境整備機構
	飼料用稲生産安定化促進事業推進委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	農業競争力強化対策民間団体事業に係る平成26年度「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」作成のための編集委員会委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	平成26年度フォーレンジテスト新システム構築事業に係る推進委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	全国自給飼料生産コンクール審査委員及び全国飼料増産優良事例選考委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業に係るプロジェクト成果評価審査会審査委員	山形県最上総合支庁産業経済部
	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業評価分科会委員	農林水産省農林水産技術会議事務局
角田 憲一	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市農林水産部農政課
片平 光彦	農業分野におけるCO2排出削減促進検討事業営農手法検討分科会委員	一般社団法人日本農業機械化協会
	研究開発推進委員	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
森 静香	山形県リサイクル製品認定・リサイクルシステム認証審査会審査員	山形県環境エネルギー部
	山形県科学技術奨励賞審査委員会委員	山形県商工労働観光部
佐々木 由佳	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市農林水産部農政課
岩鼻 通明	大江町文化的景観調査委員会委員	大江町教育委員会
	山形県景観審議会委員	山形県国土整備部
	科学研究費委員会専門委員	独立行政法人日本学術振興会
小沢 互	東北農政局豊かなみらづくり審査会委員	農林水産省東北農政局
	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	山形県米政策推進会議委員	山形県農林水産部
	農業改革に関する検討チームメンバー	山形県農林水産部
	平成26年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市農林水産部農政課
	米政策等の見直しに係る検討会アドバイザー	川西町農業再生協議会
	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市企画部政策企画課
	山形県農業・農村政策審議会委員	山形県農林水産部
農地中間管理事業評価委員会委員	公益財団法人やまがた農業支援センター	

角田 毅	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員	山形県農林水産部
	平成26年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
	酒田市集落営農組織ニューリーダー育成塾座長	酒田市
	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業に係るプロジェクト成果評価審査会審査委員	山形県最上総合支庁産業経済部
渡辺 理絵	山形県景観審議会	山形県
藤科 智海	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	山形県研究評価委員	山形県商工労働観光部
小関 卓也	平成26年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会審査委員	山形県村山総合支庁
	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業評価分科会委員	農林水産省農林水産技術会議事務局
木村 直子	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	科学研究費委員会専門委員	独立行政法人日本学術振興会
	日本学術会議連携会員	日本学術会議
加来 伸夫	山形県立農業大学校地域連携会議委員	山形県立農業大学校
	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	科学部アドバイザー	山形県立鶴岡南高等学校
渡辺 昌規	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
俵谷 圭太郎	専門家（3Rコンサルタント）	公益財団法人山形県企業振興公社
村山 秀樹	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	庄内さくらんぼ生産振興協議会アドバイザー	山形県庄内総合支庁産業経済部
	平成26年度学校評議員兼学校関係者評価委員	山形県立鶴岡北高等学校
	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	やまがた農産物安全・安心取組認証審査委員会審査委員	公益財団法人やまがた農業支援センター
江頭 宏昌	「うちな一島ヤサイ商品化支援技術開発事業（沖縄振興特別推進交付金）」推進会議外部アドバイザー委員	沖縄県農業研究センター
	焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会オブザーバー	鶴岡市温海庁舎産業課
	鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員	鶴岡市食育・地産地消推進協議会
	一般社団法人置賜自給圏推進機構顧問	一般社団法人置賜自給圏推進機構設立準備委員会
	山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー	山形おきたま伝統野菜振興協議会
笹沼 恒男	山形県ミラノ国際博覧会出展等実行委員会委員	山形県農林水産部
	遺伝子組換え実験安全委員会委員	山形県農業総合研究センター園芸試験
	育種専門指導員	庄内バイオ研修センター
	庄内バイオ研修センター育種専門指導員	庄内バイオ研修センター
及川 彰	高校生バイオサミットin鶴岡 表彰審査員	高校生バイオサミット実行委員会（慶応義塾大学先端生命科学研究所）
	客員研究員	独立行政法人理化学研究所
	やまがたフードセンシング活用アドバイザー	山形県
野堀 嘉裕	森林計画の策定等に係る検討会委員	東北森林管理局
	山形県環境影響評価審査会委員	山形県環境エネルギー部
	最上地域森林・林業再生会議委員	最上地域林業振興協議会
	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者	山形県農林水産部
	最上地域森林・林業再生会議委員	最上地域林業振興協議会
	鶴岡市景観審議会委員	鶴岡市
	山形県CO2森林吸収量等評価委員会委員	山形県
鶴岡市歴史的風致維持向上計画推進協議会委員	鶴岡市	
森 茂太	東北森林管理局国有林野管理審議会委員	東北森林管理局
	科学研究費委員会専門委員	独立行政法人日本学術振興会
林田 光祐	山形県森づくり支援人材育成研修講師	山形県森林研究研修センター
	庄内自然博物館構想推進協議会委員	鶴岡市企画部
	庄内自然博物館構想推進協議会専門委員会委員及び運営委員会委員	鶴岡市企画部
	試験植栽技術検討委員会委員	一般財団法人日本緑化センター
小山 浩正	東北森林管理局技術開発委員会委員	東北森林管理局
	アドバイザー・ボードメンバー	山形県
柳原 敦	平成26年度第55期生協役員（副理事長）	山形大学生生活協同組合

菊池 俊一	専門員	北海道建設部
	監事	環境つるおか推進協議会
	河川・砂防情報システム改修業務委託に関する総合評価審査委員会委員	山形県県土整備部
	東北森林管理局事業評価技術検討会委員	東北森林管理局
	月山ダム水源地域ビジョン推進会委員長	国土交通省東北地方整備局月山ダム管理所
早尻 正宏	「平成26年度『緑の雇用』現場技能者育成対策事業に係る調査事業」検討委員会委員	一般財団法人林業経済研究所
江成 広斗	山形県文化財保護審議会委員	山形県教育委員会
	特定鳥獣に係る保護管理施策推進のための対応等調査・検討業務に関する検討委員及びワーキンググループ委員	一般社団法人自然環境研究センター
	平成26年度農林水産省鳥獣害対策基盤支援事業対策手法確立調査・実証事業検討委員会検討委員	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
	平成26年度森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業（北海道・東北）検討委員会検討委員	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
	アドバイザー・ボードメンバー	山形県
藤井 秀人	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者	山形県農林水産部
	環境情報部会部会員（座長）	西郷北部地区経営体育成基盤整備事業推進委員会
奥山 武彦	官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員	農林水産省農村振興局
	平成26年度農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業「沿岸域における効率的な深層地下水調査手法の開発」に関する外部評価委員	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
	客員研究員	一般財団法人水土総合研究所
	平成26年度鉱害防止事業事前評価検討会委員	経済産業省関東東北産業保安監督部東北支部
	平成26年度地すべり調査意見聴取会委員	農林水産省農村振興局
	農業用水(畑)計画基準検討意見聴取会委員	一般財団法人日本水土総合研究所
渡邊 一哉	ゆとりとうるおい空間整備推進委員会委員	山形県農林水産部
	赤川水系河川整備学識者懇談会委員	国土交通省東北地方整備局
	リバーカウンセラー（最上川）	国土交通省東北地方整備局河川部
	山形ブロック総合評価委員会委員	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
渡部 徹	総合地球環境学研究所共同研究員	大学共同利用法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所
	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校

※氏名非公開，学会，営利企業は除く

(3) 平成26年度 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
岩鼻 通明	非常勤講師	山形県立米沢女子短期大学
角田 毅	非常勤講師	東北公益文科大学
藤科 智海	非常勤講師	山形県立農業大学校
加来 伸夫	非常勤講師	鶴岡工業高等専門学校
俵谷 圭太郎	非常勤講師	鶴岡市立荘内看護専門学校
村山 秀樹	非常勤講師	東北公益文科大学
笹沼 恒男	非常勤講師	鶴岡工業高等専門学校
及川 彰	非常勤講師	帯広畜産大学
奥山 武彦	非常勤講師（面接授業担当）	慶應義塾大学
梶原 晶彦	非常勤講師	放送大学
		鶴岡市立荘内看護専門学校

(4) 外部資金等の受け入れ状況

平成26年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	氏名	直接経費	間接経費	合計額	課題名
基盤研究 (B) 海外	渡部 徹	3,900,000	1,170,000	5,070,000	東南アジアの水環境における薬剤耐性菌の発生源と耐性獲得経路の推定
基盤研究 (B) 海外	藤井 秀人	2,400,000	720,000	3,120,000	モンゴル高洪水稲作地域における気候変動に向けた水管理システムの再構築
基盤研究 (B) 海外	安田 弘法	3,600,000	1,080,000	4,680,000	東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稲栽培の確立
基盤研究 (B) 一般	森 茂太	2,500,000	750,000	3,250,000	樹木個体吸収スケーリングから見た個体群構造とCO2収支の時間推移
基盤研究 (B) 一般	渡部 徹	5,100,000	1,530,000	6,630,000	水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発と水再利用へのその適用
基盤研究 (C)	森 静香	1,000,000	300,000	1,300,000	メタボローム解析による水稲の潮風害発生機構および抵抗性発現機構の解明
基盤研究 (C)	岩鼻 通明	600,000	180,000	780,000	映画を通じた地域活性化の日韓比較研究
基盤研究 (C)	塩野 義人	700,000	210,000	910,000	ナラ類集団枯損の防除物質の探索とその利用可能性について
基盤研究 (C)	豊増 知伸	1,400,000	420,000	1,820,000	イネのジベルペン環化酵素遺伝子群の進化・分化に関する研究
基盤研究 (C)	小山 浩正	800,000	240,000	1,040,000	ブナ林における個体ごとの繁殖と防御のトレード・オフ関係の検証
基盤研究 (C)	花山 奨	700,000	210,000	910,000	水田からのリ回収に関する基礎的研究
基盤研究 (C)	木村 直子	700,000	210,000	910,000	抗酸化機能欠損マウス卵を用いた染色体異数性発症機構の解明による新規IVM法の開発
基盤研究 (C)	渡邊 一哉	1,000,000	300,000	1,300,000	沿岸生態資源と人間の相互依存の動態解明
基盤研究 (C)	林田 光祐	1,300,000	390,000	1,690,000	震災後に造成される海岸林の生物多様性を考慮した保育技術の開発
基盤研究 (C)	加来 伸夫	1,400,000	420,000	1,820,000	水田微生物燃料電池の土壌生態系への影響解析と電極からの新規有用微生物の分離・利用
基盤研究 (C)	安田 弘法	1,400,000	420,000	1,820,000	温暖化が自然共生型水田淡水生物の相互作用とその多様性及びイネの生育に及ぼす影響
基盤研究 (C)	藤井 弘志	1,300,000	390,000	1,690,000	新規開発された高機能デジタルカメラによる作物診断システムの開発
基盤研究 (C)	恩田 弥生	1,600,000	480,000	2,080,000	植物の細胞生死を制御するジスルフィド産生系の分子機構
基盤研究 (C)	小関 卓也	1,400,000	420,000	1,820,000	ポリフェノールの高度利用のための酵素の機能解析と開発
基盤研究 (C)	小沢 亙	600,000	180,000	780,000	消費者の能動的行動が生産者に与える影響
基盤研究 (C)	角田 毅	1,200,000	360,000	1,560,000	雇用型大規模法人経営における人材定着マネジメントに関する研究
基盤研究 (C)	片平 光彦	2,300,000	690,000	2,990,000	施肥溝切り機を用いた新型作業技術が長ネギ栽培の作業性と生育に与える影響の解析
基盤研究 (C)	服部 聡	1,600,000	480,000	2,080,000	庄内沿岸極浅海域に生息する嫌氣的メタン酸化古細菌の多様性・活性評価および培養化
挑戦萌芽研究	永井 毅	900,000	270,000	1,170,000	高品質な米粉パン製造に最適な高ストレス耐性野生酵母の獲得と製パン技術開発
若手研究 (A)	江成 広斗	8,000,000	2,400,000	10,400,000	多雪地における大型哺乳類の分布回復が生態系に及ぼす影響の評価とリスク低減策の提示
若手研究 (B)	池田 和生	800,000	240,000	1,040,000	セイヨウナンシ枝変わりの赤着色変異機構の解明と育種の利用
若手研究 (B)	松本 大生	1,000,000	300,000	1,300,000	バラ科サクラ属における自家不和合性ジェネラルインヒビター候補の機能解析
若手研究 (B)	早尻 正宏	600,000	180,000	780,000	「森林管理の地方自治」の実現に向けた政府関係の再構築に関する実証的研究
研究活動スタート支援	星野 友紀	1,000,000	300,000	1,300,000	DNA修復機構突然変異体を利用したイネ次世代リソース開発基盤の構築
合計		50,800,000	15,240,000	66,040,000	

分担金一覧(平成26年度)

研究種目	氏名	分担金の配分額	直接経費	間接経費	研究課題名
基盤研究(B)	渡部 徹	650,000	500,000	150,000	フィリピンにおけるデング熱媒介蚊の集団遺伝学的研究:飛翔パターンと感染経路
基盤研究(A)	笹沼 恒男	195,000	150,000	45,000	東アジアに渡来・起源した作物資源の遺伝的評価と開発的研究(第2次)
基盤研究(B)	池田 和生	390,000	300,000	90,000	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明
基盤研究(C)	我妻 忠雄	130,000	100,000	30,000	中国東北部のソーダ質土壌の性質と植物の耐性
基盤研究(C)	野堀 嘉裕	195,000	150,000	45,000	気候温暖化が積雪減少を介してブナとミズナラの成長に及ぼす影響の解明
基盤研究(C)	及川 彰	475,000	400,000	75,000	アブラムシによる寄主植物の栄養条件改善機構の解明:アミノ酸の選択的蓄積
基盤研究(C)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	東北水田地帯における田畑輪換作の現局面と農法変革に向けた条件に関する研究
基盤研究(B)	及川 彰	910,000	700,000	210,000	ナシ属植物の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析
挑戦的萌芽研究	及川 彰	390,000	300,000	90,000	葉と果実のクロストーク:Tree Factorが支配する果実追熟性の機構解明
基盤研究(B)	村山 秀樹	520,000	400,000	120,000	大規模ゲノム情報と自殖F2集団を利用したナシ育種の効率化と新規優良品種の育成
基盤研究(B)	村山 秀樹	910,000	700,000	210,000	ナシ属植物の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析
基盤研究(A)	渡部 徹	4,810,000	3,700,000	1,110,000	気候・社会・生態系の変動に対応した感染症リスク評価モデルの構築
基盤研究(B)	程 為国	1,690,000	1,300,000	390,000	有機無農薬水稲栽培年数の経過に伴って土壌・水稲・雑草・動物はどう変化するか?
基盤研究(A)	渡部 徹	650,000	500,000	150,000	水環境におけるヒトノロウイルス未知動態の解明
基盤研究(C)	小林 隆	130,000	100,000	30,000	気象データを用いた葉面湿潤状態の推定手法の高度化と検証
基盤研究(B)	ロペス・ラリー	910,000	700,000	210,000	樹木年輪の幅・酸素・炭素および窒素安定同位体比を用いた生態系総合環境変動解析
基盤研究(B)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	後継者がいない農業経営者の資産計画と生活設計に関する研究
基盤研究(C)	家串 哲生	65,000	50,000	15,000	青果物輸送における環境対応型包装資材に関する研究
新領域提案型	及川 彰	2,170,000	1,900,000	270,000	植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明
合計		15,450,000	12,150,000	3,300,000	

平成26年度 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況

	件 数	金 額
奨学寄附金	43	14,834,185 円
受託研究	31	111,591,294 円
共同研究	11	10,984,000 円

(5) 公開講座等大学開放実施状況

1 市民交流農園

- 4月11日（金）開園式
- 8月 4日（月）夏のミーティング
- 10月28日（火）秋のミーティング

2 公開講座

「農村地域の活性化実践－集落営農組織による集落農業の再構築－」

第1回目

- 6月 7日（土）開講式（ガイダンス）  
「地域活性化とは。朝日地区の概要と課題」

第2回目

- 6月14日（土）「朝日地区の農業の現状は（地域踏査）」

第3回目

- 6月21日（土）「地域活性化の政府の支援策」

第4回目

- 7月 5日（土）ワークショップ

第5回目

- 7月26日（土）ワークショップ、提案の報告、修了式

3 農学部オープンキャンパス

- 8月 3日（日） 会場：山形大学農学部

4 女性研究者裾野拡大セミナー2014 in 農学部 会場：山形大学農学部

- 8月 3日（日）「女子高校生のためのランチオンセミナー－これからのキャリア形成を考える上で－」

5 夏期セミナー

- 8月 4日（月） 会場：山形大学農学部

○食料系コース

「牛肉にもいろいろありまして－肉質からの評価－」

○生命系コース

「バイオマスからエネルギーをつくる」

「イネのDNAを見てみよう！」

○環境系コース

「モンsoonアジアにおける水資源とその利用」

「防風林の防風効果をはかる」

6 在来作物実践講座「おしゃべりな畑」 会場：山形大学農学部

- 8月26日（火）～1月23日（金） 19回開講

7 ひらめき☆ときめきサイエンス

「生物の多様性を考える」



- 9月20日（土） 会場：山形大学農学部
- 生物の多様性を考える（講義）
  - 土壌微生物を観察する－菌根菌の役割（実験）
  - 植物を分析する－ポリフェノールの役割（実験）
  - 昆虫を観察する－植食者と捕食者との関係（実験）
- 8 山形大学農場フェスティバル  
10月 4日（土）  
会場：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場
- 9 農学紹介講座「農学の夕べ」 会場：山形大学農学部
- 第1回目  
10月 9日（木）  
「米副産物の再資源化による地域産業創生の可能性について」
- 第2回目  
10月16日（木）「世界のブドウ栽培とワインの話」
- 第3回目  
10月30日（木）「果物と健康」
- 第4回目  
11月13日（木）「内陸へつなぐ道－明治から平成の六十里越街道」
- 第5回目  
11月27日（木）  
「使える進化論－ダーウィンと紫式部はどこで繋がるのか？－」
- 第6回目  
12月11日（木）「1兆倍に育つ樹木の呼吸法則－論争最前線－」
- 10 研究シーズ説明会・ビジネスマッチ  
10月24日（金）会場：山形大学農学部
- 11 日本酒シンポジウム 「Oh!洒落に日本酒de Night! 2時限目」  
11月 7日（金）会場：山形大学農学部
- 12 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム「これからの森林・林業」  
11月14日（金） 会場：山形大学農学部
- 基調講演「これからの森林・林業－林業の成長産業と地方創生－」
  - パネルディスカッション
- 13 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携シンポジウム  
第5回「農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム－私たちの挑戦－」  
11月18日（火）会場：山形市文翔館
- 14 山形大学農学部・慶應義塾大学先端生命科学研究所・東北公益文科大学・  
鶴岡工業高等専門学校との連携事業  
知の拠点庄内第4回シンポジウム 「地方創生－庄内の未来を創る－」

2月 7日（土）会場：鶴岡市先端研究産業支援センター・レクチャーホール

- 「山形大学の歩みとこれからの社会貢献」
- 「地域密着型で地方を創生ーグローバルエンジニアの育成ー」
- 「未来を創る、おもしろ人財」
- 「ICTによる文化の発信と地域活性化」

15 山形大学農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2015」

2月20日（金） 会場：グランド・エル・サン

- 卒業論文修士論文発表会
- 基調講演「コメと食文化」
- パネルディスカッション「稲から始める文化」

16 3年目のキャンドルナイト

3月11日（水）会場：鶴岡アートフォーラム

17 附属やまがたフィールド科学センター実施

(1) 鶴岡市との共催事業 農業体験「わんぱく農業クラブ」の実施

5月17日（土）～11月15日（土）

(2) 収穫体験「大学農場に行こう」

9月16日（火）～10月31日（金）

(3) 「森の学校」

7月19日（土）、10月18日（土）、2月7日（土）

## 5. フィールド科学センターの概況等

### エコ農業部門

#### 平成26年度課題の総括

1. エコ農業部門の組織機構整備を行う。
  - ・教育研究、技術、業務の3部門体制による組織機構の整備を行うように努力した。
  - ・学生等外部委託における農場運営の整備強化を図った。
2. 生産現場における教育研究活動を強化する。
  - ・フィールドサイエンス実験実習Ⅰ、Ⅱおよび野外科学、安全農産物生産学実験を安全農産物生産学コース教員と共同で行った。
  - ・農場を利用した研究課題は29課題であり、利用教職員は延べ18名であった。
  - ・農場を利用した研究業績は、学会誌等は18編、口頭発表は16編であった。
  - ・技術検討会議、農場開放への取り組みについてはほぼ計画とおり実施した。
3. 山形在来作物系統保存センターを充実させる。
  - ・展示圃場及び展示室を充実させた。
4. 農場予算について
  - ・技術職員の研修費等について、必要な経費は支出するようにした。  
法人化後の労基法に定める免許・資格及び作業従事に係る研修等が増加していることに鑑み、学部共通及び農場運営経費より支出し、技能・技術の充実を図った。また、各業務上有益と判断される研修等についても予算化し、同様の充実を図った。  
他機関（大学他）に派遣し、情報や技術交換、施設・装置の共同利用による商品開発等は非常に有益であり、今後も継続して予算措置を図りたい。
5. 農場生産物販売のあり方を検討する。
  - ・各生産物の販売目標と課題については、概ね明確にして販売を行った。  
配置人員や生産計画について大きな変更は不可能なため、前年の収穫量・販売額を目標値として設定していたが、前年度と比較し3.8%程の増収となった。天候不順により、エダマメの収穫が大きく落ち込んだものの、他の農産物の収穫量が全般的に増加したことが主な要因である。
  - ・6月下旬～12月上旬の毎週木曜日に「農場市」を開場し、好評を得ることができた。
  - ・地域イベントに積極的に参加し、農産物の販売及びPRを行った。
6. 生産基盤の点検・強化
  - ・水田の基盤整備（田床改良）は、石川准教授の協力を得て、「環境保全型汎用水田」の施工を30aの水田2枚で完了し、新たな2枚で着工した。
  - ・黒毛和種の繁殖成績ならびに繁殖技術の向上を目指した。
7. その他
  - ・朝暘第6小学校及び渡前小学校へヤギを貸し出し、飼育支援を行った。
  - ・国際協力機構（JICA）の地域別研修の研修プログラムの一環として、8月28日（木）に研修生10名と研修管理員2名が農場見学を行った。
  - ・国際協力機構（JICA）の短期研修（平成26年8月18日～9月25日）の研修プロ

グラムの一部として研修生15名と研修監理員2名が農場見学を行った。

## I. 教育

### 1. 実習教育等

#### (1) カリキュラム

農場で担当した授業科目は、以下のとおりである。

表 1-1 農場関係授業カリキュラム

	授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講学年・学期
専門基礎科目	基礎農学セミナー	必修	2	1年・前期
	安全農産物生産学概論	必修	2	1年・後期
基盤教育科目	やまがたフィールド科学	選択	2	全学年・前期
学科共通科目	食料生命環境学実験実習	必修	2	2年・前期
	環境保全型エコ農業論	必修・選択	2	2年・後期
コース必修科目	安全農畜産物生産論	必修・選択	2	2年(3年)・前期
	畜産学	必修・選択	2	2年・前期
	野外科学	必修	1	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-A	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-B	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅱ	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究調査演習	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究準備演習	必修	2	3年・後期
	安全農産物生産学コース実験実習	必修	2	3年・前期
	コース選択科目	果樹園芸学	選択	2
安全農産物生産学特講Ⅰ		選択	2	3年・後期

#### (2) 基礎農学セミナー

履修者: 165名

農学部1年次学生が鶴岡キャンパス、農場、演習林での体験を通して各コースの概要を理解すると共に鶴岡キャンパスでの生活をイメージできるようにすることを目的に2泊3日の日程で実施され、農場では9月18日に稲刈り体験を行った。

#### (3) 安全農産物生産学概論

履修者: 164名

食料生命環境学科・専門基礎科目として、安全・安心な農畜産物の生産について総合的な視点から考えさせることを目的に学部教員10名とともにいった。

- (4) やまがたフィールド科学  
履修者: 5名 (農学部5名他学部0名)  
全学部, 全学年を対象にした基盤教育教養科目の講義として9月24日~26日までの2泊3日で実施した。山形県金峰少年自然の家に宿泊し, 農場で水稻の生育過程の学習, 水稻収量調査, 稲刈り体験, 水田昆虫の観察, 庄内柿の樹上脱渋, 鶏の解体を行った。
- (5) 食料生命環境学実験実習  
履修者: 160名  
農学が対応しなければならない幅広い内容を総合的に理解する目的で, 食料系・生命系・環境系に分かれて実施した。食料系は15回を教員16名で行った。農場では食料系の実習: 田植え, リンゴ管理, 牧草収穫, 植物病害調査, 鶏解体をそれぞれ2回ずつ実施した。
- (6) 環境保全型エコ農業論  
履修者: 57名  
循環型農業の1事例として堆肥の生産・利用技術を軸にして, 飼料作物の栽培と給与, 園芸作物への堆肥利用法, 水稻への施用技術および食品残さの飼料化等について, 学部内で後期15回の講義を農場所属教員3名で行った。
- (7) 安全農畜産物生産論  
履修者: 62名  
安全な農畜産物を生産する視点から, 植物病理学, 作物学, 畜産学関連の知識習得を目指した安全な農畜産物を生産するのに必要な考え方と最新情報の理解を深める。学部教員2名と分担して行った。
- (8) 畜産学  
履修者: 75名  
家畜の生産から畜産物の利用までの基礎理論を習得することを目的として, 畜産学の基礎知識, 家畜家禽の定義, 分類, 起源, 家畜の育種, 繁殖, 飼養管理, 草地, 衛生, 利用等を総合的に学習し, 今日の畜産業が直面する飼料問題, 畜産物の安全性などの課題を理解させる。学部内で前期15回の講義を農場所属教員が行った。
- (9) 野外科学  
履修者: 41名  
安全農産物生産学コースのフィールドサイエンスI A, I Bと関連付けて, 野外における調査及び農作業の基本的な知識を概説した。
- (10) フィールドサイエンス実験実習I A, I B  
履修者: 41名  
各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から, 安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的, 多面的な考え方や技術を習得することを目的とし, 安全農産物生産学コース教員全員で行った。
- (11) フィールドサイエンス実験実習II  
履修者: 43名  
各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から, 安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的, 多面的な考え方や技術を習得することを目的とし, 安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(12) 果樹園芸学

履修者: 14名

旧生物生産学科開講科目として、良品質果実の安定生産に必要な理論とそれを実践する技術を理解することを目的とし、学科教員と2名で行った。

2. 農場教員による学生指導

- (1) 卒業論文学生3年生6名、4年生5名を農場教員が指導を行った。
- (2) 博士コース院生2名、修士コース院生1名を協力・指導を行った。

3. 山形在来作物系統保存センターの充実

キュウリ7系統、カボチャ1系統、マクワウリ1系統、ナス1系統、エダマメ40系統、サトイモ10系統、アズキ1系統、ベニバナ1系統を展示栽培した。

また、農場教員が指導する学生の修士論文のテーマとしてヤマブドウ在来系統83樹を実験材料として提供した。

4. 農場開放

(1) 収穫体験「大学農場に行こう」

鶴岡市およびその近郊の保育園、幼稚園を対象に春のお花見から、リンゴ、クリの収穫体験、動物見学、農場内の散策・昆虫採集などに農場施設を開放した。案内・説明等は学生アルバイトを併用して行った。

実施時期：平成26年9月16日～10月31日

参加人員：26団体 1, 319名

(2) 農業体験「わんぱく農業クラブ」

庄内農業水田推進機構の事業の一つとして、学部教員、農場教職員、鶴岡市の三者共催で平成11年度から実施してきたものである。農場の水田を利用して田植えから稲刈り、わら細工の加工まで総合的な学習を行った。

実施時期：平成26年5月17日～11月15日

参加人員：小学3～6年生親子25組

実施内容： 5月 田植え、枝豆定植

6月 農業用水の学習、牛舎見学、ヤギの乳搾り、昆虫採集

7月 稲・枝豆の生育調査、田んぼの生きもの探し、野菜の学習

8月 稲の開花観察、枝豆収穫

9月 稲刈り・杭がけ体験、バケツ稲コンクール

10月 脱穀から精米までの過程、食育学習、果樹の学習

11月 わら細工体験、もちつき体験、収穫感謝祭

(3) 「山形大学農場フェスティバル」

昨年度に引き続き、農場産米のPRを目的として、新米を食しながら若手音楽グループの野外演奏や各種催しを楽しむイベントを開催した。開催にあたり庄内2市3町からも米の提供や出店があり、地域との連携も深めることができた。当日の天候不順にもかかわらず、1000名程の来場者があった。

実施日：平成26年10月4日

集客人数：約1000名

(4) 小・中学校の総合学習、高校のインターンシップ等に対応する。

産業現場等における実習

宮城県立仙台向山高等学校

実施日時：平成26年6月27日（金）

参加者：2年生40名

概要：同校が体験学習の一環として毎年企画しているものであり、高坂農場には、平成21年度に続き2回目の来訪となった。  
イネの生育に関する知識を習得した後、実際に水田に入ってイネを採取し、採取したイネに関する統計的な処理を学んだほか、同校出身の本学部学生と交流した。

山形県立山形北高等学校

実施日時：平成26年8月5日（火）

参加者：2年生・3年生16名

概要：進路学習の一環として農学部に来学、高坂農場において、水田の見学等を行った。

山形高校生フロンティア事業

実施日時：平成26年8月6日（水）

参加者：県内各高等学校の生徒

概要：「山形高校生フロンティア事業」研修の一環で農学部に来学、高坂農場において現場の水田等の見学を行った。

## II. 研究

### 1. 研究課題

農場および学部教職員の農場を利用した研究課題は、表II-1のとおりである。

農場教職員が科学研究費等を申請した課題は、表II-2のとおりである。

表II-1. 農場および学部教職員の研究課題

No.	担当者	研究課題	利用施設等	利用期間
(水田関係)				
1	藤井 弘志 森 静香	「水稻」塩分付着害に関する研究、高温ストレスと亜リン酸ケイ酸資材試験、デジタルカメラ用	水田 30a 2枚	26.4 ~ 26.10
2	長谷 修	安全農産物生産学コース学生実験	水田 30a 2枚	26.4 ~ 26.9
3	加来 伸夫	水田に設置した微生物燃料電池の特性の解析	水田 20m <sup>2</sup>	26.4 ~ 27.3
4	星野 友紀	コシヒカリDNA修復欠損突然変異体を用いた高効率変異集団の作出	水田 25a	26.5 ~ 26.10

			つや姫の環境適応カズタマイズ改良による生産力強化のための実験系統群の作出						
			コシヒカリ、はえぬきを対象とした、開花期関連遺伝子の発現解析						
5	角田 憲一		水田における化学肥料由来窒素の動態	水田	30a	26.4	～	26.9	
6	角田 憲一		S S NMによる水稲の窒素施肥管理の有効性	水田	30a	26.4	～	26.9	
7	佐々木由佳		ケイ酸資材の長期運用が水稲および土壌のケイ酸含有量に与える影響	水田	30a	26.4	～	26.9	
8	小林 隆		イネ紋枯病の被害が収量および品質に及ぼす影響	水田	10a	26.5	～	26.10	
9	笹沼 恒男		イネ酒米形質の調査	水田	0.5a	26.4	～	26.10	
10	佐藤 智		マルタニシの生態と水稲栽培におよぼす影響	水田	4a	26.4	～	27.3	
11	佐藤 智		多数回除草が水稲栽培におよぼす影響	水田	30a	26.4	～	27.3	
12	花山 奨		水田地帯の地中熱利用に関する研究	水田		26.4	～	27.3	
13	片平 光彦		水稲直播栽培に関する研究	水田		26.4	～	26.10	
			(畜産関係)						
14	夏賀 元康		近赤外分光法による山羊乳由来の乳製品の品質測定	畜舎		26.4	～	27.3	
15	吉田 宣夫		反芻家畜における地域未利用資源の飼料化とその利用に関する研究	畜舎 放牧場		26.4	～	27.3	
16	吉田 宣夫		各種飼料の第一胃内消化性の検討	畜舎 放牧場		26.4	～	27.3	
17	堀口 健一		堆きゅう肥を施用した飼料作物の栽培およびサイレージ品質に関する研究	畜舎		26.4	～	26.10	
			(蔬菜関係)						
18	佐々木由佳		堆肥と化学肥料の施用がただちや豆の生育、収量、品質に及ぼす影響	畑	10a	26.5	～	26.9	
19	片平 光彦		エダマメの狭畦密植栽培に関する研究	野菜ほ場		25.4	～	25.9	
20	江頭 宏昌		山形県を中心とする在来カブの形質評価と系統保存	ガラス室周 辺	1a	26.4	～	26.6	
21	江頭 宏昌		ダダチャ豆系統の食味成分分析と近赤外分光法による食味成分の非破壊分析法の開発	畑	5a	26.4	～	26.10	



22	笹沼 恒男	ムギ類、ベニバナ、トウガラシの多様性解析及びその育種学的応用研究	畑	3a	26.4	～	27.3
23	池田 和生	ベニバナアマにおける異型花型自家不和合性に関する研究	畑	10a	26.4	～	27.3
24	池田 和生	山形在来キュウリの果実特性と加工適性に関する研究	畑	10a	26.4	～	26.10
25	池田 和生	庄内柿への石灰肥料効果に関する研究	畑	10a	26.4	～	27.3
26	星野 友紀	ダダチャマメ特有の香り成分の遺伝的解明 ダダチャマメ系統を識別するDNAマーカーの開発 ダイズ脂肪酸突然変異体の変異様式の解明	畑	5a	26.5	～	26.10
27	佐藤 智 岩澤 薫	物理的除草が節足動物の発声に及ぼす影響	畑	260m <sup>2</sup>	26.5	～	26.9
(果樹関係)							
28	池田 和生	ヤマブドウ在来系統群の特性解明	果樹園	10a	26.4	～	27.3
29	池田 和生	バラ科果樹の果皮における着色遺伝子の同定とその遺伝様式	果樹園	10a	26.4	～	27.3

## 農場教職員科学研究費等申請課題

### 表Ⅱ-2 その他経費

#### 農林水産省委託プロジェクト研究

No.	担当者	研究課題
1	吉田 宣夫	乳牛ペレット飼料の加工調製及び給与技術の開発 (3系)
2	吉田 宣夫	自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発 (4系)

#### JST-JICA地球規模課題対応国際科学協力プログラム

No.	担当者	研究課題
1	佐々木 由佳	テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト (分担)

### 地域産学官連携プロジェクト事業

No.	担当者	研究課題
1	有賀 和裕	雪を利用したリンゴの長期保存の検討
2	田中 健一	庄内地域に自生する薬用植物の収集と栽培法の検討

### 地（知）の拠点整備事業

No.	担当者	研究課題
1	佐々木由佳	飼料と稲を用いた畜産を核とする農業生産サイクルの構築 ②良質な飼料用米及び稲わら生産のための肥培管理方法の確立

## 2. 研究業績（2014年4月～2015年3月）

### 学報等

1. 佐々木由佳 2014：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場の水田の土壌断面形態. 山形大学紀要（農学） 17(1), 41-49

### 学会誌

1. Atsushi Kouzuma, Nobuo Kaku and Kazuya Watanabe (2014) Microbial electricity generation in rice paddy fields: recent advances and perspectives in rhizosphere microbial fuel cells. Applied Microbiology and Biotechnology, 98(23), 9521-9526.
2. 施肥溝切り機を用いたネギ栽培における生産性改善に関する研究（第1報）. [農業食料工学会誌, 76 (6), (2014), 533-540] 進藤勇人, 大竹智美, 片平光彦, 本庄求, 齋藤雅憲, 夏賀元康
3. 施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の効率的作業技術に関する研究. [農業食料工学会東北支部報, 61, (2014), 31-34] 大竹智美, 進藤勇人, 片平光彦, 夏賀元康
4. 鳥友図・片平光彦・夏賀元康・吉田宣夫 2013 近赤外分光法によるヤギ生乳成分の測定（第3報） 農業食料工学会東北支部報 60巻 pp85 - 88
5. フキ用皮むき機の開発. [農業食料工学会東北支部報, 61, (2014), 19-22] 佐藤滋仁, 高橋史夫, 片平光彦, 夏賀元康
6. フォトセンサーと画像処理技術を活用したエダマメ用高精度選別機械の開発(第2報). [New Food Industry, 56 (9), (2014), 8-20] 鴻巣直哉, 石川祥大, 高橋史夫, 片平光彦, 夏賀元康

### 口頭発表

1. 進藤勇人・大竹智美・片平光彦・本庄求・齋藤雅憲・夏賀元康：近赤外分光法によるヤギ生乳の異物混入の検査[農業食料工学会第73 回年次大会]  
(2014年5月19日－2014年5月20日, 那覇(沖縄))
2. 佐藤滋仁・高橋史夫・片平光彦・夏賀元康：フキ用皮むき機の開発（第2報）[農業食料工学会第73 回年次大会]  
(2014年5月19日－2014年5月20日, 那覇(沖縄))
3. 大竹智美・進藤勇人・片平光彦・夏賀元康：施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究[農業食料工学会第73 回年次大会]  
(2014年5月19日－2014年5月20日, 那覇(沖縄))

4. Motoyasu Natsuga : VEGETABLE SOYBEAN (EDAMAME) SORTING MACHINE USING IMAGE PROCESS-ING[ISMAB2014 International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering ]  
(2014年5月21日－2014年5月22日, Ilan, Taiwan)
5. Motoyasu Natsuga : PRELIMINARY STUDY ON THE SCREENING OF GOAT MILK ADULTERATION USING NEARINFRARED SPECTROSCOPY[ISMAB2014 International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering ]  
(2014年5月21日－2014年5月22日, Ilan, Taiwan)
6. 夏賀元康：フキ用皮むき機の開発[国際食品工業展FOOMA2014 アカデミックプラザ]  
(2014年6月10日－2014年6月13日, 東京)
7. 夏賀元康：フキ用皮むき機の開発[農業食料工学会東北支部会]  
(2014年8月21日, 山形市)
8. 夏賀元康：施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の効率的作業技術に関する研究- チェーンポット連結の効率化- [農業食料工学会東北支部会]  
(2014年8月21日, 山形市)
9. 夏賀元康：近赤外分光法によるヤギ生乳の異物混入の検査[農業食料工学会東北支部会]  
(2014年8月21日, 山形市)
10. 夏賀元康：近赤外分光法によるヤギ生乳の品質測定に関する研究[第16回全国山羊サミットin 山形]  
(2014年10月11日－2014年10月12日, 山形大学農学部鶴岡キャンパス)
11. 池田和生, 瀬賀美貴, 高橋柚稀, 高橋由信, 村山秀樹：着色タイプの異なる赤着色系セイヨウナシのアントシアニンの蓄積、園芸学研究 13 別冊 2 : 343
12. 池田和生, 瀬賀美貴, 高田宏樹, 高橋柚稀, 高橋由信, 村山秀樹：赤着色系セイヨウナシの着色メカニズムに関する研究、第 15 回西洋なしフォーラム
13. 星野友紀・渡辺啓史・高木胖・穴井豊昭 2014. 11. 15 : TIILING 法による低リノレン酸ダイズ突然変異系統の開発、第 9 回東北育種研究集会 P-2 (岩手大学)
14. 石川衿子・阿部勝磨・杉本和彦・星野友紀 2014. 11. 15 : 塩基置換および欠失特異的な切断活性を有する CELI の抽出と反応条件の検討、第 9 回東北育種研究集会 P-3 (岩手大学)
15. 星野友紀・渡辺啓史・高木胖・穴井豊昭 2014. 12. 13-14 : 逆遺伝学的手法を用いた油脂の酸化安定性に優れた低リノレン酸ダイズ系統の開発、東北植物学会第 4 回大会 P-37 (山形大学)
16. 渡辺杏里・滝口可菜・穴井豊昭・星野友紀 2014. 12. 13-14 : 高ステアリン酸ダイズ突然変異系統群の DNA 変異様式の解析、東北植物学会第 4 回大会 P-38 (山形大学)
17. 阿部勝磨・杉本和彦・星野友紀 2014. 12. 13-14 : 高変異率を有するイネ突然変異集団の作出を目指した DNA 修復欠損突然変異体の利用、東北植物学会第 4 回大会 P-39 (山形大学)
18. 石川衿子・阿部勝磨・杉本和彦・星野友紀 2014. 12. 13-14 : 欠失および塩基置換特異的な切断活性を有する CELI の抽出と切断反応の最適化、東北植物学会第 4 回大会 P-40 (山形大学)
19. 土田健太・角田憲一・佐々木由佳・真壁周平・安藤豊 2014: 水稻の Site-specific nutrient management による窒素の減肥. 日本土壌肥料学会講演要旨集 60, 90
20. Innocent Bisangwa, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando 2014 : Comparative performance of plants spacing on rice yield. 日本土壌肥料学会講演要旨集 60, 253
21. 鈴木 理・佐藤 智 農法が水田と畦畔の節足動物群集と植生に及ぼす影響、第 58 回日本応用動物昆虫学会 大会
22. Satoshi Suzuki・Satoru Sato: The effect of farming methods on community of surface active spiders in rice field ridges. 4th International Workshop on Sustainable Rice Production “Consequences of Environmentally Friendly Agriculture”. December 19-20, 2014, Faculty of Agriculture Niigata University.]
23. Vira Kusuma Dewi, Hironori Yasuda: Effect of snails and water managements on abundance of aquatic organisms and terrestrial arthropods in paddy fields, the 58th annual

- meeting of the Japanese Society of Applied Entomology and Zoology, Kochi on 26 to 28 March 2014.
24. Vira Kusuma Dewi, Hironori Yasuda. : Agriculture Changes The Southeast Asia, Past, Present and Future, ISSAAS 2014, 20th Founding anniversary celebration & International Congress and general meeting.
  25. Vira Kusuma Dewi, Hironori Yasuda. : Effect of snails on community structure of aquatic organism and rice plant growth in the paddy fields, Nodai Academia Center, Tokyo University of Agriculture, Tokyo, Japan, November 8-10, 2014.
  26. Vira Kusuma Dewi, Hironori Yasuda. : The mud Snails (Cipangopaludina sp) effects on The Functional Feeding Groups Macroinvertebrates associated rice plant growth. , 4th International Workshop on Sustainable Rice Production “Consequences of Environmentally Friendly Agriculture” . December 19-20, 2014, Faculty of Agriculture, Niigata University.
  27. Dina Wahyu Trisnawati·Hironori Yasuda. : Effects of bio-based nutrient on the abundance of aboveground arthropods in organic paddy fields, 4th International Workshop on Sustainable Rice Production “Consequences of Environmentally Friendly Agriculture” . December 19-20, 2014, Faculty of Agriculture Niigata University.
  28. 岩澤薫・佐藤智：物理的除草が節足動物の発生に与える影響、第58回 日本応用動物昆虫学会 大会
  29. 岩澤薫・佐藤智：Design the habitats—Effects of two kinds of mechanical weeding on occurrence of weeds and arthropods, 4th International Workshop on Sustainable Rice Production “Consequences of Environmentally Friendly Agriculture” . December 19-20, 2014, Faculty of Agriculture Niigata University.
  30. 鈴木智貴, 大竹裕規, 長谷 修, 生井恒雄 (2014) 山形県庄内地方におけるメヒシバいもち病の発生生態、日本植物病理学会報 80 (2) : 88-97
  31. 鈴木 理・佐藤 智：農法が水田と畦畔の節足動物群集と植生に及ぼす影響、山形大学農学部 卒業論文発表会

#### ポスター発表

1. Naoya KONOSU, Mitsuhiko KATAHIRA, Motoyasu NATSUGA, Shuhuai ZHANG 2014  
Vegetable soybean (edamame) sorting machine using image processing, roceedings of the 7th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB) 21-23 May 2014, Yilan, Taiwan WCAP World Conference on Animal Production. 198.
2. 紺野勇太・加来伸夫・上木厚子・上木勝司・渡部徹・渡邊一哉 (2014) 水田への微生物燃料電池の設置が水田土壌中におけるメタン生成に与える影響. 環境微生物系学会合同大会 2014 講演要旨集 (浜松)、213.
3. 角田憲一・中村康太・福田翔太・佐々木由佳・真壁周平・安藤豊 2014 : 水田における施肥窒素の長期追跡. 日本土壌肥料学会講演要旨集 60, 97
4. 佐々木由佳・丹野友樹・原あかり・真壁周平・角田憲一・安藤豊 2014 : 2種の有機質資材の連用がただちや豆収量に与える影響. 日本土壌肥料学会講演要旨集 60, 107
5. 真壁周平・Shah Moinur Rahaman・角田憲一・佐々木由佳・安藤豊 2014 : 節水栽培が水稲のケイ酸吸収に与える影響. 日本土壌肥料学会講演要旨集 60, 99

### 3. その他

#### (1) 学会の開催

平成26年10月11日(土)～12日(日)に、「第16回山羊サミット in 山形」を開催した。

## 流域保全部門

流域保全部門は、「森林計画」を基本に、教育研究、社会連携、森林管理等を実施している。

平成26年度の報告は、第8次森林計画（平成26年～35年）に基づき立案された「平成26年度森林計画」の実行に関する概況である。

### I. 教育・研究林としての利活用

#### 1. 教育

演習林に関連する授業科目を表-1に示す。

表-1 演習林に関連する授業科目

科目名	学年	開講期	単位数	実施方法
<b>学士課程</b>				
フィールド科学のテクニック	全学年	前期	1	夏期集中
やまがたフィールド科学Ⅱ	全学年	後期	2	冬期集中
1年生夏期セミナー	1	前期	1	夏期集中
生物環境学へのアプローチ	1	後期	2	週1回
流域保全論	2	前期	1	週1回
生物環境学実験実習	2	前期	1	週1回
フィールドサイエンス実習Ⅲ	2	前期	1	夏期集中
流域保全実習	2	前期	1	夏期集中
雪山実習	2	後期	1	春期集中
森林雪氷学	3	前期	2	週1回
森林生態学実験実習Ⅰ	3	前期	1	前期集中
自然環境調査実験実習	3	前期	1	夏期集中
森林測量学実習	3	前期	1	夏期集中
河川環境調査実験実習	3	前期	1	夏期集中
森林資源利用学実験実習	3	後期	1	後期集中
森林生態学実験実習Ⅱ	3	後期	1	後期集中
卒業論文（研究指導）	3・4	前後	10	
<b>大学院修士課程</b>				
森林雪氷学特論	1	後期	2	集中
森林雪氷学特別演習	2	前後	4	集中
生物環境学特別研究	1・2	前後	8	集中

このうち、流域保全部門が主体となって実施した学部科目の授業概要を以下に記す。

#### (1) やまがたフィールド科学Ⅱ（雪との共生－雪国の自然と生活－）

一般教育科目「生命・環境」領域の教養セミナーとして全学部の学生を対象に平成13年度より開講しており、演習林における教科の全学開放の一つとしても位置づけられている科目である。今年度は、平成27年1月6日～9日の冬季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、TAの協力を得ながら集中合宿・自炊方式で実施した。

## (2) 流域保全論

学部共通2年次前期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、私たちの暮らしを守り、快適に、豊かにしてくれる森林について広い視点からとらえ、森林の恵みを将来にわたって上手に利用していくためには何が必要かを論議し、森林とのつきあい方のあるべき姿について学ぶことである。授業は講義と上名川演習林におけるエクスカージョンとにより、グローバルな環境問題と深い関わりをもっている森林資源の実状について、わが国内外の様子を紹介したあと、森林の環境形成作用、森林と環境との相互作用、森林の有する多岐にわたる公益的機能のしくみ等について明らかにし、環境保全的な森林の取り扱い方に関する理論と実践について学習した。

## (3) 流域保全実習

食料生命環境学科の2年次前期の選択科目として平成14年度より開講している。今年度は9月25日～27日の夏季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、集中合宿・自炊方式で実施した。授業のねらいは、グローバルな環境問題と深い関わりを持っている森林の多面的な働きについて、森林体験を通じて理解を深め、森林を健全な状態で持続的に維持していくための具体的な方法を修得することである。

## (4) 雪山実習

2年前期の「森林雪氷学」に対応する実習として位置づけており、学部共通2年次後期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、雪国の森林や人々の生活に多大な影響を与える積雪環境について理解を深め、克雪から利雪、親雪へ向けての展望に関心を持ってもらうことである。

## 2. 卒業論文・修士論文・博士論文の指導

流域保全部門の研究室に学部学生（4年生2名）、修士課程（1年生1名）の学生を受け入れ、エコ農業部門および学部の教職員と共同で論文指導を行った。

## 3. 研究

上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマを表-2に示す。

表-2 上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマ

No.	研究代表者	共同研究者	研究テーマ	場所
1	橋本 美里	小山 浩正	山形県内のブナ豊凶とツキノワグマ出没の地域による違い	上名川演習林
2	飯沼 久仁佳	小山 浩正	ブナの個体による開花・結実およびその他の特性の違い	上名川演習林
3	村下 拓郎	小山 浩正	ブナとミズナラの休眠芽に関する研究	上名川演習林
4	斉藤 幹保	小山 浩正	巻き付き型つる植物であるクズが登攀可能な支柱の直径について	上名川演習林
5	森 茂太	石田 厚, 山路 恵子, 赤田 辰治, 小山 耕平	1) 樹木個体スケーリングから見た個体群構造とCO2収支の時間推移（平成23～26年度） 2) 森林生態系をマイクロからマクロに結ぶメタボリックスケーリングに生じるシフトの総合研究	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
6	森 茂太	石田 厚, 小山 耕平, 足立 忠晴	1) 森林生態系をマイクロからマクロに結ぶメタボリックスケーリングに生じるシフトの総合研究 2) 重力対抗体制から見た植物個体コストの類型化	生物多様性保全研究園
7	林田 光祐	小林 峻大	ケンポナシの発芽と実生の成長に関するに関する研究	生物多様性保全研究園

8	林田 光祐	高橋 章文	ヤマボウシの発芽と実生の成長に関する研究	生物多様性保全研究園
9	渡邊 一哉	演習林職員, 山形県内水面水産試験場, 赤川漁業協同組合	サクラマス幼魚の動態に関する研究およびサクラマス成魚の遡上行動に関する研究行動	上名川演習林
10	野堀 嘉裕	白川 浩司	スギの収量-密度曲線の構築	上名川演習林
11	野堀 嘉裕	飯塚 眞成	地形解析による演習林の崩壊地予測	上名川演習林
12	丹 英和	柳原 敦	山形大学上名川演習林大徳沢林道での路面洗掘の原因究明と再発防止策の検討	上名川演習林
13	高橋 孝悦, 芦谷 竜矢	西條 裕美	スギ樹皮成分の分析と生物活性	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
14	高橋 孝悦, 芦谷 竜矢	田中 駿耶	スギ針葉の植物生長抑制効果	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
15	高橋 孝悦, 芦谷 竜矢	鈴木 佑梨	スギ各部位逐次抽出物の藍藻類 <i>Microcystis aeruginosa</i> に対する増殖抑制効果	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
16	高橋 孝悦, 芦谷 竜矢	蒔苗 溪	木材がシロアリに与える影響について	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
17	高橋 孝悦, 芦谷 竜矢	寺崎 史也	ブナ抽出成分と抗菌活性に関する研究	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
18	LOPEZ Larry.	SASAHARA, SEIDEL, Felix	Soil Physical and chemical changes after slush and in a <i>Cryptomeria japonica</i> stand in a sharp slopes of Shonai	上名川演習林
19	LOPEZ Larry.	SUGIMOTO, BRANDT Alexander	Quantification of snowmelt water and its chemical contribution to forest soils	上名川演習林
20	LOPEZ Larry.	SAITO, SCHMIDT Andre-Sebastian	Effect of $\text{NH}_4^+/\text{NO}_3^-$ fertilization on seedling growth and its retention along a sharp slope in Shonai	上名川演習林
21	LOPEZ Larry.	ISHIDA Sachinobu, SATO Yuto	Environmental control of beech ( <i>Cryptomeria japonica</i> ) growth inferred from tree-ring width and $\delta^{13}\text{C}$ analysis	上名川演習林

## II. 生涯学習林としての利活用および地域との連携

### 1. 演習林施設開放事業

上名川演習林の施設開放事業の一環として、鶴岡市内の小学生を対象に、「森の学校」を7月19日(土)、10月18日(土)、2月1日(土)の3回実施し、植樹、炭焼き、バウムクーヘン作り、木の実・きの

こ採取、落ち葉や草花のしおり作り、雪の特徴と雪で遊び等を行った。

## 2. 地域との交流（国内と国際）

(1) 地元の名川森林保護組合が主催して毎年5月6日に定期的開催される入山式に参加するとともに、同日に入山式懇談会を主催し、学長をはじめ多数の関係者が参集し、地元と大学関係者との交流を深めた。

(2) 中国の東北林業大学の教員(5名)が演習林の研究サイトを見学し、日本・中国で共同研究の相談も行いました。

(3) 今年度ドイツ・ハノーバー大学から受け入れた留学生4名が、演習林での地域交流事業である森の学校に積極的に参加するほか、研究も実施した。

(4) さくらサイエンスプランに採択されたプログラムで、10月に中国の東北林業大学の学生(10名)及び教員(1名)が演習林を訪問し、山形大学の日本人学生と共同ゼミを実施した。演習林の代表的なサイトを見学した他、山形大学教員の英語による講義を受講した。

(5) 1月に山形大学の日本人学生と留学生(ドイツ・中国・ボリビア・インドネシア)が演習林においてゼミ(森林・雪の共生)を実施した。

## III. 教育研究支援および森林管理

### 1. 実習支援

演習林にて実施する実習計画に基づいて、事前に林道・歩道の点検整備、実習用具の準備・点検整備等を行う。実習時には指導教員の指示に従い送迎、実習指導支援補助等を行う。

### 2. 研究支援

演習林、生物多様性保全研究園を研究のフィールドとして利用する教員、学生からの要請に応えるよう、試験地・歩道の整備、現地送迎など、森林管理作業との調整を図りながら研究支援を行う。

### 3. 調査

1 林班り小班、2 林班ろ小班について樹種確認作業を行う。

### 4. 収穫事業

#### 1) スギ直営生産

木材流通センターと連絡を取りながら搬出し、虫害が発生する前の販売に努める。伐採予定地は5林班に小班。生産は120 m<sup>3</sup>を計画している。

採材にあたっては、市場需要を考慮した上で採材を行う。販路の確保が難しい根元曲がり材については学生実習での体験学習や木工品作り、あるいは薪ストーブ用の薪材等での有効利用を計画している。

#### 2) キノコ生産

芦沢・大徳沢林道が車両通行不能であり、原木となるブナ材の確保が困難であるため、主にクルミ材を用いてヒラタケ、ナメコを中心とした生産となる。またクリタケ、ムキタケ等新たな菌種について試験的に栽培を行う。

#### 3) カブ生産等

スギ伐採跡地(5林班に小班)について残材(枝、葉、雑木等)を焼払い、その後にアツミカブ、5林班へ小班については研究のため豆等を栽培する。

### 5. 育林作業

#### 1) 地拵え

4林班そ小班(ii)について刈払い、残材の集積・除去、5林班へ小班について残材の集積・除去を行う。5林班に小班については焼払い地拵えを計画している。

#### 2) 新植・補植

4林班そ小班(ii)について新植を行う。



樹種	場所	面積 (ha)	植栽本数
スギ	4 林班そ小班 (ii)	0.20	600

※植栽本数：3000 本 / ha

### 3) 下刈り

新植・補植地について、3 年生まで 2 回刈/年、4~6 年生まで 1 回刈/年を行う。

低木やツル類が繁茂し成長の阻害が見られた場合、6 年生以降も実施する。

樹種	場所	面積 (ha)	植栽年
スギ	4 林班そ小班 (ii)	0.20×2	2014
スギ	5 林班ち小班	0.15	2008
スギ	5 林班に小班 (i)	0.35	2009
スギ	5 林班に小班 (ii)	0.23	2010
スギ	12 林班へ小班	0.32	2011

### 4) 蔓切り・枝打ち・除伐

それぞれの作業を同一林小班で並行して行う。一部学生実習でも実施する。

・7 林班か小班：0.20 ha

### 5) 防火帯

防火対策、および隣接地との境界を明確にすることを目的に、4 年で演習林を 1 周するよう計画を立てている。今年度は早田川右岸南側 3.6 km を計画している。

## 6. 土木作業

### 1) 林道

早田線・大徳沢林道・芦沢林道の保守・管理・補修。融雪・降雨による崩壊土砂や落石等の撤去、側溝整備による排水路の確保、道路肩の低木・草本の刈取りによる路肩維持、砂利敷きによる路面整備及び冬季間の通勤路補修等。

### 2) 歩道

実習使用路線、要請路線の整備。

### 3) その他

降雨後の地滑り地や林道の巡視を行う。

秋期に橋梁の欄干へ幅員確認用の支柱を設置し、降雪の際には橋上の積雪状況を確認し、渡橋の際危険が無いよう適宜雪下ろしを行う。

## 7. 管理作業

### 1) 車両

車両の使用前点検・整備、および洗浄・格納等。

### 2) 除雪

管理棟・分室・格納庫および仮設物等の維持管理のための雪下ろし、雪下ろし後の除雪、および除雪機具の手入れ等。

### 3) その他

管理棟内の清掃・整理。通勤路、送電線への支障木の除去。入山式関連の諸準備、案内板・表示板の作製・設置および撤去、入林者・訪問者の送迎等。

## 8. 製炭作業

炭材の調達・調整等学生への指導、支援。

## 9. 苗畑作業

### 1) 育苗

耕耘、除草等。

## 2) 樹木管理

見本林、樹木園の草刈り等。

## 3) その他

苗畑管理室・仮設物内の整理、倒木等の整理、運搬。アメリカシロヒトリの消毒・駆除、および隣地、道路との境界の樹木の枝払い等、竹林の密度管理。

## 10. 会議等

演習林会議、健康診断、各種行事、入学試験補助業務、学位記授与式補助等。

### 11. 演習林開放事業

演習林施設開放事業として、鶴岡市内の小学生を対象とした『森の学校』を夏・秋・冬の年3回開催し、その準備・支援を行う。

### 12. 調書作成等

業務報告書、作業計画・実績、作業・運転日誌等の整理、作成、報告等、気象等の資料整理等。

## 社会教育部門

### 1. H26 年度の総括

#### 【地域貢献】

##### (1) “おしゃべりな畑” 公開講座の実施

平成 22・23 年度実施した公開講座「おしゃべりな畑」（全国中小企業団体中央会の「農商工連携等人材育成事業」を採択）を 24 年度より文科省事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」「食・農林水産分野の 6 次産業人材育成に関するモデル・カリキュラム実施と達成度評価の実証プロジェクト」の採択を受け、26 年も引き続き採択を受け実施を行った。

この講座は山形県の在来作物に関係する機関と連携し、在来作物の作り手の増加と、栽培、販売、加工、利用の促進を図り在来作物の高付加価値化を推進し、講義と実地研修を通じ、安全・安心な在来作物の栽培を実践する人材、及び在来作物を活かした農商工観の連携を進め、新たな食農ビジネスの創出や地域の食及び文化を理解し地域のリーダーとなれる人材の育成を図ることを目的としている。

26 年度は、22 年から 24 年度までの間に「やまがた在来作物案内人」に認定された者を対象に開講し、認定者 143 名中 34 名が受講、うち 29 名が「やまがた在来作物マイスター」に認定された。

26 年度カリキュラムの特徴は、これまで開講された講座のステップアップ講座として、生産支援、加工開発、流通・販売の 3 コースを設定し、本学部教員や外部の支援員の助言を受けつつコースごとに在来作物の利活用促進を図るためのワークショップやフィールドワークを実施したことである。

受講生はこの講座をきっかけに受講生間の連携を強め情報交換をしながら在来作物を含む農産物の生産拡大、直売の取り組み、新商品の創作、加工品の開発、アグリツーリズムに組み込みなど活動の場を広げている。

##### (2) “おしゃべりな畑” 認定者、受講生のフォロー

「おしゃべりな畑」の受講生、「やまがた在来作物案内人」認定者を対象に新たな事業に取り組む方々のフォローを行った。

- ・直売活動に対する支援。
- ・新規就農・直販に取り組む受講生への支援。

##### (3) 各機関との連携について

農業、食産業に関わる個人、法人、団体、企業、行政等を訪問し、大学とのなお一層の連携を進めた。

##### (4) 社会連携コーディネータの配置継続

- ・井上綾子（平成 24 年 10 月採用）

- ・小野愛美（平成26年7月採用）

### 【国際貢献部門】

- JICA 短期研修生の受け入れについて（7年目の受入れ）
  - ・アフリカ稲作収穫後処理コース（英語圏）
  - ・平成26年8月18日～9月25日
  - ・アフリカ9ヵ国15名の研修生
  - ・受け入れのコーディネータ：夏賀元康教授
- 教育強化
  - ・関連授業の実施（国際フィールド協力論、国際理解）
  - ・国際農業経済論（2011年度後期～）

## 6. 農学部図書館の概要等

昭和24年 5月	山形大学附属図書館農学部分館	発足
昭和47年12月	〃	竣工
平成3年 4月	受入業務を最後に全面的に電算化へ移行	
平成8年 4月	平日の時間外開館20時までとなる	
平成10年10月	土・日の時間外開館開始（13時～17時）	
平成15年 3月	山形大学附属図書館農学部分館	改修・増築
	面積 969 m <sup>2</sup>	収容可能冊数 58,000冊 座席数 120席
平成17年11月	土・日の時間外開館拡大（10時～17時）及び祝・休日の開館開始（10時～17時）	
平成20年 1月	平日の開館時間延長（8時45分～21時15分）	
平成21年 4月	平日の開館時間短縮（8時45分～21時）	
平成21年10月	「山形大学農学部図書館」に名称を変更	

### 開館時間

曜日	通常期	休業期(※)	
月～金	8時45分～21時	8時45分～17時	※夏季休業 8.1～9.30
土・日・祝・休日	10時～17時	閉館	冬季休業 12.25～1.10 春季休業 2.20～

### 蔵書数 (26.3.31 現在)

和書	81,550	洋書	17,137	計	98,687
----	--------	----	--------	---	--------

### 入館者数 (カッコ内は1日平均)

年度	平日	土・日・祝・休日	計
24	51,188 (215)	7,018 (84)	58,206 (181)
25	44,488 (186)	4,770 (63)	49,258 (156)
26	42,656 (178)	4,641 (59)	47,297 (149)

### 文献複写件数

年度	学内からの受付	学外からの受付	学外へ依頼
24	33	168	236
25	21	151	297
26	42	123	263

## 7. 大型設備の設置状況

	一般設備費	特別設備費	特別教育研究経費	施設整備補助金	設備整備補助金	備考
昭和62年度		作物群落生理測定装置				
平成2年度	エネルギー分散形X線分析装置					電子顕微鏡
3年度	物性精密計測試験装置					人工気象装置
5年度		多核種用高磁場核磁気共鳴装置				NMR
6年度	ガスクロマトグラフ質量装置					
7年度		高性能質量分析装置				
		栽培環境条件設定装置				ファイトロン
8年度	フリーラジカルモニタ					
9年度	3次元データビジュアル化解析システム	遺伝情報解析装置				
10年度		スペースコロレーションシステム				
11年度		農業用ロボット実験システム				
15年度		環境負荷軽減物質成分分析システム				
21年度			地域在来作物の高度化利用研究 (質量分析装置)	微量成分解析装置	N・C安定同位体比測定用質量 分析システム	
22年度			地域在来作物の高度化利用研究 (共焦点レーザー顕微鏡)			
23年度					積雪寒冷地農林業気象観測システム 植物・土壌成分分析システム	
24年度			新・里山生態系管理システムの構築 (ガスクロマトグラフ質量分析装置) (高所作業台車)		卓上走査型電子顕微鏡 開放型光合成蒸散測定システム	
26年度				高分解能核磁気共鳴装置		NMR

## 8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要

### 山形大学農学部

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23  
 TEL 0235-28-2805  
 FAX 0235-28-2812  
 ホームページアドレス <http://tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp/>

### 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

〒997-0369 鶴岡市高坂字古町5-3  
 TEL 0235-24-2278  
 FAX 0235-24-2270

### 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林

〒997-0405 鶴岡市上名川字早田川10  
 TEL 0235-53-2755  
 FAX 0235-53-2755

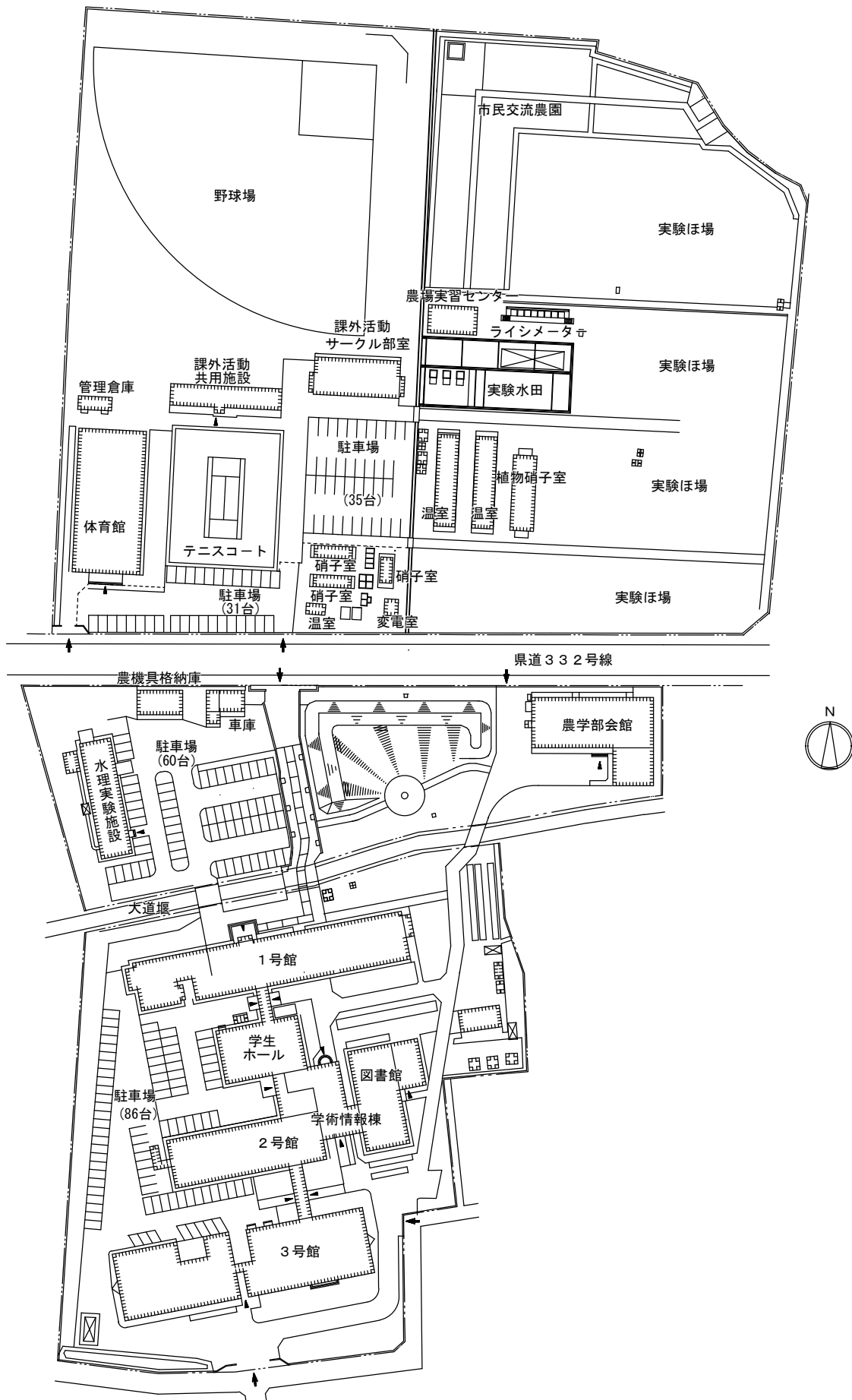
### 土地

区分	面積 (㎡)
農学部	62,506
農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場	240,655
農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林	7,530,908
農学部附属やまがたフィールド科学センター生物多様性保全研究園	7,871
学生寮 (啓明寮)	6,756
職員宿舎	4,318
計	7,853,014

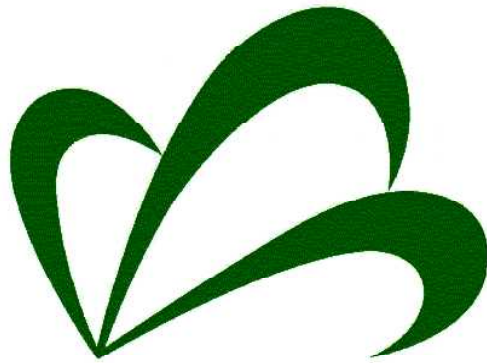
### 建物

区分	構造	築年度	面積 (㎡)
水理実験施設	S1	平成17	321
3号館	SR6	平成15	3,266
3号館	SR6	平成12	3,103
2号館	R5	昭和47	3,431
学生ホール棟	R1	昭和46	427
1号館	R5	昭和44	5,795
図書館	R2	昭和47	820
学術情報棟	S2	平成14	384
学術情報基盤センター	R1	昭和61	112
農学部会館	R2	昭和51	1,090
体育館	S2	昭和45	1,083
課外活動施設棟	R2	昭和57	406
	S2	平成20	572
その他			1,041
計			21,851

# 配置図







Yamagata University  
Faculty of Agriculture